

第九回
万引に関する全国青少年意識調査
分析報告書

平成 26 年 6 月

調査：特定非営利活動法人 全国万引犯罪防止機構

協力：文部科学省・警察庁

ごあいさつ

ここに平成 25 年度に実施した「第九回 万引に関する全国青少年意識調査」に関する報告書をお届けします。

平成 17 年度に始まったこの調査も 9 年目を迎えました。「青少年の万引」に注目し、毎年 1 万人以上の調査が連続で行っているということは世界にも例を見ない調査研究であると自負しています。この調査研究が可能となったのは、アンケートにお答えいただいた全国の小・中・高校の児童生徒の皆さんを初め、文部科学省初等中等教育局児童生徒課及び各都道府県教育委員会等教育関係者、警察庁生活安全局少年課及び各都道府県警察関係者、特定非営利活動法人全国万引犯罪防止機構（万防機構）の会員各位及び分析・編集を担当いただいた瀧川先生・児玉先生・奥田先生のご協力によるものであります。ここに深くお礼を申し上げます。

青少年の万引は減少してきているとはいえ、平成 25 年の認知件数は 21,799 件にもなっており、青少年の犯罪の中で最も多いのです。このことを忘れず、青少年の将来を考えながら、対処していかなければなりません。

これまでの報告書で指摘されてきたように、誰も万引は不正な犯罪であるという「規範的知識」はあるのですが、問題は、「万引などはしない」という「規範意識」が欠如していることです。この「規範意識」を育むには、規範的知識を具現化する、内面からの動機づけが必要不可欠です。重要なことは、権威によって法律や道徳を強制するだけでなく、本人みずからが進んで社会規範の必要性を考え、行動する機会を家庭教育、教育現場、地域社会のさまざまな営みの中で、大人たちが働きかけ続けることです。

この報告書が、大人が何をしないといけないかを考える一助となることを希求します。特に、近年万引犯罪が増え続けている高齢者の方への警鐘になればと思います。

平成 26 年 6 月

特定非営利活動法人全国万引犯罪防止機構
理事長 河上 和雄

目 次

本調査のねらい	1
1. 調査の目的	1
2. 調査の方法と特徴	1
3. 調査項目	2
第1章 自分の生活に関わる事柄についての満足度	4
1. 自分の生活に関する満足度	4
2. 満足度の小間間の相関	7
3. 満足度高群・中群・低群	9
第2章 万引に対する基本的意識	11
1. 万引に対する自分の考え	11
2. 他の非行と比べた場合の万引に対する意識	14
3. 万引をしてはいけない理由	16
4. 万引をする理由	19
第3章 万引との関わり	22
1. 万引に誘われた経験の有無	22
2. 万引に誘われたときの対処	24
3. 店員として万引を目撃した場合の対応（中高生のみ）	27
4. 万引しやすい店を知っているか（中高生のみ）	28
5. 万引しやすい店の種類（中高生のみ）	29
第4章 万引少年に対する対応	31
1. 店は警察に通報すべきか（中高生のみ）	31
2. 「そう思わない」の理由（中高生のみ）	32
3. 日頃の保護者の対応	34
4. 万引後の保護者と子どもの対応（中高生のみ）	36
5. 万引をしなくなるための対策	37
6. 効果的だと思う万引対策—店舗編—（中高生のみ）	40
7. 効果的だと思う万引対策—学校・警察編—（中高生のみ）	42
まとめ —調査結果の概要—	45

調査票	48
万引についての全国青少年意識調査・小学生用	49
万引に関する全国青少年意識調査・中高生用	52
集計表	57
本調査の回答集計	58
小学生・中学生・高校生への共通質問	58
中学生・高校生のみへの質問	78
順位相関表	86
経年変化のグラフ	92
全国・東京都万引統計 平成 25 年	97
編集後記	99

本調査のねらい

1. 調査の目的

本調査の目的は、「万引犯罪に対する青少年の意識を、全国統一の調査票によって把握することによって、年代別・男女別・地域別分析等の基礎データを得るとともに、行政・警察当局が防犯施策、青少年団体、街の防犯ボランティア活動に資すること」（「第1回調査結果・分析報告書」）にある。

2. 調査の方法と特徴

本調査は質問紙法に基づくアンケート調査である。調査対象校のサンプリングには「全国学校総覧 2014年版」を台帳として、全国の小学校、中学校、高校の中から各47校、合計141校を無差別に抽出し、各学校の教室単位に調査票を配布した。調査の依頼に当たっては、あらかじめ調査票送付のほぼ10日前までに、主意書・調査票サンプル・参考資料等を全対象校に送付して予告を行った。同時に、各都道府県教育委員会には、文部科学省より調査の趣旨・目的等の通知をしていただき、調査に対する協力を依頼した。調査期間は平成25年12月から平成26年2月末までであった。

調査対象者	対象校	回答校	調査票数	回収数	回収率
小学校5年	47校	41校	2,350票	2,238票	95.2%
中学校2年	47校	45校	4,700票	4,787票	101.9%
高校2年	47校	44校	4,700票	4,845票	103.1%
計	141校	130校	11,750票	11,870票	101.0%

送付した調査票セットは、担任教師により、教室内で対象児童生徒に配布された。調査票は無記名で、回答者自身が回収用の封筒に入れ、糊付けして担任に提出した。総回収数は11,870票、回収率は101.0%である。なお、回収率の計算では、調査対象予定者数以上に予備票（各校20票）を使って回答した学校が複数あったため、中学・高校では100%を超えている。

本調査の回収率は全体として極めて高い。各都道府県教育委員会及び調査票を受け取られた各小中学校のご協力の賜である。関係者のご厚意に心からの感謝の意を表明しておきたい。これは、万引犯罪に対する関係者全員の関心の高さであると言える。

本調査目的には年代別・男女別と並んで「地域別分析等」という表現がある。また本報告書には、必要に応じて地域別データへの言及が見られる。しかし、これまでの報告書でも触れたように、本調査の地域別データは各都道府県全体の青少年の意識を代表して反映しているわけではない。調査票の配布が各都道府県で、小学校、中学校、高等学校各1校に限られるからである。そのため、その1校の協力が得られなければ、その県について当

該学年のデータが得られない。今回の調査で協力を頂けなかったのは、小学校6県、中学校2県、高校3県である。

また、各県当たりの回収数に大きな差がある。小学校では最大103票—最小28票、中学校は最大179票—90票、高校では最大225票—最小74票となっている。

したがって、回収票の分布には上記の二つの点で偏りがあるが、全体のデータとして、わが国における青少年意識調査として見るなら、こうした点は無視しても差し支えはないであろう。本調査の規模を考えると、さまざまな事情でこれ以上調査対象校を増やすことはできない。

3. 調査項目

今回は昨年調査で、設問数を少数に精選し、日常生活との関連を含めて、可能な限り児童生徒による万引に対する意識の実態を把握する内容が満足できるものであったことから、昨年通りの調査項目とした。以下に項目を並べる。このうち、(小中高)とあるのは、小学生・中学生・高校生に共通の設問であり、(中高)とあるのは、中学生と高校生のみへの設問である。設問の順番は必ずしも以下の順ではない。

- ① (小中高) 万引についてどのように考えているか
- ② (小中高) 万引と他の逸脱行為との比較—第8回調査から修正追加
- ③ (小中高) 万引をしてはいけない理由は何か—第8回調査から追加
- ④ (小中高) 子どもが万引をする理由は何か
- ⑤ (小中高) 万引に誘われたことがあるか
- ⑥ (小中高) 万引に誘われたらどうするか—第6回調査から追加
- ⑦ (小中高) 万引をさせないための保護者の接し方—第8回調査から追加
- ⑧ (小中高) 子どもが万引をしなくなるためにはどうしたらよいか
- ⑨ (中高) アルバイト店員として、子どもの万引を目撃したらどうするか—第7回調査から追加
- ⑩ (中高) 万引しやすい店を知っているか—第7回調査から追加
- ⑪ (中高) 万引をした子どもを捕まえた店は警察に通報すべきか
- ⑫ (中高) 万引をした子どもや保護者(親)はどのような償いをすべきか
- ⑬ (中高) 万引をさせないための店の取り組みを知っているか
- ⑭ (中高) 万引をさせないための学校や警察の取り組みを知っているか
- ⑮ (小中高) 日常生活における7種類の満足度評定—第8回調査から追加

第7回の調査から各設問について「ひとつだけ」を回答してもらう単一回答方式に改め、それまでの複数回答と回答パターン的一致が見られたため、単一回答方式による統計処理が大幅に改善できて、設問間の全体的な関係性が見えてきた。

とりわけ、今回の調査で工夫した設問の処理がある。昨年から小学生の間9・中高生の間15で、日常的に判断している自己満足度（自分自身、学校、成績、保護者、友達など）の評定を求めているが、この評定平均値が有効な指標となることがわかったため、今回は、この指標を用いて、生活満足度の高群・中群・低群という群分けをして、その他の設問の回答パターンを見たことである。これによって、自己満足度と他の設問との関わり合いが明確となった。その結果は本文をお読みいただきたい。

最後に、昨年も記載したが、本調査報告書における過去の調査結果に関する言及の仕方について述べておきたい。第1回調査が実施されたのは平成17年12月～平成18年1月であり、その調査結果は「万引に関する全国青少年意識調査報告書」（平成18年6月）として公表された。「年度」という表現を使うと、調査期間は平成17年度であり、その調査結果は平成18年度に報告された、ということになる。少々紛らわしいし、混乱の原因にもなりそうである。そこで、第7回の報告書から、過去の報告書を参照する場合は、発行回数あるいは発行年とした。たとえば、今回の調査は「第9回報告書」あるいは「平成26年の報告書」ということになる。

第1章 自分の生活に関わる事柄についての満足度

第1章では、自分の生活に関わる事柄についての満足度に関する調査結果を報告する。この調査結果は、その他の質問項目への回答傾向との関係を見るべく、後の章で折にふれて言及されることになる。

1. 自分の生活に関する満足度

(小) 問9. あなたは次の問9-1～7のことがらについて、どの程度満足していますか。それぞれ自分にあてはまる数字(1～5)からひとつだけえらんでください。

(中高) 問15. あなたは次の問15-1～7のことがらについて、どの程度満足していますか。それぞれ自分にあてはまる数字(1～7)からひとつだけ選んで下さい。

1 「とても不満である」 2 「あまり満足していない」

3 「どちらでもない」 4 「まあまあ満足している」

5 「とても満足している」

(小) 問9-1. (中高) 問15-1. 自分自身について (1 2 3 4 5)

(小) 問9-2. (中高) 問15-2. 自分の保護者について (1 2 3 4 5)

(小) 問9-3. (中高) 問15-3. 学校での生活について (1 2 3 4 5)

(小) 問9-4. (中高) 問15-4. 自分の成績について (1 2 3 4 5)

(小) 問9-5. (中高) 問15-5. スポーツや習い事など、学外での活動について
(1 2 3 4 5)

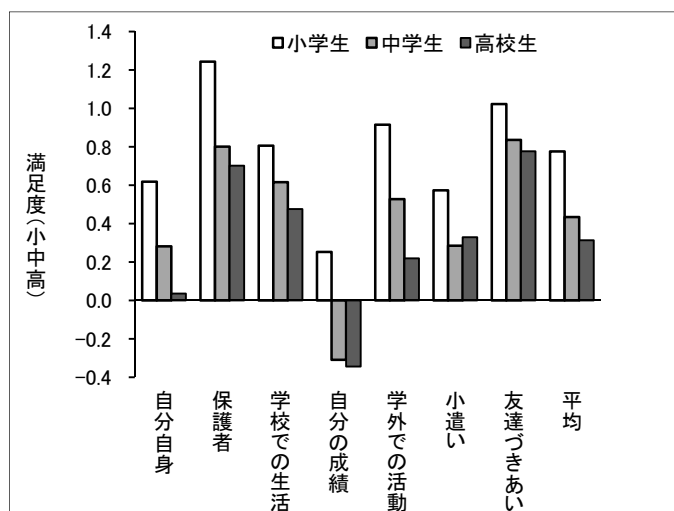
(小) 問9-6. (中高) 問15-6. 自分の小遣いについて (1 2 3 4 5)

(小) 問9-7. (中高) 問15-7. 友達づきあいについて (1 2 3 4 5)

自分自身や自分の生活についてどのような評価をしているかに関する設問(7つの小問群)である。本設問は、万引等の非行に関する規範意識が、何らかの仕方で、小中高生の生活に関わる自己評価(満足度)と関係があるだろうという見込みから、前回調査より新たに設けたものである。すなわち、本設問の回答と他の設問の回答との関係を見ることで、自分の生活に関わる事柄についての自己認識と、万引等の非行に関する規範意識との関係を見ることができる、という見込みをもって、本設問は作られている。自分自身が各項目についてどうあると考えているか(自己認識)と、万引等の非行についてどのように振る舞うべきであると考えているか(規範意識)との間に何らかの関わりがあるとすれば、万引等の非行についての教育の方針、内容等を検討する際には、少年の自己認識についても考慮される必要があるということになる。

以下、7つの小問での満足度を比較するために、「とても不満」を-2、「あまり満足していない」を-1、「どちらでもない」を0、「まあまあ満足」を+1、「とても満足」を+2とし

て、各小問での満足度評定の平均を算出した。なお、この算出対象となった回答者は、満足度の7項目の質問すべてに回答した者（小：2,119名、中：4,676名、高：3,672名）のみである。右図の右端には7つの小問を合算したときの平均を示した。



なお、生活満足度の平均値の意味合いについて、以下の点に注意されたい。上記グラフの縦軸で、

0は「どちらでもない」となり、プラスは満足している方向であり、マイナスは不満な方向となる。また、7項目全体の平均(図の右端)は、日常的な生活における満足度をあらわすトータルな指標として使うことができると考え、以下の章でも、生活満足度と呼ぶ場合は基本的に、この7項目を合算したときの平均を用いることにする。

以下、各項目の満足度平均について報告するが、これら一群の設問は、前回調査から始めたものであるため、前回調査と比較したときの回答傾向の違いにその都度言及することで、回答傾向の頑健性を見ることとする。

■自分自身についての満足度

自分自身についての満足度平均は、小0.62、中0.28、高0.04であり、小学生における自分自身への満足度平均の高さと、高校生における自分自身への満足度平均の低さが顕著である。他の満足度平均と比較して、高校生の自分自身への満足度平均の低さは際立っている。これらの傾向は、前回調査と同じである。

■自分の保護者についての満足度

自分の保護者についての満足度平均は、小1.24、中0.80、高0.70であり、小学生における自分の保護者への満足度平均の高さが際立っている。また、中高生では、自分の保護者への満足度平均はだいたい同程度である。これらの傾向も、前回調査と同じである。

■学校での生活についての満足度

学校での生活についての満足度平均は、小0.81、中0.62、高0.48であり、小学生と中高生との差が他の項目に比べてやや小さい。これも前回と共通の傾向である。

■自分の成績についての満足度

自分の成績についての満足度平均は、小0.25、中-0.31、高-0.34であり、小中高で全体

的に低い。とくに中高で低く、7項目を通じて唯一、マイナスである。これは前回調査と共通の傾向である。やはり、受験勉強を契機に学習面での目標設定が本格化することにより、目標に向けて客観的に厳しく自分の学力を測定・評価する傾向が中高生に強いということであろう。

■学外活動についての満足度

学外活動についての満足度平均は、小 0.92、中 0.53、高 0.22 であり、自分の保護者についての満足度に次いで、小学生における満足度平均の高さが際立っている。また、自分自身についての満足度と同じく、中学生と高校生の差が大きいのも特徴的である。高校生になると、学外での活動が受験勉強に限定あるいは制約されがちなことと関係があるかもしれない。

■自分の小遣いについての満足度

自分の小遣いについての満足度平均は、小 0.57、中 0.29、高 0.33 であり、小学生の小遣いへの満足度平均は、中高生よりも高い。また、中高生ではほぼ同程度の満足度平均だが、高校生が中学生を若干上回っているのは、前回と共通する特徴である。小学生と中高生の差については、成長とともに購入したいものも高価になってくるために自分の小遣いに満足できなくなっていくからだと推測される。また、中高生でそれほど満足度に差がないのは、中学生と高校生が平均的にもらっている小遣いの金額と、購入したいものの価格との均衡が保たれているからだとも考えられるだろう。

■友達づきあいについての満足度

友達づきあいについての満足度平均は、小 1.02、中 0.84、高 0.78 であり、小学生が中高生に比べると高いとは言え、中高生の満足度平均は、他の項目と比べるとこの項目でのものが最も高く、前回調査と同様、全体として高い値を示している。小中高生を通じて、友達づきあいに相当程度満足しているという傾向が見られる。

■全体の生活満足度（7項目平均）

以上の7項目を合わせた全体の平均は、それぞれ小 0.78、中 0.43、高 0.31 である。以後、これを「生活満足度平均」と呼び、他の設問への回答傾向との関係を見るために用いる。

■生活満足度の男女差

最後に、7項目と全体平均それぞれについて、男女差を見てみることにしよう。今回は、前回とは異なり、それぞれの項目について、性別について回答があったもののみを対象に、男女別の満足度平均を算出した。

自分自身について

小：女 0.58<男 0.68、中：女 0.17<男 0.39、高：女-0.01<男 0.09

保護者について

小：女 1.28>男 1.25、中：女 0.85>男 0.77、高：女 0.77>男 0.66

学校生活について

小：女 0.83<男 0.85、中：女 0.60<男 0.65、高：女 0.51>男 0.47

成績について

小：女 0.26<男 0.29、中：女-0.39<男-0.24、高：女-0.35=男-0.35

学外活動について

小：女 0.87<男 0.98、中：女 0.45<男 0.61、高：女 0.24>男 0.21

小遣いについて

小：女 0.62>男 0.58、中：女 0.29=男 0.29、高：女 0.35>男 0.33

友達づきあいについて

小：女 0.91<男 1.18、中：女 0.74<男 0.94、高：女 0.79<男 0.80

7項目平均

小：女 0.76<男 0.83、中：女 0.39<男 0.49、高：女 0.33>男 0.32

基本的に、小中高を通じて、男子の満足度が高いという、ほぼ同じ傾向が見られる（ただし、高校生のみわずかに異なっている項目もある）。その中で、小中高すべてにおいて明らかに女子の満足度の方が男子よりも高い項目は、保護者についての満足度であった。これは、後の保護者に関わる設問の中で確認されることになる傾向でもある。

以上、全体としては、前回調査と同じ傾向が見られる。小学生はすべての項目について基本的に満足度平均が高く、中高生になると、それぞれの満足度平均が低いということである。ただし、満足度平均1を越える項目は小学生でも2項目のみであり、全体として満足度平均が低いという印象は否めない。しかしながら逆に、満足度平均が負の値を示すのは、「自分の成績」についてのみであり、小中高を通じて多くの子どもたちが大きな不満を抱いているというわけではないこともわかる。

小中高を通じた顕著な傾向を挙げるなら、保護者や友達などの人間関係については他の項目に比べて全体として満足度平均が高い。とくに小学生については保護者への満足度が他の項目に比べて比較的高く、中高生については友達への満足度平均が比較的高い。

2. 満足度の小問間の相関

複数の項目にわたる満足度の全体的な構造を把握するために、各項目の満足度が相互にどのような関わりをもっているのかを見るべく、本設問の各小問の満足度について、順位

相関係数（スピアマンのロー）を算出した。（巻末の順位相関表を参照されたい。）

前回調査と同様、全体に中間的な相関が見られる。小問間で相関が特に高いもの（.5以上）は、小学生の「自分自身」と「学校生活」（.510）、および、小中高の「学校生活」と「友達づきあい」（小.561、中.638、高.633）である。「自分自身」と「学校生活」の満足度の相関は、中高生についても比較的高い（中.485、高.453）ため、小中高を通じて高いと考えてよからう。また、「自分自身」と「保護者」の満足度の相関は、小中学生では比較的高く（小.481、中.474）、高校生ではそれほど高くない（.390）。

他方、小問間で相関が特に低いもの（.2未満）は、中高生での、「保護者」と「自分の成績」（中.169、高.150）、および、「自分の成績」と「友達づきあい」（中.195、高.117）である。「自分の成績」と「友達づきあい」の満足度の相関は、小学生についても比較的低い（.291）ため、小中高を通じて低いと考えてよからう。また、「自分の成績」と「友達づきあい」の間（小.291>中.195>高.117）、および、「自分の成績」と「保護者」の間（小.316>中.169>高.150）については、学年が上がるにつれて相関が低くなっていく。これは、前回調査と同様の結果であり、年齢とともに、自分の成績を保護者や友達との関係の良否から切り離して自己評価していく様子が窺われる。

小中高に共通する満足度の構造を大まかに示すなら、以下のようなになる。学校生活への満足を軸とした強い結びつき（高い相関）のグループと、成績への満足を軸とした弱い結びつき（低い相関）のグループに大別される。学校生活への満足に対して、自分自身への満足、保護者への満足、友達への満足が強い結びつきをもっている。他方、成績への満足に対して、保護者への満足、学校への満足、学外活動への満足、小遣いへの満足、友達への満足はあまり結びつきをもたない。逆に言えば、成績への満足についてそれなりに結びつきがあると言えるのは、自分自身への満足のみである。なお、自分自身への満足は、他の6項目すべてと基本的に中程度以上の結びつきをもっており、成績への満足と対照的である。

すべての項目の満足度全体の平均との間で、各項目の相関を見ると、成績への満足は、特に中高生で相関が低めである（小.660、中.511、高.477）。それに対して、自分自身への満足は、特に小中学生で相関が非常に高く（小.750、中.715、高.676）、友達づきあいへの満足は、特に中高生で相関が非常に高い（小.673、中.721、高.706）。小中高を通じて、平均との間の相関がきわめて高いのは、学校生活への満足である（小.728、中.758、高.751）。以上、最も低めの相関を示すものについても十分な結びつきがあり、生活満足度平均は、全体的な満足度指標として妥当であると考えられる。

第2章以降で随時言及されることになるが、満足度が高い回答者と低い回答者との間に万引に関する他の設問に対する回答傾向の違いが顕著に見られるとすれば、それは、自分、友達、学校への満足と、全体の満足度平均との相関が高いことに要因を求めることができるかもしれない。直観的には、自分自身や友達、学校での生活に満足していない少年は、それを埋め合わせるために万引への勧誘に屈しやすい精神状態にあるというのは、十分に

納得のいくものである。たとえば、友達の誘いに乗って万引をしてしまう少年は、それを断れば友達に嫌われるという恐れをもたずにはいられないであろう。ここで、次の点に注意されたい。すなわち、本調査から窺われるのは、友達づきあいに満足していない少年は、逸脱に寛容な精神状態をもちがちである（あるいは、逸脱に寛容な精神状態をもつ少年は、友達づきあいに満足しにくい）ということであって、友達づきあいに満足していない少年が実際に万引をしがちだということではない、ということである。

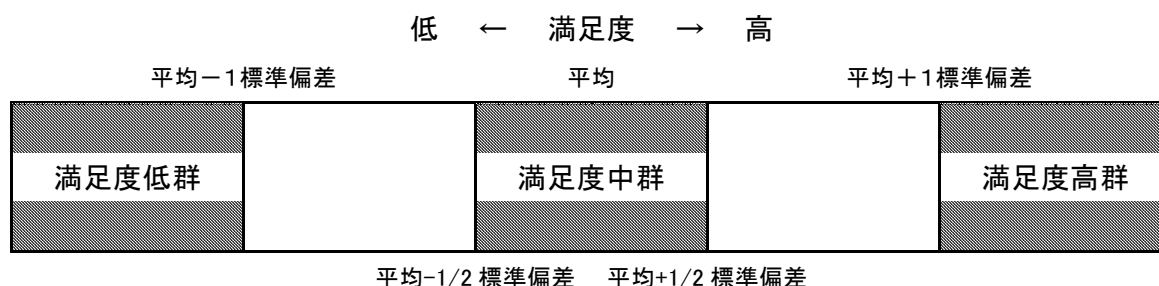
詳細は設問ごとの分析報告に譲るとして、ここでは、概して、万引に対する意識の持ち方は、少年が自分自身、友達関係、学校生活にどの程度満足しているかに左右される、という見込みを立てておくことにしよう。前回調査から導入した満足度と規範意識との相関はそれなりに高いものと言ってよさそうであり、そうであれば、万引しにくい店舗環境づくりや厳罰化もさることながら、長期的な観点から見れば、少年たちの日々の生活における満足度向上が万引への有効な対策たりうると、経験的な証拠に基づいて提言することができよう。

3. 満足度高群・中群・低群

今回の調査結果の分析に当たって、満足度の回答傾向にしたがって、「満足度高群」、「満足度中群」、「満足度低群」の3つの群に分類し、群別の各設問への回答傾向の違いを見ることにした。

小学生について、問9-1~7における7項目の満足度の回答の平均を「個人の満足度」と考える。全回答者2,238名のうち、問9の7項目すべてに回答があった者2,119名を対象とし、その平均(0.793)より、1標準偏差(0.804)以上高い回答者328名を「満足度高群」、1標準偏差以上低い回答者285名を「満足度低群」、また平均より1/2標準偏差の上下範囲に入る回答者(780名)を「満足度中群」として分類した。

満足度の高群・中群・低群の群分け方法



中学生について、問15-1~7における7項目の満足度の回答の平均を「個人の満足度」と考える。全回答者4,788名のうち、問15の7項目すべてに回答があった者4,676名を対象とし、その平均(0.439)より、1標準偏差(0.722)以上高い回答者676名を「満足

度高群」、1標準偏差以上低い回答者 755 名を「満足度低群」、また平均より 1/2 標準偏差の上下範囲に入る回答者 (1,538 名) を「満足度中群」として分類した。

高校生について、問 15-1~7 における 7 項目の満足度の回答の平均を「個人の満足度」と考える。全回答者 4,845 名のうち、問 15 の 7 項目すべてに回答があった者 4,722 名を対象とし、その平均 (0.318) より、1 標準偏差 (0.680) 以上高い回答者 876 名を「満足度高群」、1 標準偏差以上低い回答者 600 名を「満足度低群」、また平均より 1/2 標準偏差の上下範囲に入る回答者 (2,196 名) を「満足度中群」として分類した。(なお、第 2 章以降で取り扱う各項目での各群の人数がこれより少ないのは、当該項目で回答が空白であったことによる。)

以下の章で、満足度の高中低の群分けに言及されるときには、上記の定義に基づいていることに注意されたい。

第2章 万引に対する基本的意識

第2章では、万引に対する基本的な知識に関する質問項目について、調査結果を紹介し、解説を付す。

1. 万引に対する自分の考え

(小) 問1. 万引についてあなたはどのように考えていますか。ひとつだけえらんでください。

(中高) 問1. 万引についてあなたはどのように考えていますか。ひとつだけ選んでください。

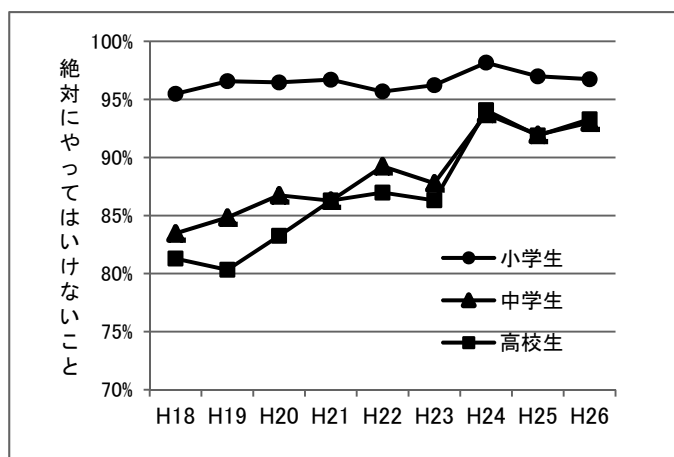
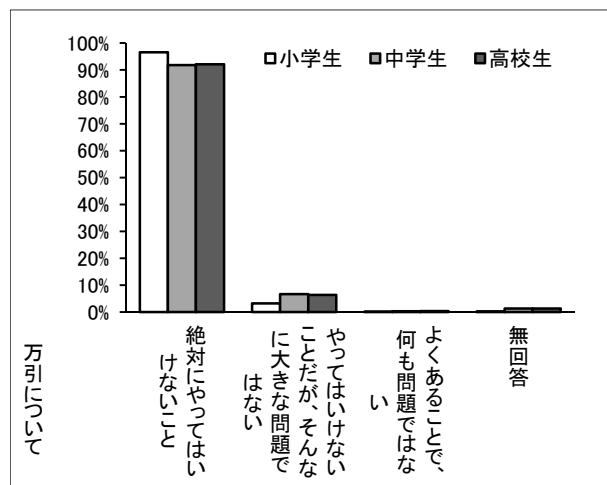
1. 絶対にやってはいけないこと
2. やってはいけないことだが、さほど問題ではない
3. よくあることで、何も問題はない

万引について青少年がどのような考えをもっているかを問う設問である。右図にあるように、万引は「絶対にやってはいけないこと」と答える者が、小中高のいずれにおいても9割以上を占めている。万引は許されない行為であるという知識は、ほとんどの青少年が共有していることがわかる。

小中高で比較すると、「絶対にやってはいけないこと」と答えた者の割合は、小96.6%、中91.8%、高92.1%

であった。これに対して、「やってはいけないことだが、さほど問題ではない」と答えた者の割合は、小3.2%、中6.7%、高6.3%であった。さらに、「よくあることで、何も問題はない」と答えた者の割合は、小0.1%、中0.3%、高0.3%であった。ごくわずかな差でしかないが、小学生に比べて中高生に「問題ではない」と答える者の割合が多いのは、前回までとも同様の傾向である。

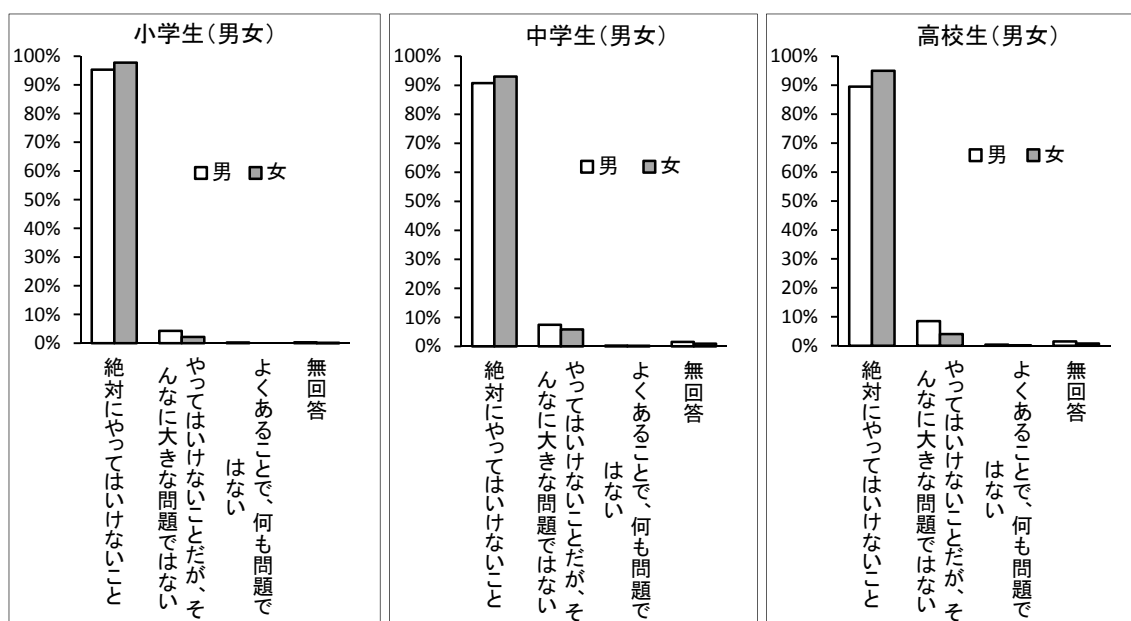
右の図は、この問いに対して「絶対にやってはいけないこと」と答



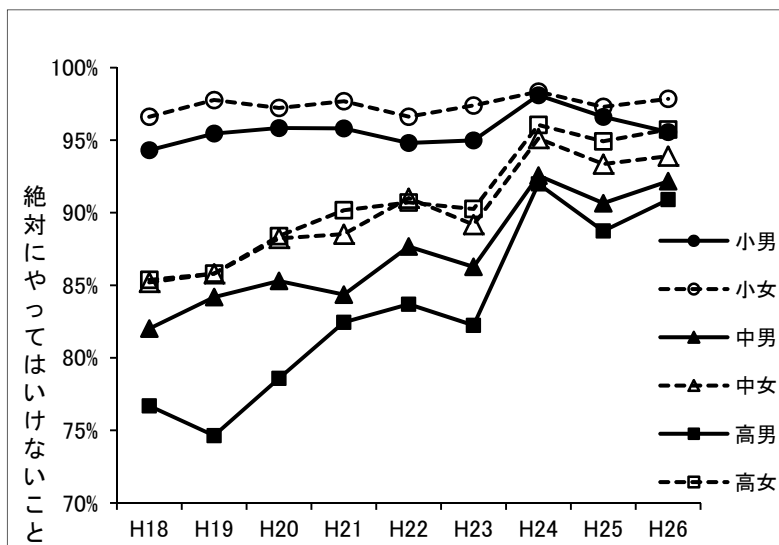
えた者の割合の経年変化を示したものである。小学生では調査を開始した平成18年以降、つねに95%という高い割合を示していたのに対し、中高生では平成18年は8割前半だった。しかし、それ以降徐々に回答割合が高くなり、平成24年以降は9割を超えるようになった。この原因については明らかでないが、一つには、平成18年の刑法改正により万引を含む窃盗罪に罰金刑が新設されて以来、万引が犯罪であることについての啓発・教育活動が行われ、中高生の間でも認知が広まった可能性が考えられる。また、少子化の影響で、中高生にも適切な教育が学校や家庭を通じて行われるようになった可能性も考えられる。今後も検討が必要であろう。

なお、平成18年から平成24年までは、小学生にのみ「万引とはお金を払わずに、お店の商品をもってゆくこと」という定義を提示したうえで、「万引の意味を知っているか」という問いを尋ねていたが、常に99%以上が「知っている」という答えていたため、平成25年以降は設問を廃止した。小学校5年生までにはほぼ全員が万引という言葉を知り、95%以上が「絶対にやってはいけないこと」と考えていることになる。規範意識に関してもさまざまな影響を受ける思春期において、小学生と同様あるいはそれ以上の割合で「万引は絶対にやってはいけないこと」と考える中高生をどのように育ててゆくかは、今後の大きな課題であろう。

なお、男女差に関して言えば、下の図にあるように、「絶対にやってはいけないこと」と答えたのは小学生で男95.3%、女97.8%、中学生で男90.1%、女93.0%、高校生で男89.5%、女95.0%であり、中高になるにつれ男女差が大きくなっている。「やってはいけないことだが、そんなに大きな問題ではない」についても同じ傾向がある(小・男4.3%、女2.2%、中・男7.4%、女5.8%、高・男8.5%、女4.1%)。男女差は中学生よりも高校生で大きくなっている。H18年以降の経年変化を見ても、同じような傾向が明らかに見てとれる(次ページの図)。

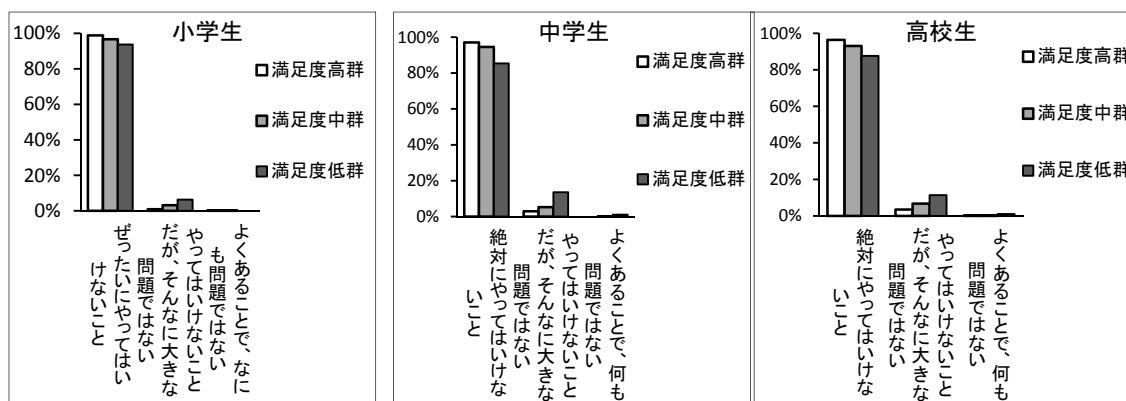


どうしてこのような男女差が生じるのかについては必ずしも明らかでないが、後に見るように中高生では「この一年の間に万引に誘われた経験がある」と答えるのは女子よりも男子に多いため、男子の方が身近に万引を見聞きすることが多いことが影響しているのかもしれない。いずれにせよ、



万引防止の教育においては、男子において規範意識が若干低い傾向があることに留意して、教育を実施する必要があるだろう。

第1章では、小学生問9-1~7および中高生問15-1~7における満足度の回答に基づき、平均満足度によって、満足度高群、満足度中群、満足度低群の三つの群を設定した。下の図は、「満足度高群」、「満足度中群」、「満足度低群」のそれぞれの群の本設問への回答傾向の違いを見たものである。すると、小中高生全般に関して、「万引は絶対にはいけないこと」と答えた者は、満足度高群、中群、低群の順で多く、反対に、「やっではないけど、さほど問題ではない」と答えた者は、高群、中群、低群の順で少なかった（「よくあることで、何も問題はない」と答えた者に関しては、回答者が少ないため分析の対象としない）。前回調査と同様、生活満足度が高い者ほど、規範意識も高く、反対に生活満足度が低い者ほど、規範意識も低いという結果が見てとれる。この関連がどのようなメカニズムを持つのかについてはさらなる検討が必要であるが、今回の調査の他の設問でも似た傾向がたびたび見られることになる。



2. 他の非行と比べた場合の万引に対する意識

(小中高) 問2. 万引と他のいくつかの行為を比べると、どちらが悪いと思いますか。次の問2-1～6で、それぞれ1～3からひとつだけえらんでください。

問2-1. 万引と、放置自転車の乗り逃げを比べると、どちらが悪いと思いますか

1. 万引のほうが悪い 2. 同じくらい悪い 3. 乗り逃げのほうが悪い

問2-2. 万引と子どもがお酒を飲むことをくらべると

1. 万引のほうが悪い 2. 同じくらい悪い 3. お酒を飲むほうが悪い

問2-3. 万引と子どもがタバコを吸うことをくらべると

1. 万引のほうが悪い 2. 同じくらい悪い 3. タバコを吸うほうが悪い

問2-4. 万引といじめをくらべると

1. 万引のほうが悪い 2. 同じくらい悪い 3. いじめのほうが悪い

問2-5. 万引と建物に落書きをすることをくらべると

1. 万引のほうが悪い 2. 同じくらい悪い 3. 落書きのほうが悪い

問2-6. 万引と人に暴力をふるうことをくらべると

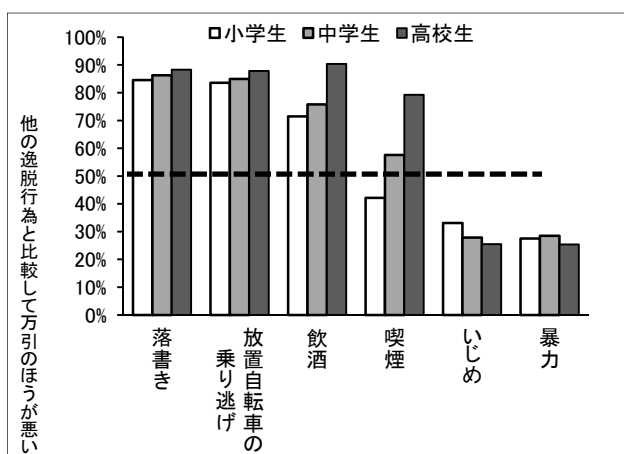
1. 万引のほうが悪い 2. 同じくらい悪い 3. 暴力のほうが悪い

今回は前回調査（前回報告書 11-13 頁）に引き続き、青少年の規範意識をさらに深く知るために、小中高生に対して、他の身近な非行との比較という形式で万引に対する意識を尋ねた。

これら 6 つの比較項目において、まず、「万引と同じくらい悪い」という回答の割合を見てみよう。高校生と中学生における「未成年の飲酒」以外、すべて過半数が、万引と同じくらい悪いと回答している。

次に、「万引と同じくらい」という回答以外は、「万引のほうが悪い」あるいは「比較対象のほうが悪い」と回答しているので、いずれかのほうが悪いという回答した場合を比較検討する。今回は、万引と他の逸脱行動との比較の指標として、指標（％）＝（万引のほうが悪い）／（万引のほうが悪い＋他のほうが悪い）という比を使った。この指標は 50% のときに両方が同じくらい、50% より大きくなれば、万引のほうが悪い、50% より小さくなれば、もう一方のほうが悪い、と評価されているとみなすことができる。ただし、いずれの設問でも、「同じくらい」という回答が半数を占めることに注意すべきである。

右の図は小学生の値の順に並べ替えたものである。



その結果、小学生、中学生、高校生で、次のような「悪い順の評価」が見られた。

逸脱行為の悪い順の評価

小学生：いじめ＞暴力＞未成年喫煙＞万引＞未成年飲酒＞落書き＞放置自転車乗り逃げ

中学生：いじめ＞暴力＞万引＞未成年喫煙＞未成年飲酒＞落書き＞放置自転車乗り逃げ

高校生：いじめ＞暴力＞万引＞未成年喫煙＞未成年飲酒＞落書き＝放置自転車乗り逃げ

万引の位置づけは、小学生で万引より喫煙のほうが悪いと考えられているのに対し、中高では喫煙より万引のほうが悪いという回答が多くなっている。

他人に危害が直接加えられるいじめや暴力の方が万引よりも悪いというのは、極めて健全な発想である。その反面、万引も年間の被害総額は深刻なものであり他人に被害をもたらす行為である。このことが教育によって伝えられる必要があるだろう。

また、前回調査および前々回調査でも、中高生になるにつれ未成年の飲酒や喫煙に対する許容度が高くなっていたため、「万引の場合と異なり、成人になると飲酒・喫煙が許されているため、年齢が高くなるにつれ許容度が高まるのだろう」と考察したが、今回も同様の傾向が見られる。また、とくに飲酒に関しては、直接的には他人に危害を加えない行為であるという認識が年齢が高くなるにつれ広まるという可能性も考えられる。

さらに、前回調査と同様、自転車盗や落書きを万引よりも悪くないと考えている者が小中高を通して多かった。万引同様、自転車盗や落書きは直接他人の身体に危害を及ぼすものではないことを考えると、たとえばいじめや暴力に比べてこれらの行為の方が悪くないと答えるのは理解が可能である。しかしその反面、これらが万引に劣らず犯罪行為であること（刑法 254 条の占有離脱物横領罪や 261 条の器物損壊罪など）を考えると、憂慮すべきことであろう。未成年の喫煙と飲酒も含め、放置自転車の乗り逃げや建物の落書きについて、それらが法律で禁止されている事柄であることの指摘も含めた適切な指導が学校等で行われなければならないだろう。ただ、ほとんどの場合、過半数は万引と同じ程度であると判断していることは、背景として留意しておくべきであろう。

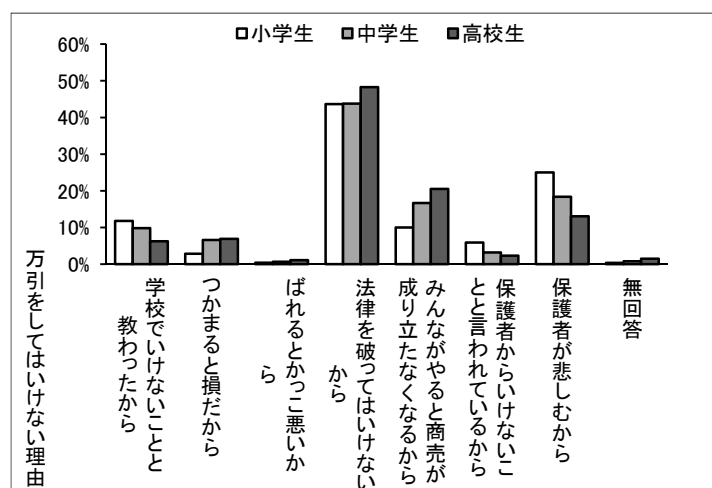
なお、上記 6 種類の逸脱行為間の相関（巻末統計表参照）では、前回調査と同様に、未成年の飲酒と喫煙、および暴力といじめに関して、小中高のいずれにおいても正の相関が見られた。これはたとえば、未成年者の飲酒について万引よりも悪いと回答した者は、未成年者の喫煙についても同様に回答する傾向があったことを示している。青少年は逸脱行為について類型化して順位付けしていることを示唆しており、今後はこのような類型化をより明確にし、法律や社会規範とのずれがある場合は対策を練るなどの対応が必要であろう。

3. 万引をしてはいけない理由

(小中高) 問 3. 万引をしてはいけない理由として、もっともだと思えるものをひとつだけ選んでください。

1. 学校でいけないことと教わったから
2. つかまると損だから
3. ばれるとかっこ悪いから
4. 法律を破ってはいけないから
5. みんながやると商売が成り立たなくなるから
6. 保護者からいけないこととされているから
7. 保護者が悲しむから

少年たちが万引をしてはいけないと考える理由を問う、前回新たに設けられた設問である。右図にあるように、「法律を破ってはいけないから」が小中高で最も高かった（小 43.7%、中 43.8%、高 48.3%）。これは、万引をしてはいけないのは社会秩序を維持する必要があるからだとして少年たちは考えている、と解釈でき、その



の意味ではコールバーグの道徳発達理論で言う「慣習レベル」の思考を示している。この回答をした者は、「学校でいけないことと教わったから」「保護者からいけないこととされているから」あるいは「保護者が悲しむから」と回答した者よりも高次の道徳性（つまり、社会全体から当該行為を見る視点）を身に付けている可能性がある。

*コールバーグの道徳発達理論：各人の道徳性の発達には、前慣習レベル、慣習レベル、脱慣習レベルという順で発達すると主張する理論。前慣習レベルとは、親や先生など権威者からの命令や、自己利益の関心から道徳を守ろうとするレベルである。慣習レベルとは、現にある周囲からの期待に答えたり社会秩序の維持がそれ自体として重要と考えたりして道徳を守ろうとするレベルである。脱慣習レベルとは、社会全体の利益や普遍的な価値や原則によって現存の社会秩序を批判的に見ることが可能になったレベルである。コールバーグはこれらのレベルのそれぞれをさらに二つの段階に分けている。(参照：ライマー、パオリット、ハーシュ『道徳性を発達させる授業のコツ』、荒木紀幸監訳、北大路書房、2004年、第3章)

なお、「法律を破ってはいけないから」という回答は前回調査では二番目に高かったものであり（前回調査：小 33.6%、中 28.4%、高 28.6%）、前回は小中高で「だれが何と言おうと悪いことは悪いから」と答えた者の割合が最も多かった（小 34.8%、中 36.7%、高 36.3%）。今回はその選択肢を「保護者からいけないことと言われているから」に差し替え、また、それに伴い、前回調査で「保護者や先生がいけないことと言っているから」であった選択肢 1 は、「学校でいけないことと教わったから」に変更した。これは、「だれが何と言おうと悪いことは悪いから」という選択肢が青少年の道徳発達段階を考えるうえで多義的な解釈を許すものと考えられたためである。

次に、小学生では「保護者が悲しむから」（25.0%）の割合が二番目に高かったが、この回答は中高になるにつれて割合が下がる傾向にあった（中 18.4%、高 13.1%）。また、「学校でいけないことと教わったから」（小 11.8%、中 9.8%、高 6.3%）と、「保護者からいけないことと言われているから」（小 5.9%、中 3.2%、高 2.4%）も同様の傾向があった。これらいずれの回答も、社会的な視点から当該行為を見るという観点に欠けているため、コールバーグのいう「前慣習レベル」の思考の段階にあるものと考えられる。ただし、「保護者からいけないことと言われているから」は、「法律を破ってはいけないから」と同様、自分より権威ある者の命令として道徳規範を捉えているのに対し、「保護者が悲しむから」という回答は、相手の視点（この場合は保護者の視点）に立ち、相手の感情を共有できる（大事な人が悲しむことはしたくない）ことを示しているため、単に「保護者がいけないと言っている」からという回答よりもやや高次の道徳性を示しているとも考えられる。

一方、「みんながやると商売が成り立たなくなるから」は、学年が高くなるにつれ高くなっており（小 10.7%、中 16.7%、高 20.5%）、中学校では三番目、高校では二番目に割合が高い回答であった。これは個々の万引行為ではなく、万引行為一般の社会的な影響を考慮することができる者が年齢を追うにつれ増えているということを表していることができる。また、単に社会的に万引が許容されていないという事実のみならず、それが許容されていない理由も考えているという点では、コールバーグの道徳発達理論で言う「脱慣習レベル」の思考の段階にあるとも考えられる。

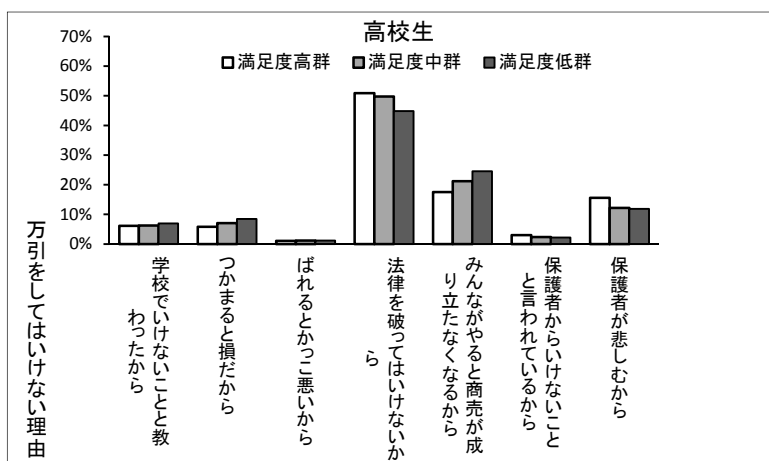
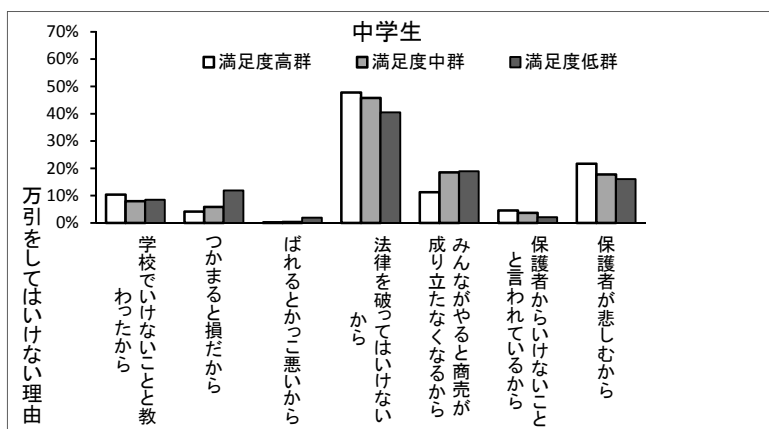
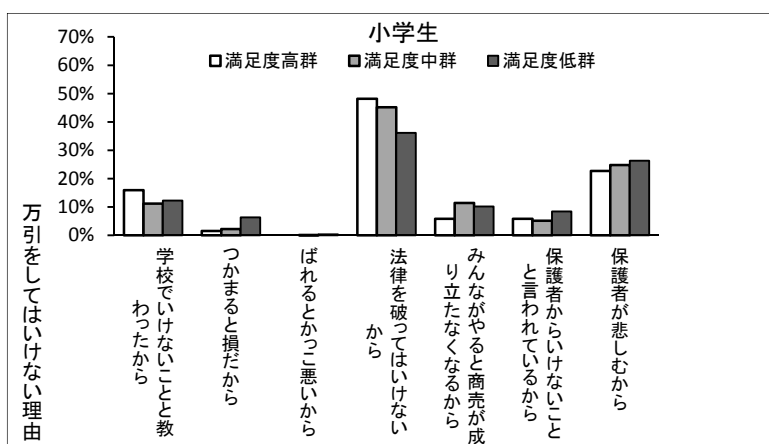
比較的回答者の割合が低かったものは、「つかまると損だから」（小 2.9%、中 6.6%、高 6.9%）と「ばれるとカッコ悪いから」（小 0.4%、中 0.7%、高 1.1%）であった。これらは、万引をしない理由を自己利益に訴えるものであり、コールバーグの道徳発達理論で言えば「前慣習のレベル」の思考の中でも最も低いところに位置すると思われる。このような考え方をする者は少なかったと言える。

問 1 で見たように、小中高生の大多数は「万引は絶対にすべきでない」と考えているが、本設問では「なぜ万引をしてはいけないのか」について尋ね、多様な答え方があったことがわかった。そのうちのどれが「正しい答え」ということは一概には言うことができないが、万引についての教育を行うさいには、小中高生の発達段階に応じて、彼らがどのような理由に説得力を持つと考えているかに留意する必要があると思われる。

なお、本設問に関しては、一部の選択肢に男女差が見られるものがある。「法律を破ってはいけなから」は小中高で一貫して女子の回答割合が多い（小・男 41.3%、女 46.1%、中・男 42.5%、女 45.1%、高・男 45.5%、女 51.3%）。また、小中高で「つかまると損だから」が男子でやや多い（小・男 3.8%、女 1.8%、中・男 8.0%、女 5.1%、高・男 9.9%、女 4.1%）。つまり、女子の方が遵法意識が高い者が多く、逆に男子の方が自分の利益にならないから万引をしないと考える者が多い。このような傾向は前回調査でも見られた（前回報告書 14 頁）。このような男女差が生じる要因については今後の検討が必要である。

最後に、本設問についても、「満足度高群」、「満足度中群」、「満足度低群」のそれぞれの

群の本設問への回答傾向の違いを見た。すると、小中高全般に関して、満足度高群>中群>低群の順で「法律を破ってはいけなから」を選ぶ傾向が高かった。また、満足度が高い群は、残りの二群に比べて、小中学生では「学校でいけないことと教わったから」を、また中高生では「保護者が悲しむから」を選ぶ傾向が高く、これらのことから、満足度が高い群は学校や保護者に対する信頼が規範意識の醸成や維持と結びついている可能性が示唆される。それに対して、小中高全般に関して、満足度低群>中群>高群の順で「つかまると損だから」と答える傾向が高く、また、中高生では同様な順で「みんながやると商売が成り立たなくなるから」と答える傾向が高かった。満足度が



低い群は学校や保護者に対する信頼に基づいて規範を守ろうとするよりは、それとは別の基準、たとえば自分の利益にならないからという基準や、商売が成り立たなくなるからという基準から規範を正当化する傾向があることが窺える。これらは学校や保護者からは独立した基準であり、青少年が苦悩しながらも自立しようと姿を示しているのかもしれないが、一方で家庭生活や学校生活から孤立した状態を示しているのかもしれない。問1で見たように、生活満足度低群は他の群に比べて規範意識が低い傾向がある点にも留意する必要があるだろう。教育をする者は、生活満足度が低い者に対しては、万引をしてはいけないことに関する上記以外の理由はあまり説得力のないものと映る可能性があることを知っておく必要があるだろう。

4. 万引をする理由

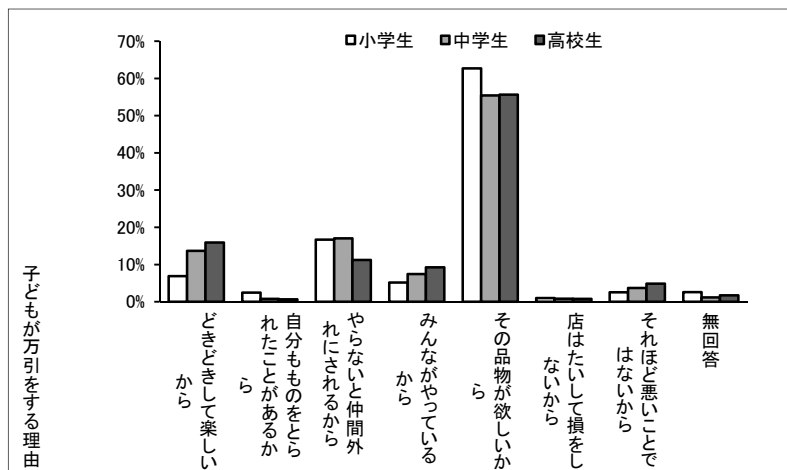
(小) 問4. 子どもが万引をするのはなぜだと思いますか。ひとつだけ選んでください。

(中高) 問4. 子どもが万引をする理由は何だと思いますか。ひとつだけ選んでください。

1. ときどきして楽しいから
2. 自分もものをとられたことがあるから
3. やらないと仲間外れにされるから
4. みんながやっているから
5. その品物が欲しいから
6. 店はたいして損をしないから
7. それほど悪いことではないから

少年たちが万引をする理由を問う設問である。前回調査も同じ設問があったが（前回報告書 15-17 頁）、今回は選択肢を一部変更している。なお、この設問は「自分と同年齢の子どもがもし仮に万引をするのであれば、こういう理由でそうするのであろう」という推測に基づいて回答されていると考えられるため、本人が実際に万引したときの理由を示したものではない点に注意すべきである。

右図にあるように、今回新たに加えた「その品物が欲しいから」という選択肢が小中高を通して最も回答割合が高く、半数を越えていた（小 62.7%、中 55.4%、高



55.6%)。小中高生は、万引をする理由について、短絡的な理由を思い描いていることが見てとれる。

「やらないと仲間外れにされるから」は小中で二番目に回答者の割合が最も高かったものであり（小 16.7%、中 17.0%）、高校生では三番目（11.2%）であった。また、小中高生のいずれにおいても、男子よりも女子がこの回答を選ぶ傾向が顕著に高かった（小・男 13.8%、女 19.6%、中・男 12.1%、女 22.2%、高・男 6.8%、女 15.6%）。「やらないと仲間外れにされる」という回答の背景には、友人に誘われて一緒に万引をする場合があり、誘いを断ることが友人関係を壊すことになりかねないという懸念がある。いずれにせよ、青少年の万引に関しては、「友人からの万引の誘いに乗るか、友人関係を壊すか」というジレンマが現実的な問題である可能性が高いため、万引対策の教育においてはこの点に注意して教育を施すべきであろう。

「どきどきして楽しいから」は、小学生と中学生で回答者の割合が三番目に高く（小 6.9%、中 13.7%）、高校生では回答者の割合が二番目に高かったものである（高 15.9%）。これは、万引する品物そのものが欲しいというよりは、ゲーム感覚あるいはストレス解消目的で万引を行うということである。学年が上がるにつれてこの回答が増えるのは、生徒が一般にストレスの多い生活を送っていることを示唆するのかもしれない。

参考：東京都教育委員会が都内の小中高生やその保護者らを対象に 5 年毎に行っているアンケート調査によると、「日ごろ、ストレスを感じていますか」という問いに「感じている」と答えた小学生（4 年生）は 33.3%、中学生（1 年生）は 55.1%、高校生（全日制 1 年生）は 65.4%（定時制 1 年生は 59.6%）（東京都教育委員会「平成 19 年度 児童・生徒の健康に関するアンケート調査報告書」平成 21 年 3 月、<http://www.kyoiku.metro.tokyo.jp/buka/gakumu/kenkou/karada/19anket.pdf>）。

参考：警視庁が平成 21 年に東京都内で行った万引被疑者調査（調査対象は総数 1、050 名、うち未成年の被疑者は 428 人）によると、未成年に関しては、犯行の動機について「ゲーム感覚」と答えた者が最も多く、115 人（26.8%）だった（小 22.6%、中 31.8%、高 22.9%）。次に多かったのは「単に欲しかった」で 23.3%、その次が「誘いを断れない」で 8.9%であった。（「万引きをしない・させない」社会環境づくりと規範意識の醸成に関する調査研究委員会『万引きに関する調査研究報告書』平成 21 年 8 月より）

また、「みんながやっているから」と「それほど悪いことではないから」も、小中高になるにつれて増加する傾向を示した回答であった。「みんながやっているから」は小中高で回答者の割合が四番目に高かった（小 5.2%、中 7.5%、高 9.2%）。「それほど悪いことではないから」は、小中高で回答者の割合が五番目に高かった（小 2.5%、中 3.7%、高 4.9%）。これらは、学年が上がるにつれ、「万引は悪いことである」という一般的知識と、「まわりの人がしていることは許される」「悪いことをしても大目に見られる場合もある」という生活の知恵が乖離する傾向が強まるということを示唆している。万引に関する教育では、「み

んながやっているわけではない（ほとんどの人はやっていない）」「万引は犯罪である」という知識をしっかりと教えることが重要であろう。

なお、無回答は小 2.6%、中 1.1%、高 1.7%であり、前回調査に比べて少なくなった（前回調査：小 8.8%、中 3.8%、高 2.9%）。これは、「その品物が欲しいから」を今回新たに加えたことによると思われる。

なお、本設問についても、「満足度高群」、「満足度中群」、「満足度低群」のそれぞれの群の本設問への回答傾向の違いを見たが、小中高生全般に関して、大きな傾向の違いは見られなかった。形式は若干異なるが、前回調査（17 頁）でも同様であった。本設問では全体的に生活満足度との目立った関連が見られなかったということからすると、生活満足度とは別の要因によって選択の仕方が異なったことを示唆しているため、今後のさらなる検討が必要であるだろう。

第3章 万引との関わり

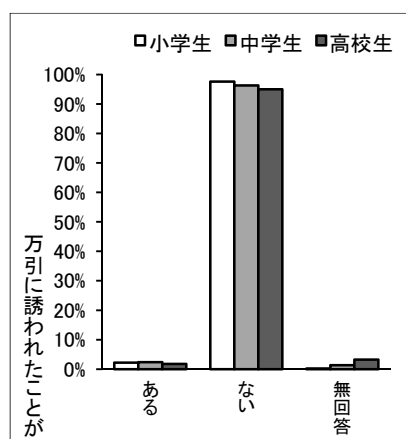
第3章では、青少年の万引との関わりに関する質問項目について、調査結果を紹介し、解説を付す。

1. 万引に誘われた経験の有無

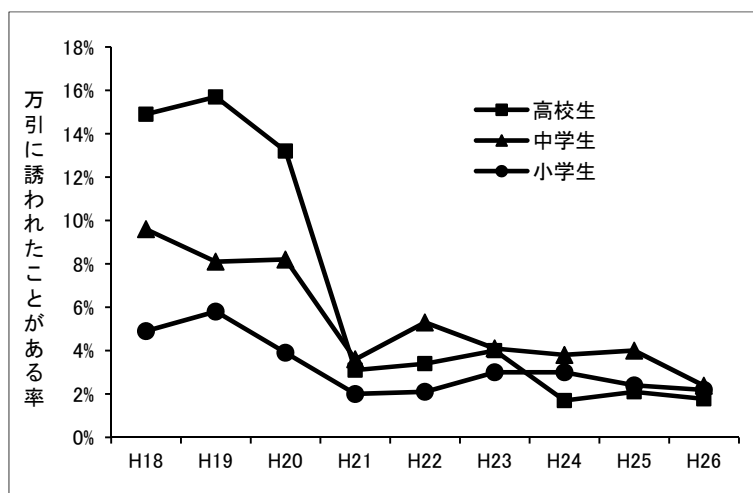
(小中高) 問5. この1年の間に、あなたは万引をしようとしたことがあるか。

1. ある 2. ない

万引に誘われた経験を問う設問である。右図にあるように、「ない」と答えた者の割合が全体で圧倒的に多い(小97.6%、中96.3%、高95.0%)。他方、「ある」と答えた者の割合は、小2.2%、中2.4%、高1.8%である。男女差を見ると、小学生では男2.5%、女1.9%とあまり大きくないが、中学生では男3.2%、女1.3%、高校生では男2.8%、女0.8%と男子の方が有意に大きくなっている。



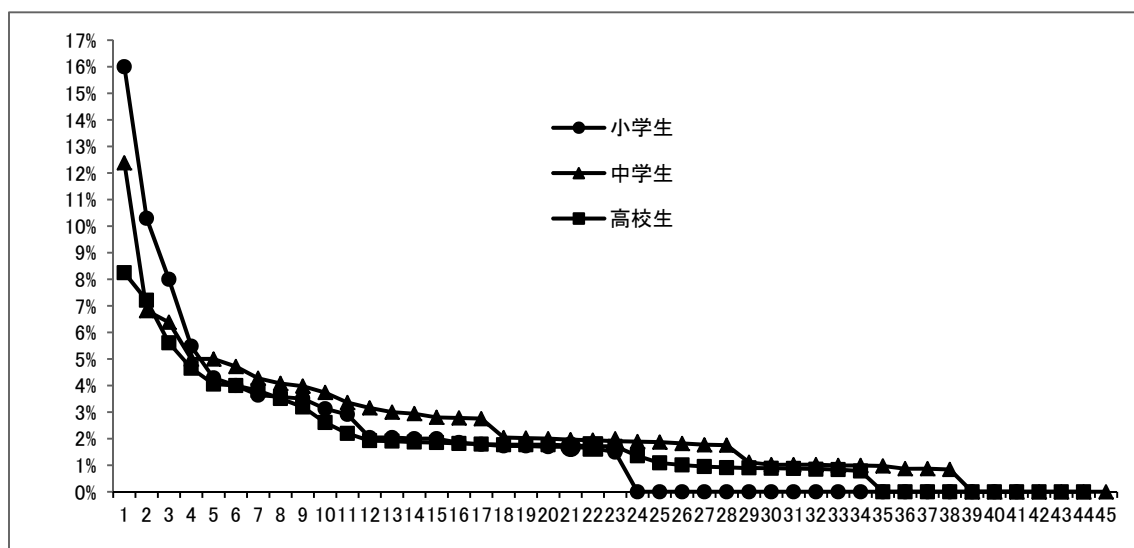
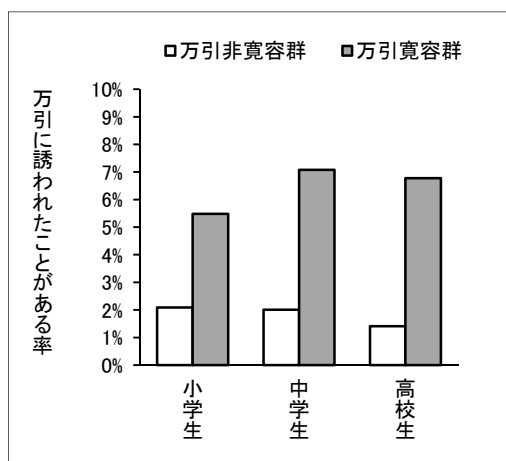
「誘われたことがある」と答えた者の割合についてH18年からの経年変化を見ると、今回調査において大きな変化は見られなかった(右図)。なお、H21年に小中高すべての割合が下がっているが、これは質問文に「この1年の間に」という表現が入ったことによる。



次に、自分自身の規範意識に関する問1の回答傾向と、本設問の回答傾向との関連を見てみた(次ページの上図)。ここで、万引は「絶対にやってはいけないこと」と答えた者を「万引非寛容群」、「やってはいけないことだが、さほど問題ではない」および「よくあることで、何も問題はない」と答えた者を「万引寛容群」と呼ぶとすると、過去一年間に万引に誘われた経験のある者は、小学生で非寛容群2.1%、寛容群5.5%、中学生で非寛容群2.0%、寛容群7.1%、高校生で非寛容群1.4%、寛容群6.8%であった。このデータだけでは、普段から万引に寛容な姿勢を示しているか

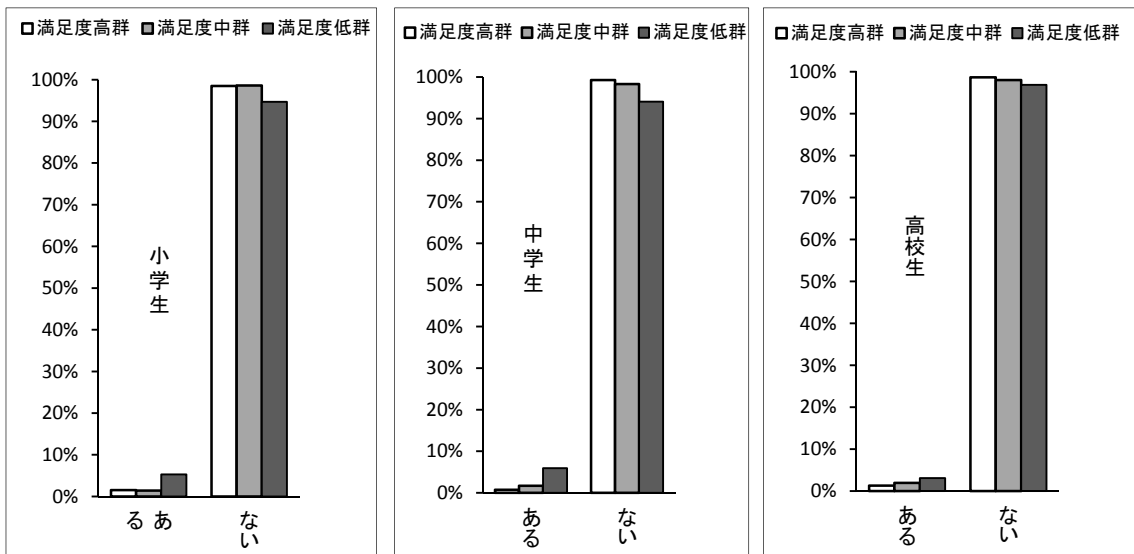
ら万引に誘われやすいのか、あるいは友人などから万引に誘われるから万引に寛容な態度になるのかは不明である。しかしいずれにせよ、青少年による万引を減らすためには、なるべく早い時期から万引が犯罪であること教えるだけでなく、誘われたときの対処法を教えるなど実践的な教育を行なう必要があるだろう（次節でも関連した問題に言及する）。

次に、万引に誘われたことが「ある」と答えた者の割合について地域のデータを見よう。下記の図は、調査対象となった地域で、「ある」の比率の高い順に左から並べたものである。



この分布を眺めると、万引に誘われた経験があると答えた者が一部の地域で飛び抜けて多いことがわかる（全国平均は小2.2%、中2.4%、高1.8%である）。とはいえ、これはある都道府県における全体的傾向を示しているのではなく、第六回報告書において万引多発地域は「全国各地に離散的に局在している」（第六回報告書、4頁）と述べられたように、今回調査した特定の学校・地域の傾向と見るべきである。有効な万引防止のためには、万引多発地域を特定し、集中的な抑止対策が必要となると考えられる。

第1章では、小学生問 9-1~7 および中高生問 15-1~7 における満足度の回答に基づき、満足度高群、満足度中群、満足度低群の三つの群を設定した。次ページの図は、「満足度高群」、「満足度中群」、「満足度低群」のそれぞれの群の本設問への回答傾向の違いを見たものである。すると、小中高生全般に関して、満足度低群は、他の群に比べて、この一年の間に万引に誘われたことが「ある」と答えた者が多かった。この理由は必ずしも明確ではないが、一つには、生活満足度が低い者は、同様に満足度の低い傾向にある友人から誘いを受けやすいからかもしれない。先の万引寛容群の方が万引に誘われる経験が多いこ



とも含めて、今後さらなる検討が必要だと思われる。

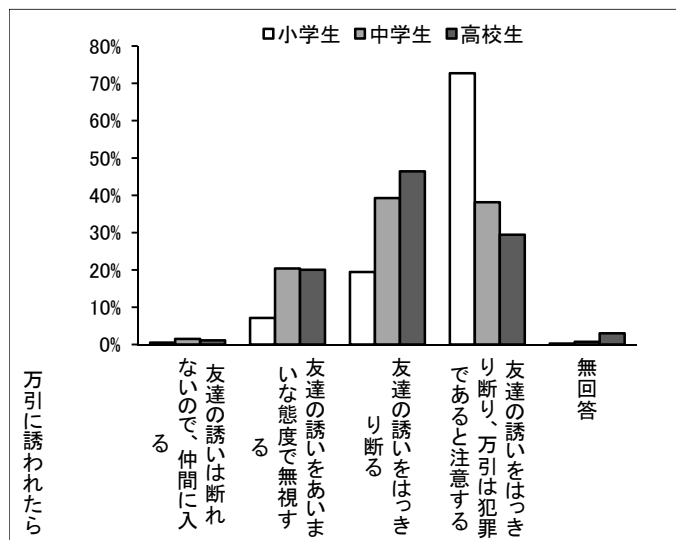
2. 万引に誘われたときの対処

(小中高) 問6. 友達から万引をしようと誘われたら、その友達にあなたはどうか対応しますか。ひとつだけ選んでください。

1. 友達の誘いは断れないので、仲間に入る
2. 友達の誘いをはっきり断る
3. 友達の誘いをあいまいな態度で無視する
4. 友達の誘いをはっきり断り、万引は犯罪であると注意する

この設問は、友達から万引をしようと誘われたときの対処について尋ねるものであり、前回および前々回調査と同一である(前回報告書 20 頁)。

右図にあるように、小学生の場合、「友達の誘いをはっきり断り、万引は犯罪であると注意する」と答えた者の割合が 72.7% と非常に高い。これに対して、中高生は、中 38.2%、高 29.4% に留まる。他方、中高生の場合、「友達の誘いをはっきり断る」と答えた者の割合が高く、小 19.4% に対して中 39.3%、高 46.4% である。「友達の誘いをあいまいな態度で無視する」(小 7.1%、中 20.4%、高 20.0%)



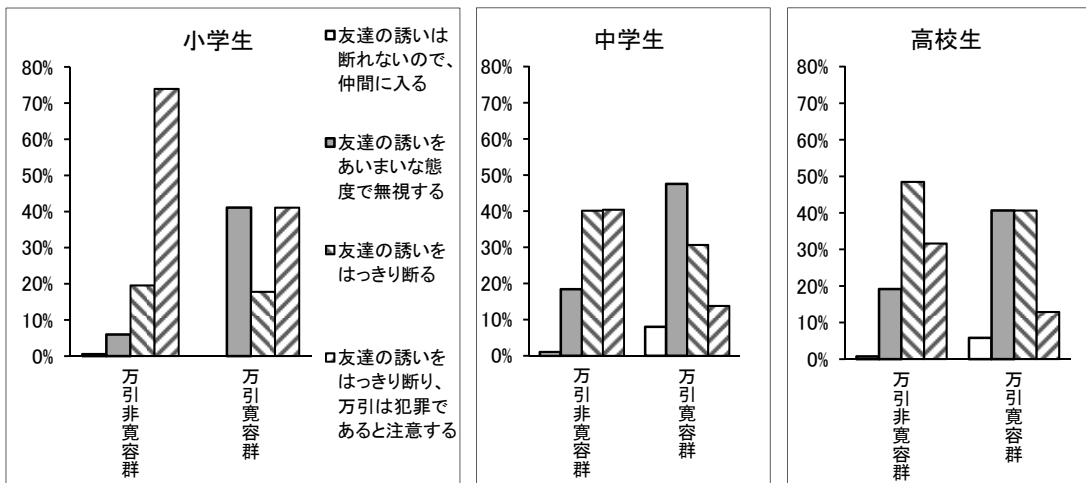
をここに加えると、誘いにはのらないが相手に注意はしないと答えた者の割合は、中学生

で 59.7%、高校生で 66.4%と非常に高くなるのがわかる。

ここからわかるのは、小学生の多くは、誘いにのらない上、友だちに対して万引はいけないことだと伝える気持ちを明確にもつ傾向にあるのに対して、中高生は、誘いにはのらないが、友だちに忠告はしない、という傾向がある。第 2 章の 4.でも少し示唆したように、中高生は万引への誘いを断るが、友人関係は破綻させないようにしようという配慮が働いているのかもしれない。これが正しいとすると、倫理的なジレンマ状況を上手に解決しようとする社会性の発達が中高生においてより高く見られると言える。

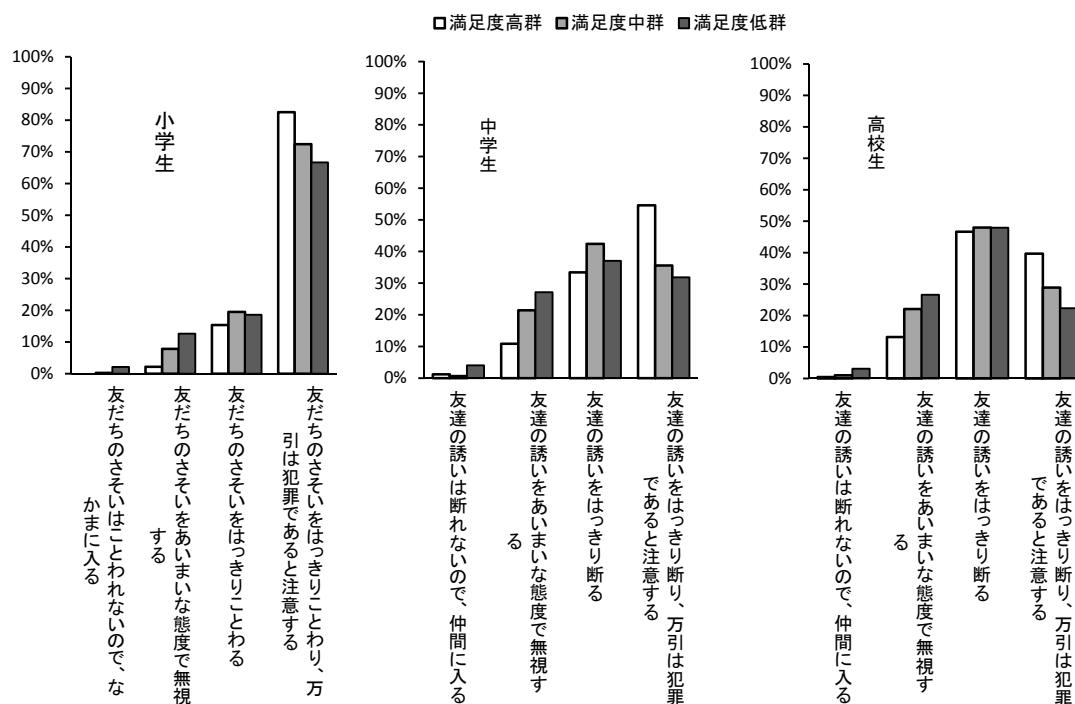
なお、高校生のみで男女差が明確に見られるのが興味深い。「友達の誘いをあいまいな態度で無視する」は高校生で男 22.6%、女 17.4%、「友達の誘いをはっきり断り、万引は犯罪であると注意する」は同じく男 25.9%、女 33.1%であった。前回調査でも同様の傾向が見られた（前回報告書 20 頁）。また、小中でも「友達の誘いをはっきり断り、万引は犯罪であると注意する」という回答を選んだ割合は男女差が若干見られる（小・男 71.1%、女 74.6%、中・男 36.0%、女 40.6%）。なぜこのような男女差が出るのかは今回の調査では不明であるが、女子の方が万引に実際に誘われた経験が低いことや、男女における友人関係のあり方に違いがあることなどが考えられる。さらに検討すべき課題であろう。

次に、自分自身の規範意識に関する問 1 の回答傾向と、万引の勧誘への対応に関する本設問の回答傾向との関係を見た（下図）。問 1 で、「絶対にやってはいけないこと」と答えた者（万引非寛容群）と、「やってはいけないことだが、さほど問題ではない」および「よくあることで、何も問題はない」と答えた者（万引寛容群）とで比べると、問 6 で「友達の誘いをはっきり断り、万引は犯罪であると注意する」または「友達の誘いをはっきり断わる」と答えた者の割合は、前者の万引非寛容群の方が高い（小 93.5% > 58.9%、中 80.6% > 44.5%、高 80.2% > 53.5%（いずれも万引非寛容群 > 万引寛容群））。一方、「友達の誘いをあいまいな態度で無視する」と答えた者の割合は、小中高生を通じて、後者の万引寛容群の方が高い（小 41.1% > 6.0%、中 47.5% > 18.4%、高 40.6% > 19.2%（いずれも万引寛容群 > 万引非寛容群））。また、「友達の誘いは断れないので、仲間に入る」と答えた者は、中高生の万引寛容群において目立って多かった（中 8.0%、高 5.8%）。この結果が



らわかるのは、万引を絶対やってはいけないという規範意識を持っている者は、万引をしようという友人の誘いを退けることができる傾向にあるが、万引に関して曖昧な態度を持っている者は、万引をしてはならないという社会規範よりも友人関係を優先する傾向があるということである。上でも述べたように、青少年による万引を減らすためには、なるべく早い時期から万引が犯罪であること教えるだけでなく、友人から誘われたときの断わり方について教えるなど実践的な教育を行なう必要があるだろう。

最後に、本設問についても、「満足度高群」、「満足度中群」、「満足度低群」のそれぞれの群の本設問への回答傾向の違いを見た（下図）。すると、小中高生全般に関して、満足度高群＞中群＞低群の順で、「友達の誘いをはっきり断わり、万引は犯罪であると注意する」と答えた者の割合が高かった。逆に、満足度低群は他の群に比べて、「友達の誘いは断れないので、仲間に入る」と答えた者（小 2.1%、中 4.0%、高 3.1%）や、「友達の誘いをあいまいな態度で無視する」と答えた者（小 12.6%、中 27.1%、高 26.6%）が多かった。生活満足度の低い者は友達の誘いを断れないか、あいまいな態度で無視すると答える傾向にあり、ここでも生活満足度の低さと規範意識の低さに関連が見られるように思われる。このことは、青少年の万引防止のためには、教育全般において生活満足度に留意する必要があることを示唆している。



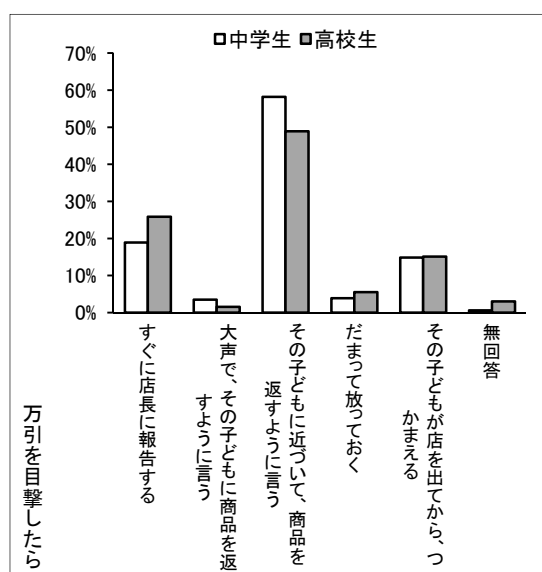
3. 店員として万引を目撃した場合の対応（中高生のみ）

問7. あなたがコンビニでアルバイトをしているとして、子どもが棚の商品をカバンに入れているのを目撃したら、どのように対応しますか。ひとつだけ選んでください。

1. すぐに店長に報告する
2. 大声で、その子どもに商品を返すように言う
3. その子どもに近づいて、商品を返すように言う
4. だまって放っておく
5. その子どもが店を出てから、つかまえる

これは自分が店員であるとして、子どもの万引を目撃した場合にどう対応するかを中高生に尋ねたもので、前回調査と同じ質問項目である（前回報告書 23 頁）。

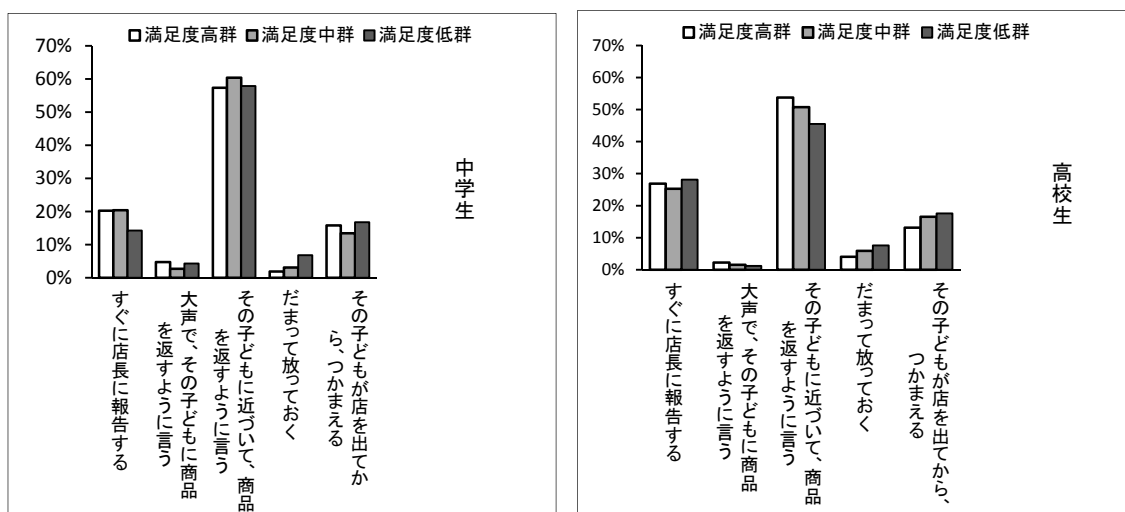
右図にあるように、一番割合の高かった回答は、中・高ともに「子どもに近づいて、商品を返すように言う」（中 58.2%、高 48.9%）である。次に、「すぐに店長に報告する」（中 18.9%、高 25.9%）、「その子どもが店を出てから、つかまえる」（中 14.9%、高 15.1%）が続いた。その他は、かなり低くなるが、「大声で商品を返すように言う」（中 3.5%、高 1.5%）、「だまって放っておく」（中 3.9%、高 5.5%）という回答であった。



「子どもに近づいて、商品を返すように言う」という回答は前回調査でも 5 割を超えていたが、これは店長に報告すると大事になるので、穏便に済ませるとのことだと考えられる。とりわけ、この問いにおける「子ども」を、自分たちの同じ年頃の者ではなく、小学生のような低学年と解釈したために、より温情主義的な解決策を選んだ者が多かったのかもしれない。

なお、「すぐに店長に報告する」と「その子どもが店を出てから、つかまえる」では男女差が相当あった。「すぐに店長に報告する」では、中・男 15.6%、女 22.3%、高・男 16.5%、女 35.2%で女子の回答が多く、前回調査でもこれと同じ傾向が見られた。「その子どもが店を出てから、つかまえる」では、中・男 18.5%、女 11.1%、高・男 21.2%、女 9.1%と男子の回答割合が高かった。男子は自力で何とかするという傾向が強く、女子は店長に報告するように他人に協力を得る傾向が強いのは、万引犯を掴まえる際に物理的な力が必要になる可能性があるためかもしれない。

最後に、本設問についても、「満足度高群」、「満足度中群」、「満足度低群」のそれぞれの群の本設問への回答傾向の違いを見た(下図)。中高で必ずしも明確な傾向は見られないものの、中高生ともに、「だまって放っておく」と答えた者は満足度低群>中群>高群の順で多かった(中 6.8%、高 7.6%)。他の回答が万引に対する何らかの対応を行うものであるのに対し、「だまって放っておく」という回答のみが、万引を見ても何もしないという選択肢である。生活満足度が低いからと言って、必ずしもこの選択肢を選ぶわけではない点に注意すべきだが、少なくとも生活満足度が低い者の一部に関しては、他人が不正をしてもどうでもよいという投げやりな態度が生じていると思われる。



4. 万引しやすい店を知っているか (中高生のみ)

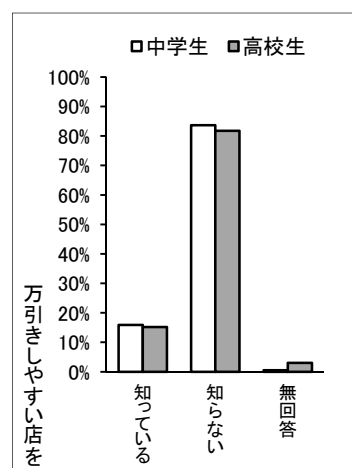
(中高) 問8. あなたの住んでいる近くで、万引をしやすいと言われている店を知っていますか。ひとつだけ選んでください。

1. 知っている
2. 知らない

自分の生活圏内に万引しやすいという噂の店を知っているかを尋ねる設問である。前回調査と同様の質問であり(前回報告書 24-5 頁)、今回も同じ形式である。

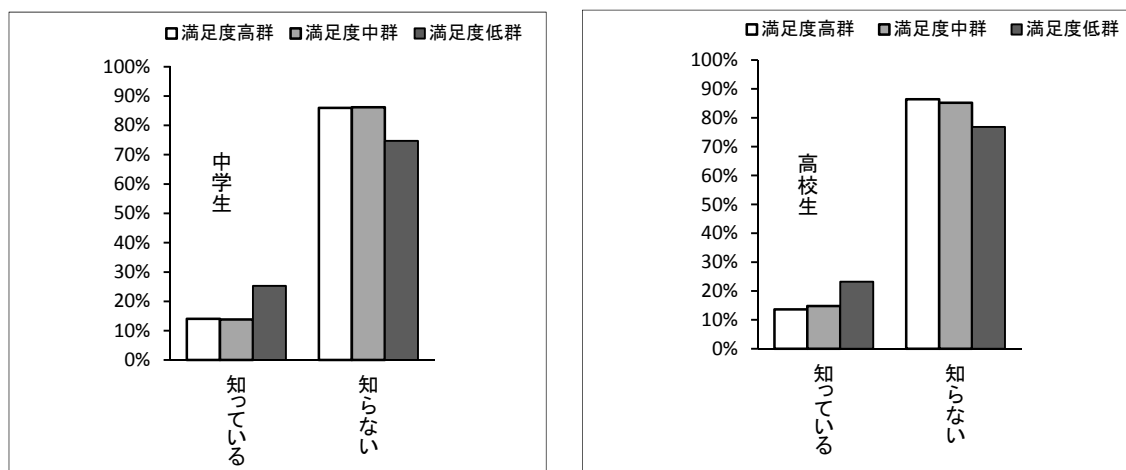
次の図にあるように、「知らない」と答えた者の割合がかなり高く、中 83.6%、高 81.8%である(前回調査:中 80.8%、高 80.3%)。しかしながら、「知っている」と答えた者の割合は、中 15.9%、高 15.2%であり(前回調査:中 18.6%、高 19.2%)、つまりほぼ 6 人に 1 人であり、決して低いとは言えない値である。

男女差を見ると、「知っている」と答えた者の割合は、中



学生では男 17.3%、女 14.3%（前回調査：男 20.0%、女 17.0%）、高校生では男 17.3%、女 12.9%（前回調査：男 21.6%、女 16.6%）と、前回調査と同様、中・高いずれも男子でより高くなっている。

次に、本設問についても、「満足度高群」、「満足度中群」、「満足度低群」のそれぞれの群の本設問への回答傾向の違いを見た（下図）。すると、中高生ともに、満足度低群において、万引をしやすいと言われている店を「知っている」と答えた者がほぼ 4 人に 1 人であった（中 25.3%、高 23.2%）。この一年の間に万引に誘われたことがあるかを尋ねた問 6 と同様、ここでも、満足度が低い者は規範意識が低く、その友人にも同様の傾向があるため、こうした望ましくない知識が共有されがちなのかもしれない。教育現場においては、生活満足度の低い生徒に対して重点的に万引防止教育をすることの有効性が示唆される。



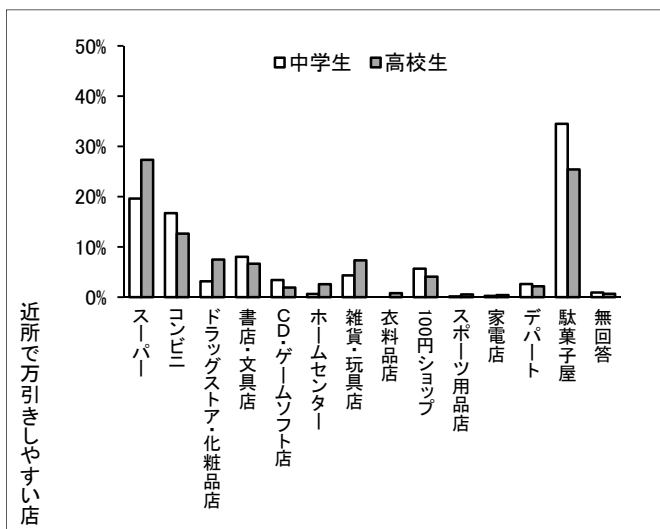
5. 万引しやすい店の種類（中高生のみ）

（中高）問 8－1. 上の問 8 で「1.知っている」と答えた人だけに聞きます。それはどういう店ですか。ひとつだけ選んでください。

- | | | |
|-------------|---------------|-----------------|
| 1. スーパー | 2. コンビニ | 3. ドラッグストア・化粧品店 |
| 4. 書店・文具店 | 5. CD・ゲームソフト店 | 6. ホームセンター |
| 7. 雑貨・玩具店 | 8. 衣料品店 | 9. 100 円ショップ |
| 10. スポーツ用品店 | 11. 家電店 | 12. デパート |
| 13. 駄菓子屋 | | |

本問も前回調査と同様の設問である（前回報告書 25-6 頁）。図にあるように、中高で若干順位が異なるものの、上位層はほぼ同じ傾向である。回答した割合の高い順に、「駄菓子屋」（中 34.5%、高 25.4%）（前回調査：中 28.1%、高 24.5%）、「スーパー」（中 19.6%、高 27.3%）（前回調査：中 24.7%、高 28.4%）、「コンビニ」（中 16.7%、高 12.6%）（前回調査：中 16.5%、高 13.4%）、「書店・文具店」（中 8.0%、高 6.7%）（前回調査：中 6.1%、

高 7.7%)、「100円ショップ」(中 5.7%、高 4.1%) (前回調査：中 5.8%、高 3.4%)、「雑貨・玩具店」(中 4.3%、高 7.3%) (前回調査：中 5.4%、高 8.0%)、「ドラッグストア・化粧品店」(中 3.2%、高 7.5%) (前回調査：中 4.6%、高 7.2%) となっている。中高で違いがあるのは、一つには中高で嗜好が少しずつ変化すること (例えば中学生で駄菓子屋が多く、高校生



でドラッグストア・化粧品店が多いなど)、また高校では生活範囲が広がること (例えば中学生でコンビニが多く、高校生でスーパーが多いなど) が考えられるかもしれない。

なお、男女差について言えば、男子の方が女子に比べて駄菓子屋、コンビニなどを挙げる割合が高く、逆に女子の方が男子に比べて「ドラッグストア・化粧品店」を挙げる割合が有意に高かった。これらは、男女の消費行動や関心事の違いに起因するところがあると考えられる。

いずれにせよ、小売店は一部の中高生がこのような知識を持っていることを自覚し、「万引きしやすい店」という認識を持たれないような対策を取る必要があるだろう。

第4章 万引少年に対する対応

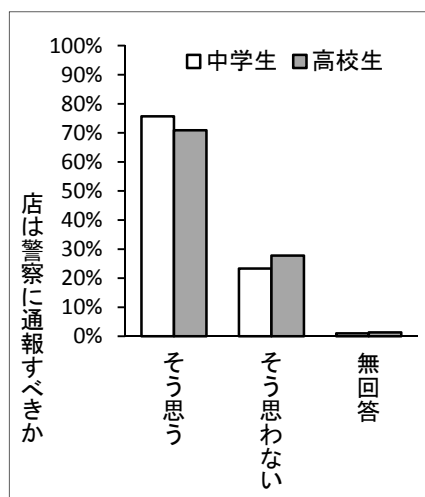
第4章では、万引少年への対応に関する質問項目について、調査結果とその分析を述べる。

1. 店は警察に通報すべきか（中高生のみ）

（中高）問9. 万引をした子どもを捕まえた店は、警察に通報すべきだと思いますか。ひとつだけ選んでください。

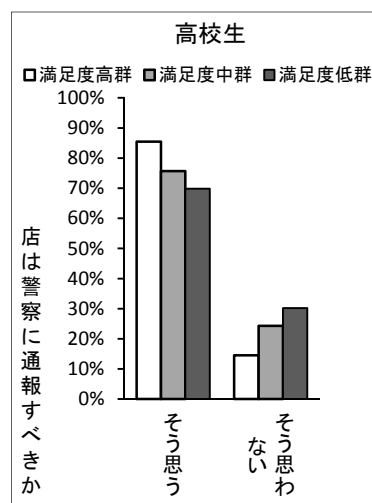
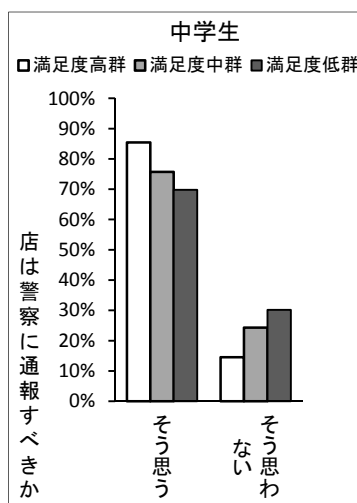
1. そう思う
2. そう思わない

万引を見つけた店舗が警察に通報すべきだと思うかどうかを問う設問である。「警察に通報すべき」と答えた者は、7割（中75.7%、高70.9%）であり、「そう思わない」は3割弱（中23.3%、高27.8%）となっている。全体的には、前回調査とほぼ同じ割合となっている。たとえば、「通報すべき」と答えた者の割合は高校生よりも中学生の方が高く、「そう思わない」と答えた者の割合は中学生よりも高校生の方が高いのも、前回調査と同じ傾向である。さらに、中高生を通じて回答傾向に男女差が見られ、中高ともに「通報すべき」と答えた者の割合は女子の方が高い（中：女77.7%>男73.7%、高：女73.7%>男67.8%）。



ここで、第1章第3節で説明した満足度高群・中群・低群の3分類に基づく本設問の回答傾向の相違について見ておこう。中学生で「通報すべき」と回答した割合は、満足度高群85.8%>中群75.7%>低群69.8%であり、満足度高群から低群へと回答割合が下がる。

他方、「そう思わない」と回答した割合は、満足度高群14.5%<中群24.3%<低群30.2%であり、満足度高群から低群へと回答割合が上がる。高校生についても、割合の差は幾分緩やかになるとはいえ、同様の傾向が見られる（「通報すべき」：満足度高群75.3%>中群



71.4% > 低群 68.8% ; 「そう思わない」 : 満足度高群 24.7% < 中群 28.6% < 低群 31.2%)。

中高生ともに、「個人の生活満足度」が相対的に高い者ほど、万引した子どもを捉まえれば店は警察に通報すべきだと思うと回答し、「個人の生活満足度」が相対的に低い者ほど、そう思わないと回答する割合が高い。自分の生活に満足する者ほど、万引行為について厳格に対処すべきだと考える傾向が強いのだと考えられる。

ただし、ここで注意すべきなのは、満足度高群、中群、低群いずれも、それぞれの群の中で見た場合、「通報すべき」と回答した者の割合が、「そう思わない」と回答した者の割合を遥かに上回っている、ということである。つまり、満足度が低いからといって、満足度が高い場合に比べて特異な回答傾向が示されるということはない。

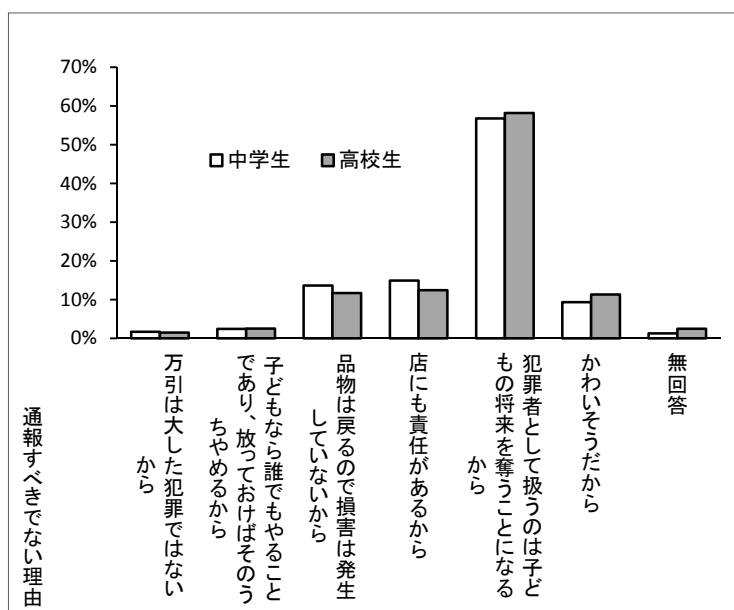
2. 「そう思わない」の理由 (中高生のみ)

(中高) 問9-1. 上の問9で「2. そう思わない」と答えた人だけに聞きます。その理由をひとつだけ選んでください。

1. 万引は大した犯罪ではないから
2. 子どもなら誰でもやることであり、放っておけばそのうちやめるから
3. 品物は戻るので損害は発生していないから
4. 店にも責任があるから
5. 犯罪者として扱うのは子どもの将来を奪うことになるから
6. かわいそうだから

先の設問で「警察に通報すべきだと思わない」と答えた者 (中 23.3%、高 27.8%) に、その理由を問うている。「犯罪者として扱うのは子どもの将来を奪うことになるから」という理由が前回同様 6 割近く (中 56.8%、高 58.2%) を占めている。「かわいそうだから」

(中 9.3%、高 11.3%) を同じ意味合いの回答とみなすと、先の設問で「警察に通報すべきだと思わない」と答えた中高生の 7 割近くが、万引を警察沙汰にすると本人のためにならず、むしろより穏便な解決策を模索すべきだと考えていると解釈できる。これも前回と同様の傾向である。さらに、自分がコンビニの店員であるとして、子どもの万



引を目撃した場合にどう対応するかについて尋ねた問 7 において、「その子どもに近づいて商品を返すように言う」と答えた中高生が約 5 割であったこと（穏便な解決策を模索しようとする傾向の共通性）も、前回調査と同様である。

また、次に高かったのは、「店にも責任があるから」（中 14.9%、高 12.4%）、「品物は戻るので損害は発生していないから」（中 13.6%、高 11.7%）であり、一定数の中高生は、「万引は、される店も悪いし、捕まれば損益は出ないのだから、警察に通報するほどのことではない」と考えていると推測される。

ここで、前回報告書で行なったように、本設問の回答選択肢を特定の観点からグループ分けしておこう。まず、選択肢を「法的観点あり／なし」および「被疑少年への配慮あり／なし」という観点から 3 つにグループ分けをし、選択肢に差し当たりの順位づけを行なう。順位づけの目安としては、道徳性に関する社会化の度合いを読み込んで、レベル 1：目の前の事態のみを見る経済的損得勘定、レベル 2：単なる同情、レベル 3：万引の犯罪性の過小評価、レベル 4：店の自己責任論、レベル 5：「万引は許容範囲内の逸脱行為」という認識に基づく少年育成への配慮、レベル 6：少年と刑罰のあるべき形にも関わるような少年育成への配慮という形で整理した。（もちろん便宜上の整理以上のものではない。）

グループ A 法的観点なし、かつ、被疑少年への配慮なし		レベル毎の割合	グループ毎の割合
レベル 1	品物は戻るので損害は発生していないから	中 13.7% 高 11.7%	中 13.7% 高 11.7%
グループ B 法的観点あり、あるいは、被疑少年への配慮あり		レベル毎の割合	グループ毎の割合
レベル 2	かわいそうだから	中 9.3% 高 11.3%	中 25.9% 高 24.5%
レベル 3	万引は大した犯罪ではないから	中 1.7% 高 1.5%	
レベル 4	店にも責任があるから	中 14.9% 高 11.7%	
グループ C 法的観点あり、かつ、被疑少年への配慮あり		レベル毎の割合	グループ毎の割合
レベル 5	子どもなら誰でもやることであり、放っておけばそのうちやめるから	中 2.4% 高 2.5%	中 59.2% 高 60.7%
レベル 6	犯罪者として扱うのは子どもの将来を奪うことになるから	中 56.8% 高 58.2%	

グループ毎の割合で見ると、中高生ともに、グループ A から C へと段階が上がるに連れて、回答率が高くなっている。警察に通報すべきではないと考える際に、法的観点と被疑少年への配慮の双方もしくはそのいずれかからの理由に思い至る者は、中高生で十分にその割合が高いと考えられる。これらは、全体として、前回調査と同様の傾向である。

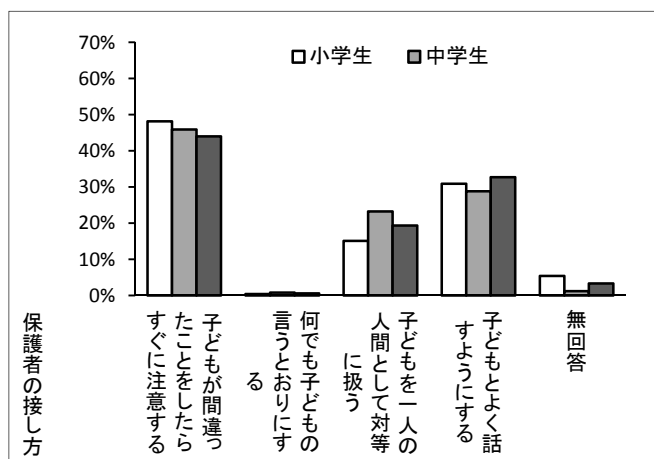
3. 日頃の保護者の対応

(小) 問7. 保護者は子どもが万引などの犯罪行為をしないようにするために、日頃から子どもとどのように接すればいいと思いますか。ひとつだけえらんでください。

(中高) 問10. 保護者は子どもが万引などの犯罪行為をしないようにするために、日頃から子どもとどのように接すればいいと思いますか。ひとつだけ選んでください。

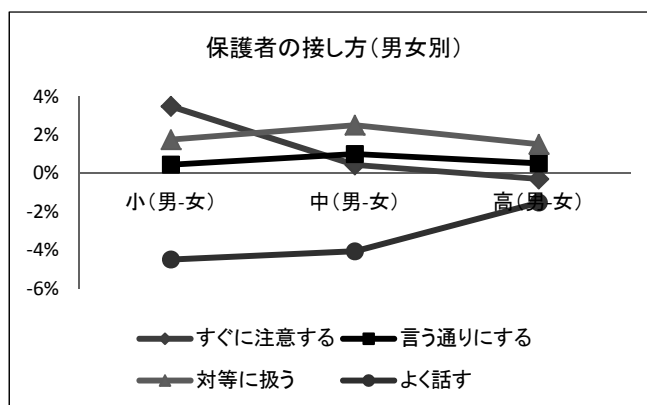
1. 子どもが間違っただけをしたらすぐに注意する
2. 何でも子どもの言うとおりにする
3. 子どもを一人の人間として対等に扱う
4. 子どもとよく話すようにする

この設問は、保護者がどのように子どもと接すれば万引などの犯罪行為をしなくなると思うかをたずねるものであり、子どもが望ましいものとして求める保護者の態度について調査すべく、前回から新たに加えたものである。前回とは、選択肢3の文言が「子どもを大人として対等に扱う」(前回) から「子どもを一人の人間として対等に扱う」に変更されている。



小中高を通じて回答傾向は同じであり、割合の高い順に、「子どもが間違っただけをしたらすぐに注意する」(小 48.2%、中 45.9%、高 44.0%)、「子どもとよく話すようにする」(小 30.9%、中 28.8%、高 32.7%)、「子どもを一人の人間として対等に扱う」(小 15.1%、中 23.2%、高 19.4%) という結果であった。前回と比べて大きく変化したのは、文言を変更した選択肢3である。前は、小 5.1%、中 9.2%、高 10.0%であり、小中高を通じて約10%の回答率上昇があった。

小中高別に選択肢の回答率の男女の差(グラフでは、割合(%)の差で表記してある)をとり、年齢順に並べてその推移を見てみると、「すぐに注意する」と「よく話す」については、小学生から高校生へと男女差がなくなっている。これに対して、「言う通りにする」、「対等に扱う」については、男女



差には変化がない。

この設問についても、満足度高群・中群・低群の3分類に基づく本設問の回答傾向の相違を見ておこう。

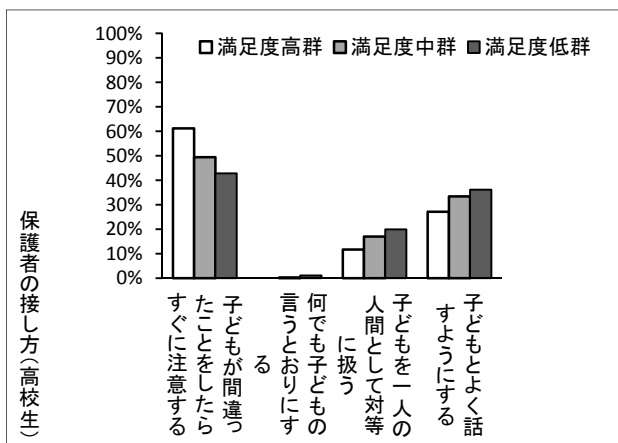
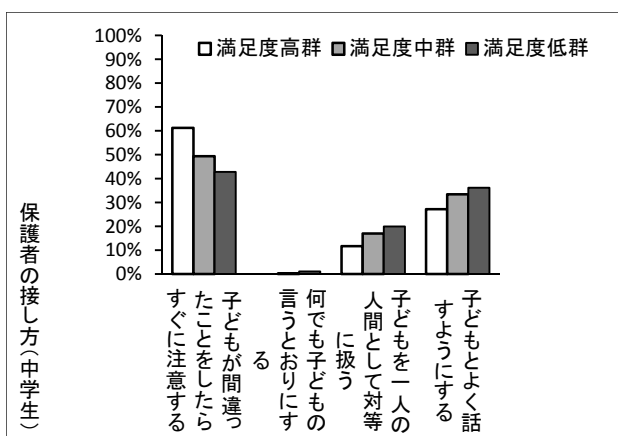
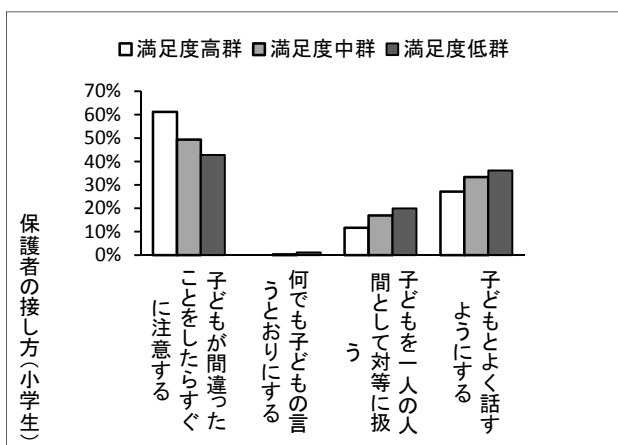
「すぐに注意する」を選択した者の割合は、小中高ともに、満足度高群から低群になるにつれて下がっている（小：満足度高群 61.2% > 中群 49.4% > 低群 42.8%；中：満足度高群 55.9% > 中群 45.9% > 低群

39.9%；高：満足度高群 51.0% > 中群 42.9% > 低群 47.7%）。他方、「対等に扱う」を選択した者の割合は、小中高ともに、満足度高群から低群になるにつれて上がっている（小：満足度高群 11.7% < 中群 17.0% < 低群 19.9%；中：満足度高群 17.5% < 中群 23.3% < 低群 29.8%；高：満足度高群 14.5% < 中群 21.2% < 低群 22.2%）。

前回調査の際に行なった選択肢の分類（保護者の視点から、子ども個人を中心に考えるのか、子どもとの関係を重視するのか、という軸（個人重視／関係重視）、および、保護者の視点から、子どもの現在を重視するのか、未来を重視するのか、という軸（現在重視／未来重視）による

分類（第八回報告書 31 頁）に従うと、「すぐに注意する」は《未来重視＋個人重視》に分類され、「対等に扱う」は《未来重視＋関係重視》に分類される。

この分類に従って考えるならば、「個人の満足度」が相対的に高い者たちは低い者たちに比べて、保護者に対して個人重視の接し方を求める傾向があるのに対し、「個人の満足度」が相対的に低い者たちは高い者たちに比べて、保護者に対して関係重視の接し方を求める傾向があると言えよう。「万引をした子どもを捕まえた店は警察に通報すべきか」を尋ねた設問についての満足度の群別傾向（本章第 1 節）と合わせて考えると、「個人の満足度」が高い者ほど、注意や通報といった個人への対応をきちんとすることを求める傾向が強い



とも考えられよう。

ただし、ここでも注意すべきなのは、満足度高群、中群、低群いずれも、それぞれの群の中で見た場合に、それぞれの項目の回答割合の順位が同じだということである。つまり、満足度が低いからといって、満足度が高い場合に比べて特異な回答傾向が示されるということはないことに注意しておく必要がある。

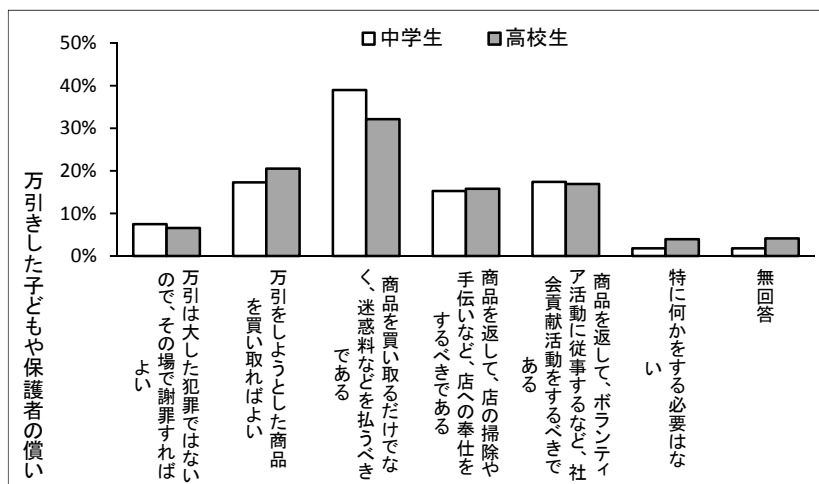
4. 万引後の保護者と子どもの対応（中高生のみ）

（中高）問 11. 万引をした子どもやその保護者はどのような償いをすべきだと思いますか。ひとつだけ選んでください。

1. 万引は大した犯罪ではないので、その場で謝罪すればよい
2. 万引をしようとした商品を買えばよい
3. 商品を買取だけでなく、迷惑料などを払うべきである
4. 商品を返して、店の掃除や手伝いなど、店への奉仕をするべきである。
5. 商品を返して、ボランティア活動に従事するなど、社会貢献活動をするべきである
6. 特に何かをする必要はない

万引被害を受けた店舗に対して、万引少年とその保護者（親）は、いかなる対応をすべきだと考えるかを問う設問である。中高生ともに、最も割合の高かったのは、前回調査と同様、「買取だけでなく、迷惑料を払うべき」（中 39.0%、高 32.1%）であった。第二位以降の回答傾向は中

学生と高校生で若干の違いが見られる。中学生の場合は、「社会貢献活動をするべき」（17.4%）と「買取ればよい」（17.3%）がほぼ同率で二位であり、その下に「店への奉仕をするべき」（15.3%）が続く、大きく差がつ



いて「謝罪すればよい」（7.5%）である。高校生の場合は、割合の高い順に、「買取ればよい」（20.5%）、「社会貢献活動をするべき」（16.9%）、「店への奉仕をするべき」（15.8%）であり、大きく差がついて「謝罪すればよい」（6.6%）が続く。

本設問の回答傾向をもう少し詳しくつかむために、前節で扱った問 10（日頃の保護者の対応）での回答によって、本設問の回答傾向がどのように変わるのを見よう。問 10

の選択肢のうち、十分な回答者数を得たもの、すなわち、「子どもが間違っただけをしただけにすぐに注意する」、「子どもを一人の人間として対等に扱う」、「子どもとよく話すようにする」の3つについての回答と、本設問の回答傾向の関係を見ることとする。

すでに前節で示した通り、前回調査での分類に従って、「すぐに注意する」は《未来重視+個人重視》、「対等に扱う」は《未来重視+関係重視》、「よく話す」は《現在重視+関係重視》の回答として捉えておく。ここでは、個人重視か関係重視かにのみ着目し、個人重視の「すぐに注意する」という回答と、関係重視の「対等に扱う」「よく話す」という回答との対照で、本設問の回答傾向を見ていく。

これら3つの選択肢を回答した者のうち、本設問で「商品を買って返さず迷子料などを払うべきである」と回答した者の占める割合は、個人重視（「すぐに注意する」）の場合が、関係重視（「対等に扱う」「よく話す」）の場合を上回っている（中：「すぐに注意」42.9%、「対等に扱う」38.4%、「よく話す」36.6%；高：「すぐに注意」36.2%、「対等に扱う」33.3%、「よく話す」30.0%）。他方、問10の3つの選択肢を回答した者のうち、本設問で「商品を返して、ボランティア活動に従事するなど社会貢献活動をするべきである」と回答した者の占める割合は、関係重視（「対等に扱う」「よく話す」）の場合が、個人重視（「すぐに注意する」）の場合を上回っている（中：「すぐに注意」15.2%、「対等に扱う」20.0%、「よく話す」20.3%；高：「すぐに注意」14.6%、「対等に扱う」18.6%、「よく話す」21.4%）。

ここから窺われるのは、保護者の接し方について、個人重視の対応を求める者ほど、万引犯に対して金銭的な弁償や罰金による応報的な解決を求める傾向があり、他方、関係重視の対応を求める者ほど、万引犯に対して社会貢献活動などによる修復的な解決を求める傾向がある、ということである。この傾向は、第8回調査においてもほぼ同様に見られる。

なお、本設問については、満足度の群別の回答傾向に目立った特徴をみいだすことはできなかった。

5. 万引をしなくなるための対策

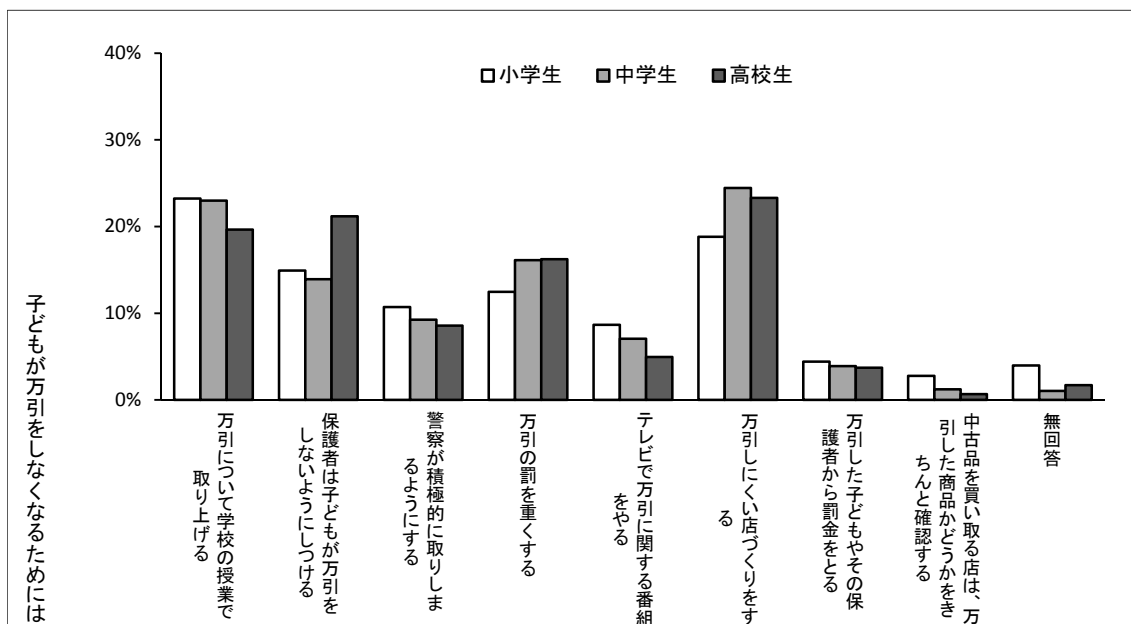
(小)問8. あなたは子どもが万引をしなくなるためにどうすればよいと思いますか。もっとも効果があると思うことをひとつだけえらんでください。

(中高)問12. あなたは子どもが万引をしなくなるためにはどうすればいいと思いますか。もっとも効果があると思えることをひとつだけ選んでください。

1. 万引について学校の授業でとりあげる
2. 保護者は子どもが万引をしないようにしつける
3. 警察が積極的に取り締まるようにする
4. 万引（窃盗）の刑罰を重くする
5. テレビで万引に関する番組を放送する
6. 万引しにくい店づくりをする

7. 店は万引した子どもやその保護者から罰金、迷惑料などをとる
8. 中古品を買い取る店は、万引した商品かどうかをきちんと確認する

少年が万引をしなくなるための対策を問うている。前回調査と同様、小中高での回答傾向にばらつきが見られた。小学生では、「学校の授業でとりあげる」(23.2%)、「店づくり」(18.8%)、「保護者がしつける」(14.9%)、「厳罰化」(12.5%)、「警察が取り締まる」(10.7%)



という順である。中学生では、「店づくり」(24.5%)、「学校の授業でとりあげる」(23.0%)、「厳罰化」(16.1%)、「保護者がしつける」(13.9%)、「警察が取り締まる」(9.3%) という順である。高校生では、「店づくり」(23.3%)、「保護者がしつける」(21.2%)、「学校の授業でとりあげる」(19.6%)、「厳罰化」(16.2%)、「警察が取り締まる」(8.6%) の順である。小中高に共通しているのは、万引しにくい店づくりに効果をみいだす割合が高く、逆に、警察が取り締まることに効果をみいだす割合が比較的低い、ということである。

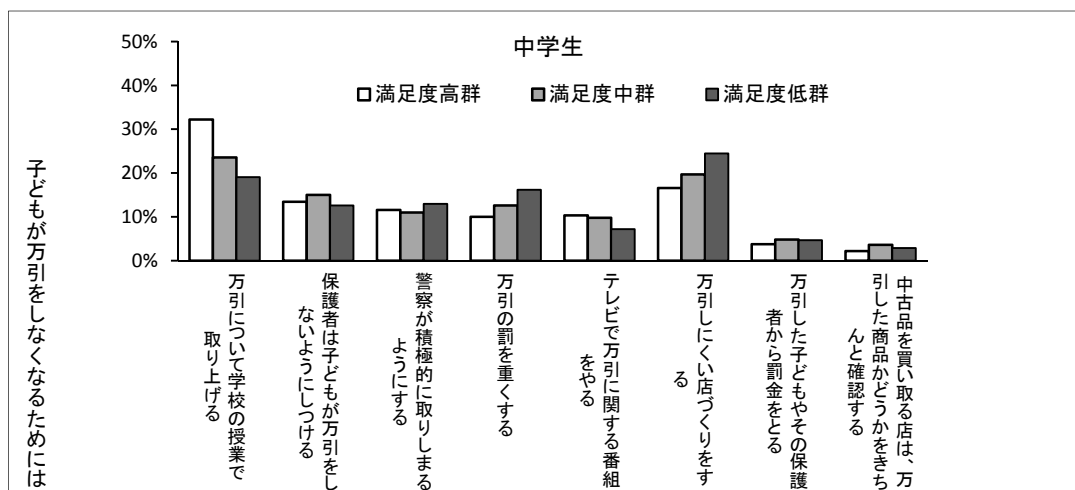
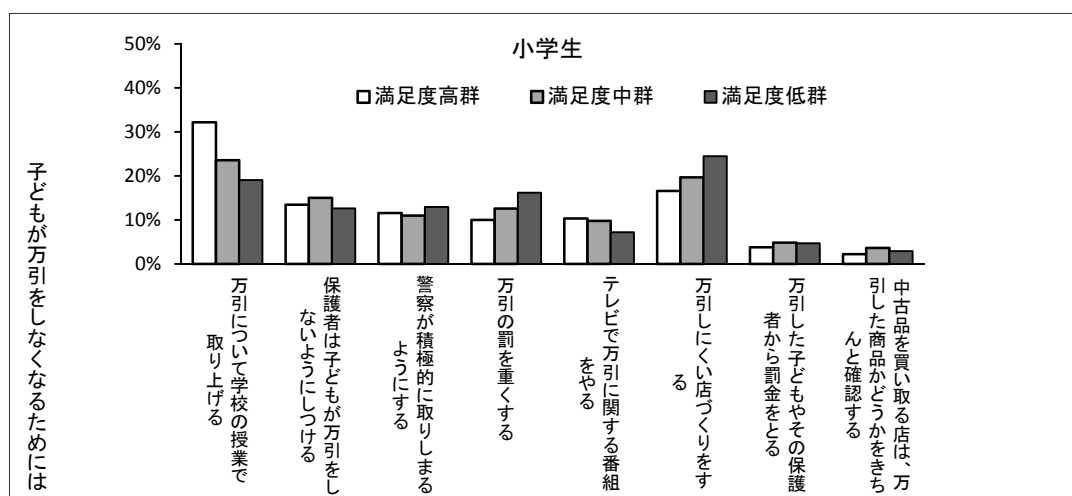
また、男女差については、小中高を通じて、「厳罰化」と回答した者の割合は男子の方が高い(小:男 14.7% > 女 10.0%; 中:男 18.0% > 女 14.2%; 高:男 18.7% > 女 13.7%)。これに対して、「学校の授業でとりあげる」と回答した者の割合は、小学生と高校生で男女差が見られるが、中学生では男女差がほぼない(小:女 26.9% > 男 19.5%; 中:男 23.3% ≒ 女 22.7%; 高:女 22.0% > 男 17.1%)。「警察が取り締まる」も同様である(小:男 12.6% > 女 8.9%; 中:男 9.4% ≒ 女 9.0%; 高:男 9.5% > 女 7.8%)。前回調査の結果に照らせば、女子の方が学校の対策を重視し、男子の方が警察や厳罰化を重視する傾向がある、と言えそうである。

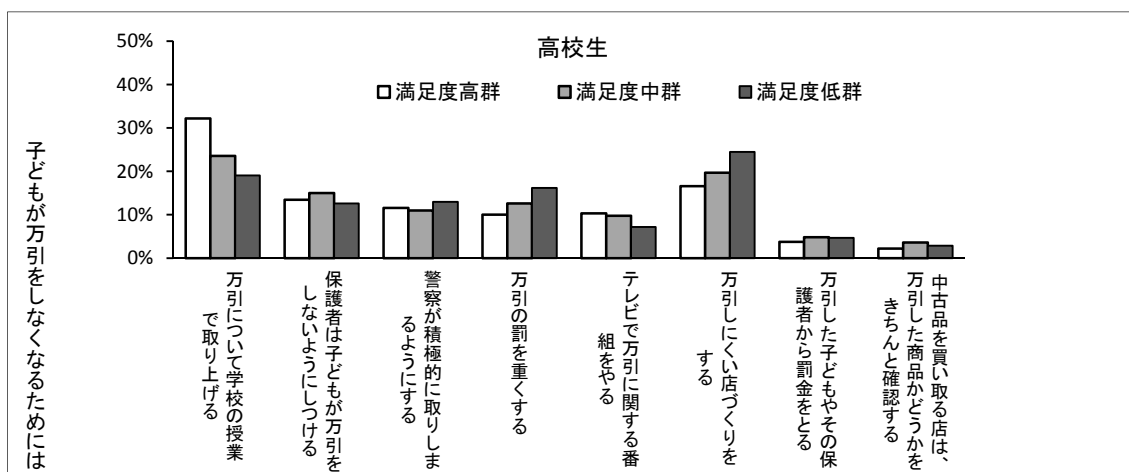
ここで、前回調査と同様に、選択肢を「直接的な予防措置」と「啓発的な対策」、「懲罰的な対策」に分類してみると、以下のようになる。

対策の種類	選択肢	回答率
直接的な予防措置	「店づくり」「万引商品の確認」	小 21.6%、中 25.7%、高 24.0%
啓発的な対策	「しつけ」「授業でとりあげる」「テレビ番組」	小 46.8%、中 44.0%、高 45.8%
懲罰的な対策	「取り締まり」「厳罰化」「店が罰金をとる」	小 27.6%、中 29.3%、高 28.5%

前回調査と同様、小中高の間で、効果があると答えた者の割合について、啓発的な対策、懲罰的な対策、直接的な予防措置の順に高いという共通の傾向が見られる。小中高生を通じて、個別に見れば、万引しにくい店づくりが重要だと考える者の割合が高いが、もう少し一般的な傾向として見た場合、店舗側の対応に比べて、教育的な対応により高い効果を期待する者が多いことが窺われる。

ここで、満足度の群別の回答傾向の違いを本設問についても見ておこう。直接的な予防措置の中から「万引しにくい店づくりをする」を、啓発的な対策の中から「万引について学校の授業でとりあげる」を、懲罰的な対策の中から「万引の罪を重くする」を取り上げて見る。「学校の授業で取り上げる」について見ると、小中高に共通して、満足度高群から低群へと回答割合が下がっている（小：満足度高群 32.2% > 中群 23.6% > 低群 19.1%；





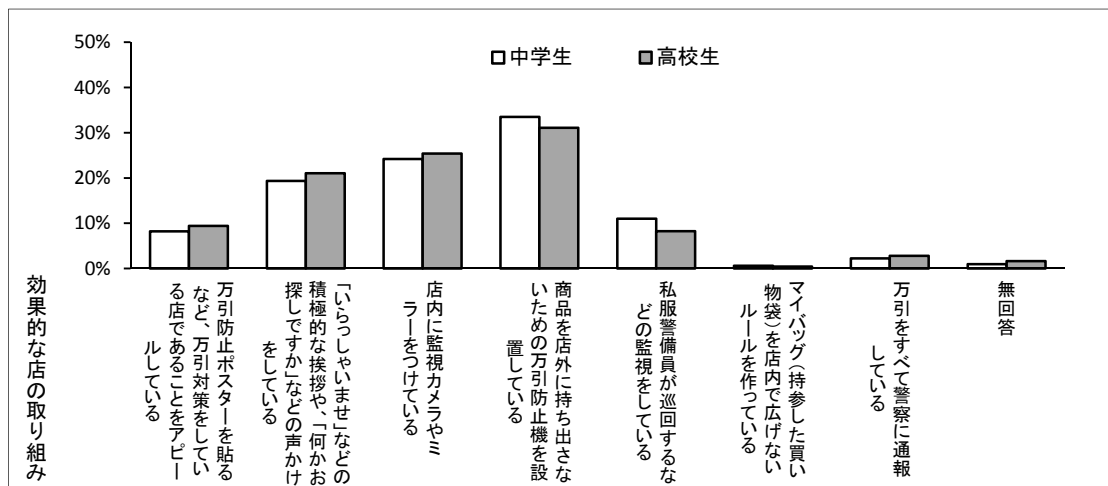
中：満足度高群 28.1% > 中群 22.3% > 低群 19.6% ; 高：満足度高群 22.8% > 中群 19.8% > 低群 19.2%。他方、「厳罰化」（小：満足度高群 10.0% < 中群 12.6% < 低群 16.2% ; 中：満足度高群 15.3% < 中群 16.1% < 低群 18.9% ; 高：満足度高群 15.6% < 中群 16.7% < 低群 17.2%）、「店づくり」（小：満足度高群 16.6% < 中群 19.7% < 低群 24.5% ; 中：満足度高群 20.1% < 中群 26.2% = 低群 25.7% ; 高：満足度高群 18.7% < 中群 25.3% < 低群 26.0%）は、小中高にだいたい共通して、満足度高群から低群へと回答割合が上がっている。

本設問についての回答傾向を解釈すると、「個人の生活満足度」が高い者ほど、学校での教育を通じた啓発的な対策を好む傾向があり、「個人の生活満足度」が低い者ほど、刑罰を重くする法的措置や店内の防犯設備を充実させる環境管理型措置などの予防的・懲罰的な対策を好む傾向があると考えられる。

6. 効果的だと思う万引対策—店舗編—（中高生のみ）

（中高）問 13. 店は万引をさせないための取り組みをしています。この中でもっとも効果的だと思う取り組みをひとつだけ選んでください。

1. 万引防止ポスターを貼るなど、万引対策をしている店であることをアピールしている
2. 「いらっしゃいませ」などの積極的な挨拶や、「何かお探ですか」などの声かけをしている
3. 店内に監視カメラやミラーをつけている
4. 商品を店外に持ち出さないための万引防止機を設置している
5. 私服警備員が巡回するなどの監視をしている
6. マイバッグ（持参した買い物袋）を店内で広げないルールを作っている
7. 万引をすべて警察に通報している



店が行なっている万引対策のうち、どの対策が効果的だと思うかを尋ねる設問である。中高生ともに、「万引防止機の設置」を選んだ者の割合（中 33.5%、高 31.1%）が最も高く、次いで「監視カメラやミラーの設置」（中 24.2%、高 25.4%）、「挨拶、声かけ」（中 19.4%、高 21.0%）という順であった。この傾向は、前回調査と概ね同じである。また、「全件通報」を選んだ者の割合は、中高生ともに低かった（中 2.2%、高 2.8%）。

ここで、前回調査と同じく、本設問の選択肢を、潜在的な万引犯への威嚇的対策と、客一般への働きかけによる間接的対策とにグループ分けしてみよう。

対策の種類	選択肢	回答率
威嚇的対策	監視カメラやミラーの設置	中 68.7% 高 64.8%
	万引防止機の設置	
	警備員の巡回	
間接的対策	万引対策店であることのアピール	中 28.2% 高 30.8%
	挨拶、声かけ	
	マイバッグ利用ルールの設定	

これもまた前回調査と同じく、中高生を通じて、潜在的な万引犯に対して威嚇する対策に効果があると7割弱の者が考えており、店に来訪する客全員に向けた間接的対策に効果があると考えた者の割合を大きく上回った。ただし、多くの回答者は、自分が万引することを考えて回答したというよりも、万引する人の視点を想像して回答したと考えるべきであるのは、前回と同様である。

なお、本設問については、満足度の群別の回答傾向に目立った特徴をみいだすことはできなかった。

7. 効果的だと思う万引対策—学校・警察編—（中高生のみ）

（中高）問 14. 学校や警察などは、万引防止のための取り組みや制度を整備していますが、この中でもっとも効果的だと思うものをひとつだけ選んでください。

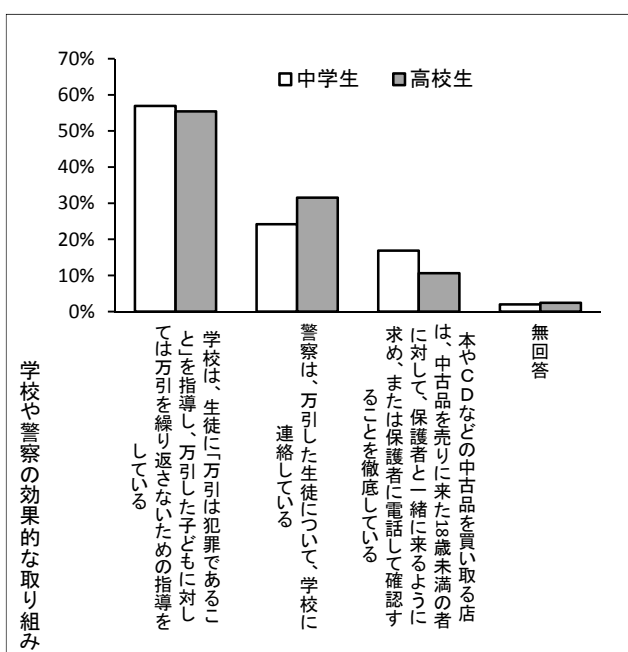
1. 学校は、生徒に「万引は犯罪であること」を指導し、万引した子どもに対しては万引を繰り返さないための指導をしている
2. 警察は、万引した生徒について、学校に連絡している
3. 本やCDなどの中古品を買い取る店は、中古品を売りに来た 18 歳未満の者に対して、保護者と一緒に来るように求め、または保護者に連絡して確認することを徹底している

学校と警察が行なっている万引対策のうち、どの対策が効果的だと思うかを尋ねる設問である。前回と同様今回も、選択肢を店（問 13）と学校・警察（問 14）に振り分けて独立の設問としてある。

前回調査と同じく、中高生ともに、回答率の高い順に、「学校での指導」（中 56.9%、高 55.4%）、「警察が学校に連絡」（中 24.2%、高 31.5%）、「中古品買取店が保護者に確認」（中 16.9%、高 10.6%）という順であった。多くの中高生が、学校という場を非行防止に有効な教育の場だと考えていることが窺われる。

男女差について述べると、中高生を通じて、「学校での指導」は女子の回答割合が高く（中：女 58.4% > 男 55.6%；高：女 57.7% > 男 52.8%）、「警察が学校に連絡」は男子の回答割合が高い（中：男 26.6% > 女 21.6%；高：男 34.0% > 女 29.3%）。女子が学校の役割を重視し、男子が警察の役割を重視しがちなのは、「5. 万引をしなくなるための対策」に見られた男女差と共通する特徴である。これは、前回調査と同様の結果である。

本設問について、満足度の群別回答傾向（次ページの図）を見ると、「学校での指導」は、中高生に共通して、満足度高群から低群へと回答割合が下がっている（中：満足度高群 64.2% > 中群 59.5% > 低群 50.9%；高：満足度高群 59.1% > 中群 56.3% > 低群 53.2%）。他方、「警察が学校に連絡」（中：満足度高群 22.7% < 中群 23.8% < 低群 27.1%；高：満足度高群 29.8% < 中群 33.0% ≒ 低群 33.3%）および「中古品買取店が保護者に確認」（中：満足度高群 13.1% < 中群 16.7% < 低群 22.0%；高：満足度高群 11.1% ≒ 中群 10.7% < 低群 13.5%）は、中高生に共通して、満足度高群から低群へと回答率が下がっている。



以上のように、「個人の満足度」が相対的に高い者が、学校の教育により高い効果をみいだす傾向があるのに対し、「個人の満足度」が相対的に低い者は、警察による学校への連絡や、店舗と保護者の連携により高い効果をみいだす傾向があると考えられる。

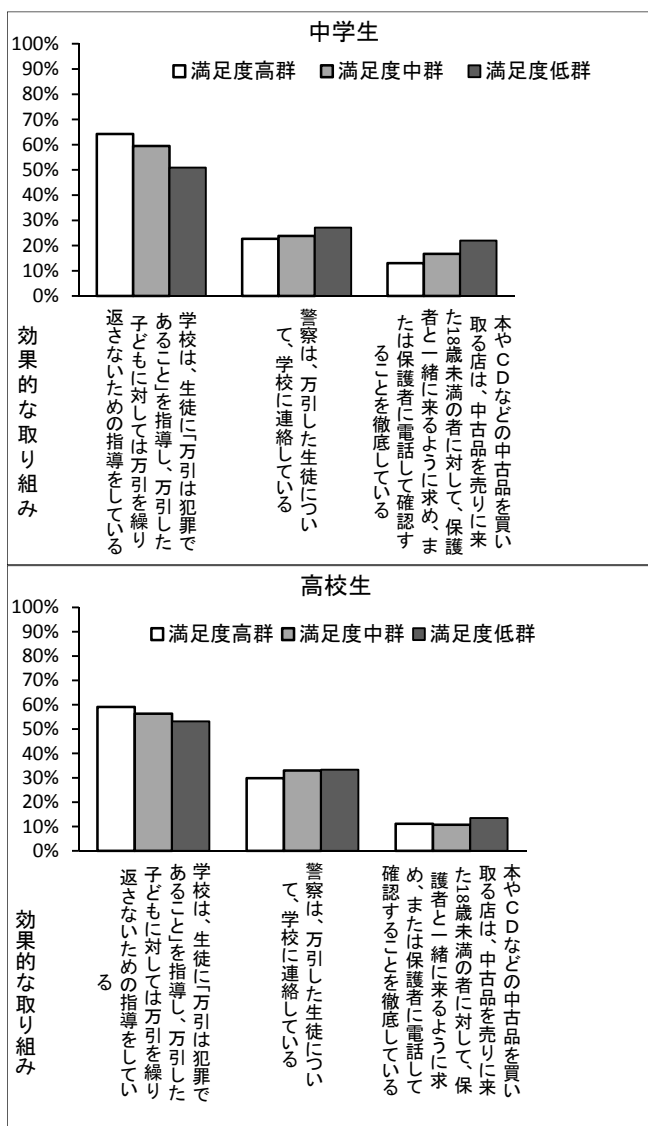
ただし、ここでも注意すべきなのは、満足度高群、中群、低群いずれも、それぞれの群の中で見た場合に、それぞれの項目の回答割合の順位が同じだということである。つまり、満足度が低いからといって、満足度が高い場合に比べて特異な回答傾向が示されるということはないことに注意しておく必要がある。

最後に、ここまでに本章で言及してきた満足度の群別回答傾向から、少年たちの意識にどのような傾向が見られるかについて、仮説を述べておく。

まず、満足度高群に属する、「個人の生活満足度」が相対的に高い者は、それが相対的に低い者に比べて、保護者に対して個人重視の対応を求め、万引犯を捕まえた店は警察にきちんと通報すべきだと考え、万引予防に効果的なのは学校での教育であると考えられる傾向がある。自分の生活環境に満足していると、多くの場合、個人を重視した対応が望ましいと考えがちである。

他方、満足度低群に属する、「個人の生活満足度」が相対的に低い者は、それが相対的に高い者に比べて、保護者に対して関係重視の対応を求め、万引犯を捕まえても店は警察に通報すべきだとは考えず、万引予防に効果的なのは、法や店舗環境の整備であると考えられる傾向がある。自分の生活環境にあまり満足していないと、個人というよりも人間関係や環境を重視した対応が望ましいと考えがちだということであろう。

少し穿って見れば、自分の生活に対して高い満足を得ているということは、自尊心が強く、個人としての自律を重んじる傾向を育む（あるいは、そうした傾向を身につけることは自分の生活への高い満足につながる）と言えよう。他方で、自分の生活にあまり高い満



足を得られないと、自尊心はそれほど強くはならず、自分で自律的に何とかするよりも、法や機器による防犯環境の整備など外部の力に頼る傾向が育まれる（あるいは、そうした傾向を身につけることは自分の生活への高い満足につながらない）と言えよう。

しかし、第2章および第3章での分析を踏まえると、別の解釈も成り立ちうる。すなわち、自分の生活に対して高い満足を得ている者ほど、保護者や学校といった庇護してくれる存在に信頼あるいは依存する傾向があり、むしろ、自分の生活に対してあまり満足していない者ほど、そうした庇護してくれる存在に頼らず、自らの力で規範意識を育む傾向があるとも言えるだろう。たとえば、自分の生活に満足しないがゆえに、一方では、「万引は自分のためにならないから」という仕方で、他方では、「万引は店をつぶすから」という仕方で、いわば現実的な選択肢を採りつつ規範意識を自律的に育てている、と考えることも可能である。

本報告書では詳細を論ずることはできないが、ここには、規範意識（とその育成）に関わる「自律」や「合理性」をどのように捉えるかという倫理的な問題が潜んでいるように思われる。一方には、利己的個人を想定した上でのある種の合理性を基礎に置いた規範意識の想定があり、他方には、道徳的存在者としての個人の自律を基礎に置いた規範意識の想定がある、とも考えられよう。今後、こうした方向での分析が深められることを期待したい。

まとめ —調査結果の概要—

第1章 自分の生活に関わる事柄についての満足度

(1) 自分自身に関わる事柄について児童生徒がどのような評価をしているか（どの程度満足しているか、不満足か）を7つの項目について尋ねた。それらを生活満足度として比較するために、「とても不満」を-2、「あまり満足していない」を-1、「どちらでもない」を0、「まあまあ満足」を+1、「とても満足」を+2として各項目での満足度評定の平均をとると、以下のような結果となった。なお、7項目全体の生活満足度平均は、小0.78、中0.43、高0.31である。

(2) 小学生について、7項目それぞれの満足度平均を高い順に並べると、第1位は「自分の保護者」(1.24)であり、以下「友達つきあい」(1.02)、「学外活動」(0.92)、「学校での生活」(0.81)、「自分の小遣い」(0.57)、「自分自身」(0.62)、「自分の成績」(0.25)が続く。

(3) 中学生について、同様に並べると、第1位は「友達つきあい」(0.84)であり、以下「自分の保護者」(0.80)、「学校での生活」(0.62)、「学外活動」(0.53)、「自分の小遣い」(0.29)、「自分自身」(0.28)、「自分の成績」(-0.31)が続く。

(4) 高校生について、同様に並べると、中学生と同じく第1位は「友達つきあい」(0.78)であり、以下「自分の保護者」(0.70)、「学校での生活」(0.48)、「自分の小遣い」(0.33)、「学外活動」(0.22)、「自分自身」(0.04)、「自分の成績」(-0.34)が続く。

なお、以上の小中高の満足度平均の順位は、前回調査と完全に同じであり、それぞれの項目の数値もほぼ同じであることから、前回と今回の調査を合わせて、少年たちの生活満足度として一般的な傾向を拾い上げることができたと考えてよかろう。

第2章 万引に対する基本的意識

(1) 万引は「絶対やってはいけないこと」とする小学生が96.6%を占めている。これに対して、中学生91.8%、高校生92.1%であり、小学生と中高生の違いがあった。これは前回調査と同じ傾向である。ただし、小学生では調査を開始した平成18年以降、つねに95%という高い割合を示していたのに対し、中高生では平成18年は8割前半だった。しかし、それ以降徐々に回答割合が高くなり、平成24年以降は9割を超えるようになった。

(2) 万引と他の非行（放置自転車乗り逃げ、未成年の飲酒、未成年の喫煙、いじめ、建物の落書き、暴力）を比べた場合、高校生と中学生における「未成年の飲酒」以外、すべて過半数が、万引と同じくらい悪いと回答した。また、「万引のほうが悪い」あるいは「他の非行のほうが悪い」のように、いずれかのほうが悪いという回答した場合を比較検討したところ、小学生、中学生、高校生で、次のような「悪い順の評価」が見られた。

小学生：いじめ>暴力>未成年喫煙>万引>未成年飲酒>落書き>放置自転車乗り逃げ、
中学生：いじめ>暴力>万引>未成年喫煙>未成年飲酒>落書き>放置自転車乗り逃げ、

高校生：いじめ＞暴力＞万引＞未成年喫煙＞未成年飲酒＞落書き≒放置自転車乗り逃げ。

(3) 万引をしてはいけない理由として最も多いのは、「法律を破ってはいけないから」(小 43.7%、中 43.8%、高 48.3%)、次いで小・中学生では「保護者が悲しむから」(小 25.0%、中 18.4%) が高く、高校生では「みんながやると商売が成り立たなくなるから」が高かった(高 20.5%)。「つかまると損だから」(小 2.9%、中 6.6%、高 6.9%) と「ばれるとカッコ悪いから」(小 0.4%、中 0.7%、高 1.1%) は比較的回答者の割合が低かった。

(4) 万引する理由として、小中高で回答者の割合が最も高かったのは「その品物が欲しいから」であり、半数を越えていた(小 62.7%、中 55.4%、高 55.6%)。「やらないと仲間外れにされるから」は小中で二番目に回答者の割合が最も高かったものであり(小 16.7%、中 17.0%)、高校生では三番目(11.2%)であった。「どきどきして楽しいから」は、小学生と中学生で回答者の割合が三番目に高く(小 6.9%、中 13.7%)、高校生では回答者の割合が二番目に高かったものである(高 15.9%)。

第3章 万引との関わり

(1) 万引を友達に誘われた経験の「ある」者(小 2.2%、中 2.4%、高 1.8%)は、前回調査と同様、全体としては少ない。ただし、地域別に見ると、他と比べて突出しているところがあるのも、前回調査と同様である。

(2) 万引に誘われたときの対処については、小学生は「はっきり断り、万引は犯罪であると注意する」(72.7%)が圧倒的に多いが、中高生は、「はっきり断り」、「あいまいな態度で無視する」を併せると、中 59.7%、高 66.4%になり、誘いにはのらず注意もしないと答えた者が多い。

(3) 店員として万引を目撃した場合の対応について、第一位は「子どもに近づいて、商品を返すように言う」(中 58.2%、高 48.9%)である。次いで、「すぐに店長に報告する」(中 18.5%、高 25.9%)、「その子どもが店を出てから、つかまえる」(中 14.9%、高 15.1%)であり、「だまって放っておく」という回答も若干見られた(中 3.9%、高 5.5%)。

(4) 万引しやすい店については、全体の8割近くが「知らない」(中 83.6%、高 81.8%)と答えているが、残りの2割弱は「知っている」(中 15.9%、高 15.2%)と答えており、決して少なくはない。

(5) 具体的に万引しやすい店は、「駄菓子屋」(中 34.5%、高 25.4%)、「スーパー」(中 19.6%、高 27.3%)、「コンビニ」(中 16.7%、高 12.6%)、「書店・文具店」(中 8.0%、高 6.7%)、「100円ショップ」(中 5.7%、高 4.1%)、「雑貨・玩具店」(中 4.3%、高 7.3%)、「ドラッグストア・化粧品店」(中 3.2%、高 7.5%)である。

第4章 万引少年に対する対応

(1) 万引をした子どもを捕まえた店が警察に通報すべきかについて、「そう思う」が7割程度(中 75.7%、高 70.9%)であり、「そう思わない」が3割弱(中 23.3%、高 27.8%)

である。前回調査とほぼ同じ割合である。

(2) この設問に対して「そう思わない」理由の第1位は「犯罪者として扱うのは子どもの将来を奪うことになるから」(中 56.8%、高 58.2%)であり、「店にも責任がある」(中 14.9%、高 12.4%)が続く。第3位と第4位は、「品物は戻るので損害は発生していないから」(中 13.6%、高 11.7%)、「かわいそうだから」(中 9.3%、高 11.3%)である。そして第5位以下は、「子どもなら誰でもやることであり、放っておけばそのうちやめるから」(中 2.4%、高 2.5%)、「万引は大した犯罪ではないから」(中 1.7%、高 1.5%)である。

(3) 子どもが万引などの犯罪行為をしないように求められる日頃の保護者の対応の第1位は「子どもが間違っただけをしたらすぐに注意する」(小 48.2%、中 45.9%、高 44.0%)であり、以下「子どもとよく話すようにする」(小 30.9%、中 28.8%、高 32.7%)、「子どもを一人の人間として対等に扱う」(小 15.1%、中 23.2%、高 19.4%)が続く。「何でも子どもの言うとおりにする」は極めて少数であった(小 0.4%、中 0.8%、高 0.6%)。

(4) 万引をした子どもとその保護者がなすべき償いの第1位は「買い取るだけでなく、迷惑料を払うべき」(中 39.0%、高 32.1%)であり、第2位と第3位は、中学生については、「社会貢献活動をするべき」(17.4%)、「買い取ればよい」(17.3%)であり、高校生については、「買い取ればよい」(20.5%)、「社会貢献活動をするべき」(16.9%)である。第4位以下は、「店への奉仕をするべき」(中 15.3%、高 15.8%)、「謝罪すればよい」(中 7.5%、高 6.6%)、「何もする必要はない」(中 1.8%、高 3.9%)である。

(5) 子どもが万引をしなくなるためにすべきことについては、小中学生で回答傾向が異なっている。小学生では、第1位が「学校の授業でとりあげる」(23.2%)、第2位が「店づくり」(18.8%)であり、以下「保護者がしつける」(14.9%)、「厳罰化」(12.5%)、「警察が取り締まる」(10.7%)が続く。中学生では、「店づくり」(24.5%)が第1位であり、「学校の授業でとりあげる」(23.0%)が続き、以下「厳罰化」(16.1%)、「保護者がしつける」(13.9%)、「警察が取り締まる」(9.3%)が続く。高校生では、「店づくり」(23.3%)が第1位であり、次いで「保護者がしつける」(21.2%)、「学校の授業でとりあげる」(19.6%)が続き、その後を「厳罰化」(16.2%)、「警察が取り締まる」(8.6%)が続く。

(6) 万引防止のために最も効果的だと思う店の取り組みの第1位は「万引防止機の設置」(中 33.5%、高 31.1%)であり、以下「監視カメラやミラーの設置」(中 24.2%、高 25.4%)、「挨拶、声かけ」(中 19.4%、高 21.0%)と続く。4位と5位は、「警備員の巡回」(中 11.0%、高 8.3%)、「万引対策店であることのアピール」(中 8.2%、高 9.4%)と中高生で逆転するが、その後は中高生共通で、「警察に全件通報」(中 2.2%、高 2.8%)、「マイバッグを店内で広げないルール」(中 0.6%、高 0.4%)が続く。

(7) 万引防止のために最も効果的だと思う学校や警察の取り組みの第1位は「学校での指導」(中 56.9%、高 55.4%)であり、以下「警察が学校に連絡」(中 24.2%、高 31.5%)、「中古品買取店が保護者に確認」(中 16.9%、高 10.6%)が続く。

本文で言及しているように、前回調査と今回調査の全般的な回答傾向はほぼ同じである。

調査票

〈万引についての全国青少年意識調査・小学生用〉

*都道府県名・学校名を記入し、性別には○をつけて下さい。

*都道府県名	*学校名	性別
		男・女

記入についてのお願い

1. この調査は万引に対する考え方を全国の小学生のみなさんからお聞きするために、
文部科学省・警察庁もんぶかがくしやう けいさつちやうの協力を得ておこなうものです。
2. 調査の対象校は、都道府県別・規模別きぼに「くじ」でえらんでいます。
3. 下の質問に、あなたの考え方にもっともあてはまる番号をひとつだけえらんで、
○でかこんで下さい。記入は、鉛筆でもボールペンでもかまいません。
もし、回答したくない質問があれば、番号をえらばなくてもかまいません。
4. 書き終わったら、この用紙を封筒に入れ、封をして出して下さい。
5. この回答から、あなたが誰かわかるようなことはありません。

万引（まんびき）とは

「お金をはらわずに、お店の商品を持っていき、自分のものにすること」をいいます。

問1. 万引についてあなたはどのように考えていますか。ひとつだけえらんでください。

1. ぜったいにやってはいけないこと
2. やってはいけないことだが、そんなに大きな問題ではない
3. よくあることで、なにも問題ではない

問2. 万引とほかのこととくらべると、どちらが悪いと思いますか。

次の問2-1～6で、それぞれ1～3からひとつだけえらんでください。

問2-1. 万引と、放置自転車ほうちじてんしゃの乗り逃げをくらべると

1. 万引のほうが悪い
2. 同じくらい悪い
3. 乗り逃げのほうが悪い

問2-2. 万引と、子どもがお酒を飲むことをくらべると

1. 万引のほうが悪い
2. 同じくらい悪い
3. お酒を飲むほうが悪い

問2-3. 万引と、子どもがタバコを吸うことをくらべると

1. 万引のほうが悪い
2. 同じくらい悪い
3. タバコを吸うほうが悪い

問2-4. 万引と、いじめをくらべると

1. 万引のほうが悪い
2. 同じくらい悪い
3. いじめのほうが悪い

問2-5. 万引と、建物たてもものに落書きらくがきをすることをくらべると

1. 万引のほうが悪い
2. 同じくらい悪い
3. 落書きのほうが悪い

問2-6. 万引と、人に暴力ぼうりょくをふるうことをくらべると

1. 万引のほうが悪い
2. 同じくらい悪い
3. 暴力のほうが悪い

問3. 万引をしてはいけない理由として、もっともだと思ふ理由をひとつだけえらんでください。

1. 学校でいけないことと教わったから
2. つかまると損だから
3. ばれるとカッコ悪いから
4. 法律を破ってはいけないから
5. みんながやると商売が成り立たなくなるから
6. 保護者からいけないことと言われているから
7. 保護者が悲しむから

問4. 子どもが万引をするのはなぜだと思いますか。ひとつだけえらんでください。

1. ときどきして楽しいから
2. 自分もものをとられたことがあるから
3. やらないと仲間外れなかもはずにされるから
4. みんながやっているから
5. その品物が欲しいから
6. 店はたいして損をしないから
7. それほど悪いことではないから

問5. この1年間の間に、あなたは万引をしようとさそわれたことはありますか。ひとつだけえらんでください。

1. ある
2. ない

問6. 友だちから万引をしようとさそわれたら、あなたはどうしますか。ひとつだけえらんでください。

1. 友だちのさそいはことわれないので、なかまに入る
2. 友だちのさそいをあいまいな態度で無視むしする
3. 友だちのさそいをはっきりことわる
4. 友だちのさそいをはっきりことわり、万引は犯罪であると注意する

問7. 保護者ほごしやは子どもが万引などの犯罪行為をしないようにするために、日頃ひごろから子どもとどのように接すればいいと思いますか。ひとつだけえらんでください。

1. 子どもが間違っまちがたことをしたらすぐに注意する
2. 何でも子どもの言うとおりにする
3. 子どもを一人の人間として対等に扱う
4. 子どもとよく話すようにする

問8. あなたは子どもが万引をしなくなるためにどうすればよいと思いますか。
もっとも効果があると思うことをひとつだけえらんでください。

1. 万引について学校の授業で取り上げる
2. 保護者は子どもが万引をしないようにしつける
3. 警察が積極的に取りしめるようにする
4. 万引の罰を重くする
5. テレビで万引に関する番組をやる
6. 万引しにくい店づくりをする
7. 万引した子どもやその保護者から罰金をとる
8. 中古品を買い取る店は、万引した商品かどうかをきちんと確認する

問9. あなたは次の問9-1～7のことがらについて、どの程度満足していますか。
それぞれ自分にあてはまる数字（1～5）からひとつだけえらんでください。

- | | |
|---------------|----------------|
| 1 「とても不満である」 | 2 「あまり満足していない」 |
| 3 「どちらでもない」 | 4 「まあまあ満足している」 |
| 5 「とても満足している」 | |

- | | |
|---------------------------------|---------------|
| 問9-1. 自分自身について | (1 2 3 4 5) |
| 問9-2. 自分の保護者について | (1 2 3 4 5) |
| 問9-3. 学校での生活について | (1 2 3 4 5) |
| 問9-4. 自分の成績について | (1 2 3 4 5) |
| 問9-5. スポーツや習い事など、
学外での活動について | (1 2 3 4 5) |
| 問9-6. 自分の小遣いについて | (1 2 3 4 5) |
| 問9-7. 友達づきあいについて | (1 2 3 4 5) |

以上でおわりです。ご協力ありがとうございました。

〈万引に関する全国青少年意識調査・中高生用〉

*都道府県名・学校名を記入し、性別には○をつけて下さい

*都道府県名	*学校名	性別
		男・女

記入についてのお願い

1. この調査は万引などに対する考え方を全国の中学生・高校生の皆さんからお聞きするために、文部科学省・警察庁の協力を得て実施するものです。
2. 調査の対象校は都道府県別・規模別に無作為に選んでいます。
3. 以下の質問では、あなたの考え方にもっともあてはまる内容の番号をひとつだけ選び、○で囲んでください。記入は鉛筆でもボールペンでもかまいません。もし、回答したくない質問があれば、番号を選ばなくてもかまいません。
4. 書き終わったら、この用紙を封筒に入れ、封をして提出して下さい。
5. 調査内容は統計的に処理され、あなたが誰かわかるようなことはありません。

問1. 万引についてあなたはどのように考えていますか。

ひとつだけ選んでください。

1. 絶対にやってはいけないこと
2. やってはいけないことだが、そんなに大きな問題ではない
3. よくあることで、何も問題はない

問2. 万引と他のいくつかの行為を比べると、どちらが悪いと思いますか。

次の問2-1～6で、それぞれ1～3からひとつだけ選んでください。

問2-1. 万引と、放置自転車の乗り逃げを比べると

1. 万引のほうが悪い 2. 同じくらい悪い 3. 乗り逃げのほうが悪い

問2-2. 万引と、未成年者の飲酒を比べると

1. 万引のほうが悪い 2. 同じくらい悪い 3. 飲酒のほうが悪い

問2-3. 万引と、未成年者の喫煙を比べると

1. 万引のほうが悪い 2. 同じくらい悪い 3. 喫煙のほうが悪い

問2-4. 万引と、いじめを比べると

1. 万引のほうが悪い 2. 同じくらい悪い 3. いじめのほうが悪い

問2-5. 万引と、建物に落書きをすることを比べると

1. 万引のほうが悪い 2. 同じくらい悪い 3. 落書きのほうが悪い

問2-6. 万引と、人に暴力をふるうことを比べると

1. 万引のほうが悪い 2. 同じくらい悪い 3. 暴力のほうが悪い

問3. 万引をしてはいけない理由として、もっともだと思えるものをひとつだけ選んでください。

1. 学校でいけないことと教わったから
2. つかまると損だから
3. ばれるとカッコ悪いから
4. 法律を破ってはいけないから
5. みんながやると商売が成り立たなくなるから
6. 保護者からいけないこととされているから
7. 保護者が悲しむから

問4. 子どもが万引をする理由は何だと思えますか。ひとつだけ選んでください。

1. ときどきして楽しいから
2. 自分もものをとられたことがあるから
3. やらないと仲間外れにされるから
4. みんながやっているから
5. その品物が欲しいから
6. 店はたいして損をしないから
7. それほど悪いことではないから

問5. この1年の間に、あなたは万引をしようと誘われたことがありますか。

1. ある
2. ない

問6. 友達から万引しようと誘われたら、あなたはどうしますか。ひとつだけ選んでください。

1. 友達の誘いは断れないので、仲間に入る
2. 友達の誘いをあいまいな態度で無視する
3. 友達の誘いをはっきり断る
4. 友達の誘いをはっきり断り、万引は犯罪であると注意する

問7. あなたがコンビニでアルバイトをしているとして、子どもが棚の商品をカバンに入れているのを目撃したら、どのように対応しますか。

ひとつだけ選んでください。

1. すぐに店長に報告する
2. 大声で、その子どもに商品を返すように言う
3. その子どもに近づいて、商品を返すように言う
4. だまって放っておく
5. その子どもが店を出てから、つかまえる

問8. あなたの住んでいる近くで、万引をしやすいと言われている店を知っていますか。ひとつだけ選んでください。

1. 知っている
2. 知らない

問8-1. 上の問8で「1. 知っている」と答えた人だけに聞きます。

それはどういう店ですか。ひとつだけ選んでください。

1. スーパー
2. コンビニ
3. ドラッグストア・化粧品店
4. 書店・文具店
5. CD・ゲームソフト店
6. ホームセンター
7. 雑貨・玩具店
8. 衣料品店
9. 100円ショップ
10. スポーツ用品店
11. 家電店
12. デパート
13. 駄菓子屋

問9. 万引をした子どもを捕まえた店は、警察に通報すべきだと思いますか。

ひとつだけ選んでください。

1. そう思う
2. そう思わない

問9-1. 上の問9で「2. そう思わない」と答えた人だけに聞きます。

その理由をひとつだけ選んでください。

1. 万引は大した犯罪ではないから
2. 子どもなら誰でもやることであり、放っておけばそのうちやめるから
3. 品物は戻るので損害は発生していないから
4. 店にも責任があるから
5. 犯罪者として扱うのは子どもの将来を奪うことになるから
6. かわいそうだから

問10. 保護者は子どもが万引などの犯罪行為をしないようにするために、

日頃から子どもとどのように接すればいいと思いますか。

ひとつだけ選んでください。

1. 子どもが間違っただけをしたらすぐに注意する
2. 何でも子どもの言うとおりにする
3. 子どもを一人の人間として対等に扱う
4. 子どもとよく話すようにする

問11. 万引をした子どもやその保護者はどのような償い^{つぐな}をすべきだと思いますか。

ひとつだけ選んでください。

1. 万引は大した犯罪ではないので、その場で謝罪すればよい
2. 万引をしようとした商品を買取ればよい
3. 商品を買取だけでなく、迷惑料などを払うべきである
4. 商品を返して、店の掃除や手伝いなど、店への奉仕をするべきである
5. 商品を返して、ボランティア活動に従事するなど、社会貢献活動をするべきである
6. 特に何かをする必要はない

問12. あなたは子どもが万引をしなくなるためにはどうすればいいと思いますか。
もっとも効果があると思えることをひとつだけ選んでください。

1. 万引について学校の授業でとりあげる
2. 保護者は子どもが万引をしないようにしつける
3. 警察が積極的に取り締まるようにする
4. 万引（窃盗）の刑罰を重くする
5. テレビで万引に関する番組を放映する
6. 万引しにくい店づくりをする
7. 店は万引した子どもやその保護者から罰金、迷惑料などをとる
8. 中古品を買い取る店は、万引した商品かどうかをきちんと確認する

問13. 店は万引をさせないための取り組みをしていますが、この中でもっとも効果的だと思う取り組みをひとつだけ選んでください。

1. 万引防止ポスターを貼るなど、万引対策をしている店であることをアピールしている
2. 「いらっしゃいませ」などの積極的な挨拶や、「何かお探しですか」などの声かけをしている
3. 店内に監視カメラやミラーをつけている
4. 商品を店外に持ち出さないための万引防止機を設置している
5. 私服警備員が巡回するなどの監視をしている
6. マイバッグ（持参した買い物袋）を店内で広げないルールを作っている
7. 万引をすべて警察に通報している

問14. 学校や警察などは、万引防止のための取り組みや制度を整備していますが、この中でもっとも効果的だと思うものをひとつだけ選んでください。

1. 学校は、生徒に「万引は犯罪であること」を指導し、万引した子どもに対しては万引を繰り返さないための指導をしている
2. 警察は、万引した生徒について、学校に連絡している
3. 本やCDなどの中古品を買い取る店は、中古品を売りに来た18歳未満の者に対して、保護者と一緒に来るように求め、または保護者に電話して確認することを徹底している

問15. あなたは次の問15-1～7のことがらについて、どの程度満足していますか。
それぞれ自分にあてはまる数字（1～5）からひとつだけ選んでください。

- | | | |
|---|---------------|----------------|
| [| 1 「とても不満である」 | 2 「あまり満足していない」 |
| | 3 「どちらでもない」 | 4 「まあまあ満足している」 |
| | 5 「とても満足している」 | |
| | | |

問15-1. 自分自身について (とても不満 1 2 どちらでもない 3 4 とても満足 5)

- 問15-2. 自分の保護者について (とても不満 1 2 どちらでもない 3 4 とても満足 5)
- 問15-3. 学校での生活について (とても不満 1 2 どちらでもない 3 4 とても満足 5)
- 問15-4. 自分の成績について (とても不満 1 2 どちらでもない 3 4 とても満足 5)
- 問15-5. スポーツや習い事など、
学外での活動について (とても不満 1 2 どちらでもない 3 4 とても満足 5)
- 問15-6. 自分の小遣いについて (とても不満 1 2 どちらでもない 3 4 とても満足 5)
- 問15-7. 友達づきあいについて (とても不満 1 2 どちらでもない 3 4 とても満足 5)

以上で終わりです。ご協力ありがとうございました。

集計表

本調査の回答集計

小学生・中学生・高校生への共通質問

中学生・高校生のみへの質問

順位相関表

経年グラフ

全国・東京都万引統計 平成 25 年

本調査の回答集計
小学生・中学生・高校生への共通質問

小中高の間1 万引についてあなたはどのように考えていますか。
ひとつだけえらんでください。

		絶対にやってはいけ ないこと	やってはいけないこ とだが、そんなに大 きな問題ではない	よくあることで、何 も問題ではない	無回答	合計
小学生	男	1054 95.3%	47 4.2%	2 0.2%	3 0.3%	1106 100%
	女	1091 97.8%	24 2.2%	0 0.0%	1 0.1%	1116 100%
	無回答	16 100%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	16 100%
	合計	2161 96.6%	71 3.2%	2 0.1%	4 0.2%	2238 100%
中学生	男	2212 90.8%	181 7.4%	7 0.3%	37 1.5%	2437 100%
	女	2140 93.0%	134 5.8%	5 0.2%	22 1.0%	2301 100%
	無回答	43 86.0%	4 8.0%	0 0.0%	3 6.0%	50 100%
	合計	4395 91.8%	319 6.7%	12 0.3%	62 1.3%	4788 100%
高校生	男	2107 89.5%	201 8.5%	10 0.4%	36 1.5%	2354 100%
	女	2290 95.0%	98 4.1%	4 0.2%	19 0.8%	2411 100%
	無回答	66 82.5%	7 8.8%	1 1.3%	6 7.5%	80 100%
	合計	4463 92.1%	306 6.3%	15 0.3%	61 1.3%	4845 100%

小中高の間2—1 万引と、放置自転車の乗り逃げをくらべると

		万引のほう が悪い	同じくらい 悪い	乗り逃げ のほうが 悪い	無回答	合計
小学生	男	236 21.3%	804 72.7%	63 5.7%	3 0.3%	1106 100%
	女	229 20.5%	857 76.8%	29 2.6%	1 0.1%	1116 100%
	無回答	4 25.0%	12 75.0%			16 100%
	合計	469 21.0%	1673 74.8%	92 4.1%	4 0.2%	2238 100%
中学生	男	685 28.1%	1594 65.4%	156 6.4%	2 0.1%	2437 100%
	女	660 28.7%	1553 67.5%	83 3.6%	5 0.2%	2301 100%
	無回答	20 40.0%	27 54.0%	3 6.0%		50 100%
	合計	1365 28.5%	3174 66.3%	242 5.1%	7 0.1%	4788 100%
高校生	男	701 29.8%	1509 64.1%	135 5.7%	9 0.4%	2354 100%
	女	733 30.4%	1612 66.9%	61 2.5%	5 0.2%	2411 100%
	無回答	21 26.3%	50 62.5%	6 7.5%	3 3.8%	80 100%
	合計	1455 30.0%	3171 65.4%	202 4.2%	17 0.4%	4845 100%

小中高の間2—2 万引と、子どもがお酒を飲むことをくらべると

		万引のほう が悪い	同じくらい 悪い	お酒を飲む ほうが悪い	無回答	合計
小学生	男	401 36.3%	541 48.9%	162 14.6%	2 0.2%	1106 100%
	女	327 29.3%	655 58.7%	129 11.6%	5 0.4%	1116 100%
	無回答	6 37.5%	8 50.0%	2 12.5%		16 100%
	合計	734 32.8%	1204 53.8%	293 13.1%	7 0.3%	2238 100%
中学生	男	968 39.7%	1121 46.0%	345 14.2%	3 0.1%	2437 100%
	女	859 37.3%	1202 52.2%	233 10.1%	7 0.3%	2301 100%
	無回答	15 30.0%	25 50.0%	10 20.0%		50 100%
	合計	1842 38.5%	2348 49.0%	588 12.3%	10 0.2%	4788 100%
高校生	男	1167 49.6%	1016 43.2%	163 6.9%	8 0.3%	2354 100%
	女	1225 50.8%	1090 45.2%	90 3.7%	6 0.2%	2411 100%
	無回答	38 47.5%	32 40.0%	6 7.5%	4 5.0%	80 100%
	合計	2430 50.2%	2138 44.1%	259 5.3%	18 0.4%	4845 100%

小中高の間2—3 万引と、子どもがタバコを吸うことをくらべると

		万引のほうが悪い	同じくらい悪い	タバコを吸うほうが悪い	無回答	合計
小学生	男	219 19.8%	617 55.8%	268 24.2%	2 0.2%	1106 100%
	女	137 12.3%	751 67.3%	226 20.3%	2 0.2%	1116 100%
	無回答	5 31.3%	9 56.3%	2 12.5%	0.0%	16 100%
	合計	361 16.1%	1377 61.5%	496 22.2%	4 0.2%	2238 100%
中学生	男	642 26.3%	1263 51.8%	527 21.6%	5 0.2%	2437 100%
	女	543 23.6%	1404 61.0%	347 15.1%	7 0.3%	2301 100%
	無回答	14 28.0%	27 54.0%	9 18.0%	0.0%	50 100%
	合計	1199 25.0%	2694 56.3%	883 18.4%	12 0.3%	4788 100%
高校生	男	828 35.2%	1252 53.2%	265 11.3%	9 0.4%	2354 100%
	女	845 35.0%	1383 57.4%	176 7.3%	7 0.3%	2411 100%
	無回答	32 40.0%	40 50.0%	5 6.3%	3 3.8%	80 100%
	合計	1705 35.2%	2675 55.2%	446 9.2%	19 0.4%	4845 100%

小中高の間2—4 万引と、いじめをくらべると

		万引のほう が悪い	同じくらい 悪い	いじめのほう が悪い	無回答	合計
小学生	男	191 17.3%	580 52.4%	332 30.0%	3 0.3%	1106 100%
	女	118 10.6%	694 62.2%	301 27.0%	3 0.3%	1116 100%
	無回答	5 31.3%	9 56.3%	2 12.5%	0.0%	16 100%
	合計	314 14.0%	1283 57.3%	635 28.4%	6 0.3%	2238 100%
中学生	男	373 15.3%	1158 47.5%	905 37.1%	1 0.0%	2437 100%
	女	247 10.7%	1324 57.5%	725 31.5%	5 0.2%	2301 100%
	無回答	14 28.0%	23 46.0%	13 26.0%	0.0%	50 100%
	合計	634 13.2%	2505 52.3%	1643 34.3%	6 0.1%	4788 100%
高校生	男	256 10.9%	1263 53.7%	826 35.1%	9 0.4%	2354 100%
	女	222 9.2%	1608 66.7%	572 23.7%	9 0.4%	2411 100%
	無回答	8 10.0%	46 57.5%	23 28.8%	3 3.8%	80 100%
	合計	486 10.0%	2917 60.2%	1421 29.3%	21 0.4%	4845 100%

小中高の間2—5 万引と、建物に落書きをすることをくらべると

		万引のほう が悪い	同じくらい 悪い	落書きのほう が悪い	無回答	合計
小学生	男	372 33.6%	652 59.0%	78 7.1%	4 0.4%	1106 100%
	女	319 28.6%	745 66.8%	50 4.5%	2 0.2%	1116 100%
	無回答	9 56.3%	7 43.8%	0.0%	0.0%	16 100%
	合計	700 31.3%	1404 62.7%	128 5.7%	6 0.3%	2238 100%
中学生	男	973 39.9%	1300 53.3%	161 6.6%	3 0.1%	2437 100%
	女	762 33.1%	1419 61.7%	116 5.0%	4 0.2%	2301 100%
	無回答	22 44.0%	26 52.0%	2 4.0%	0.0%	50 100%
	合計	1757 36.7%	2745 57.3%	279 5.8%	7 0.1%	4788 100%
高校生	男	837 35.6%	1374 58.4%	136 5.8%	7 0.3%	2354 100%
	女	715 29.7%	1619 67.2%	71 2.9%	6 0.2%	2411 100%
	無回答	30 37.5%	43 53.8%	3 3.8%	4 5.0%	80 100%
	合計	1582 32.7%	3036 62.7%	210 4.3%	17 0.4%	4845 100%

小中高の間2—6 万引と、人に暴力をふるうことをくらべると

		万引の ほうが 悪い	同 じく らい 悪 い	暴 力 の ほ う が 悪 い	無 回 答	合 計
小学生	男	132 11.9%	670 60.6%	302 27.3%	2 0.2%	1106 100%
	女	94 8.4%	719 64.4%	300 26.9%	3 0.3%	1116 100%
	無回答	3 18.8%	11 68.8%	2 12.5%	0.0%	16 100%
	合計	229 10.2%	1400 62.6%	604 27.0%	5 0.2%	2238 100%
中学生	男	404 16.6%	1304 53.5%	726 29.8%	3 0.1%	2437 100%
	女	187 8.1%	1350 58.7%	760 33.0%	4 0.2%	2301 100%
	無回答	8 16.0%	23 46.0%	19 38.0%	0.0%	50 100%
	合計	599 12.5%	2677 55.9%	1505 31.4%	7 0.1%	4788 100%
高校生	男	307 13.0%	1369 58.2%	669 28.4%	9 0.4%	2354 100%
	女	142 5.9%	1613 66.9%	650 27.0%	6 0.2%	2411 100%
	無回答	8 10.0%	45 56.3%	24 30.0%	3 3.8%	80 100%
	合計	457 9.4%	3027 62.5%	1343 27.7%	18 0.4%	4845 100%

小中高の間3 万引をしてはいけない理由として、もっともだと思う理由をひとつだけ
えらんでください。

		学校で いけないことと教わ ったから	つかまると損だから	ばれるとかつこ悪いから	法律を破ってはいけないか ら	みんながやると商売が成り 立たなくなるから	保護者からいけないことと 言われているから	保護者が悲しむから	無回答	合計
小学生	男	127 11.5%	42 3.8%	5 0.5%	457 41.3%	114 10.3%	61 5.5%	296 26.8%	4 0.4%	1106 100%
	女	136 12.2%	20 1.8%	4 0.4%	514 46.1%	110 9.9%	71 6.4%	257 23.0%	4 0.4%	1116 100%
	無回 答	1 6.3%	2 12.5%	0 0.0%	6 37.5%	0 0.0%	0 0.0%	7 43.8%	0 0.0%	16 100%
	合計	264 11.8%	64 2.9%	9 0.4%	977 43.7%	224 10.0%	132 5.9%	560 25.0%	8 0.4%	2238 100%
中学生	男	245 10.1%	196 8.0%	23 0.9%	1036 42.5%	411 16.9%	68 2.8%	440 18.1%	18 0.7%	2437 100%
	女	219 9.5%	117 5.1%	10 0.4%	1037 45.1%	381 16.6%	83 3.6%	433 18.8%	21 0.9%	2301 100%
	無回 答	6 12.0%	4 8.0%	0 0.0%	24 48.0%	6 12.0%	2 4.0%	8 16.0%	0 0.0%	50 100%
	合計	470 9.8%	317 6.6%	33 0.7%	2097 43.8%	798 16.7%	153 3.2%	881 18.4%	39 0.8%	4788 100%
高校生	男	150 6.4%	233 9.9%	40 1.7%	1070 45.5%	476 20.2%	52 2.2%	298 12.7%	35 1.5%	2354 100%
	女	142 5.9%	100 4.1%	11 0.5%	1236 51.3%	501 20.8%	58 2.4%	330 13.7%	33 1.4%	2411 100%
	無回 答	11 13.8%	3 3.8%	2 2.5%	33 41.3%	17 21.3%	4 5.0%	6 7.5%	4 5.0%	80 100%
	合計	303 6.3%	336 6.9%	53 1.1%	2339 48.3%	994 20.5%	114 2.4%	634 13.1%	72 1.5%	4845 100%

小中高の間4 子どもが万引をする理由は何だと思えますか。

		どきどきして楽しいから	自分もものをとられたことがあるから	やらないと仲間外れにされるから	みんながやっているから	その品物が欲しいから	店を壊したいから	それほど悪いことではないから	無回答	合計
小学生	男	85 7.7%	35 3.2%	153 13.8%	54 4.9%	714 64.6%	14 1.3%	24 2.2%	27 2.4%	1106 100%
	女	68 6.1%	20 1.8%	219 19.6%	59 5.3%	678 60.8%	8 0.7%	33 3.0%	31 2.8%	1116 100%
	無回答	1 6.3%	0 0.0%	1 6.3%	3 18.8%	11 68.8%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	16 100%
	合計	154 6.9%	55 2.5%	373 16.7%	116 5.2%	1403 62.7%	22 1.0%	57 2.5%	58 2.6%	2238 100%
中学生	男	326 13.4%	30 1.2%	296 12.1%	178 7.3%	1451 59.5%	27 1.1%	99 4.1%	30 1.2%	2437 100%
	女	318 13.8%	7 0.3%	510 22.2%	177 7.7%	1175 51.1%	12 0.5%	77 3.3%	25 1.1%	2301 100%
	無回答	10 20.0%	0 0.0%	10 20.0%	2 4.0%	27 54.0%	0 0.0%	1 2.0%	0 0.0%	50 100%
	合計	654 13.7%	37 0.8%	816 17.0%	357 7.5%	2653 55.4%	39 0.8%	177 3.7%	55 1.1%	4788 100%
高校生	男	383 16.3%	20 0.8%	161 6.8%	206 8.8%	1409 59.9%	21 0.9%	117 5.0%	37 1.6%	2354 100%
	女	371 15.4%	11 0.5%	376 15.6%	233 9.7%	1247 51.7%	15 0.6%	116 4.8%	42 1.7%	2411 100%
	無回答	16 20.0%	1 1.3%	6 7.5%	9 11.3%	40 50.0%	1 1.3%	3 3.8%	4 5.0%	80 100%
	合計	770 15.9%	32 0.7%	543 11.2%	448 9.2%	2696 55.6%	37 0.8%	236 4.9%	83 1.7%	4845 100%

小中高の間5 この1年の間に、あなたは万引をしようと誘われたことがありますか。

		ある	ない	無回答	合計
小学生	男	28 2.5%	1075 97.2%	3 0.3%	1106 100%
	女	21 1.9%	1093 97.9%	2 0.2%	1116 100%
	無回答	0.0%	16 100%	0.0%	16 100%
	合計	49 2.2%	2184 97.6%	5 0.2%	2238 100%
中学生	男	79 3.2%	2320 95.2%	38 1.6%	2437 100%
	女	31 1.3%	2244 97.5%	26 1.1%	2301 100%
	無回答	4 8.0%	46 92.0%	0.0%	50 100%
	合計	114 2.4%	4610 96.3%	64 1.3%	4788 100%
高校生	男	65 2.8%	2219 94.3%	70 3.0%	2354 100%
	女	19 0.8%	2315 96.0%	77 3.2%	2411 100%
	無回答	2 2.5%	69 86.3%	9 11.3%	80 100%
	合計	86 1.8%	4603 95.0%	156 3.2%	4845 100%

小中高の間6 友達から万引しようと誘われたら、あなたはどうしますか。

		友達の誘いは断れないので、仲間に入る	友達の誘いをあいまいな態度で無視する	友達の誘いはつきり断る	友達の誘いはつきり断り、万引は犯罪であると注意する	無回答	合計
小学生	男	7 0.6%	82 7.4%	228 20.6%	786 71.1%	3 0.3%	1106 100%
	女	4 0.4%	75 6.7%	202 18.1%	832 74.6%	3 0.3%	1116 100%
	無回答	0 0.0%	2 12.5%	5 31.3%	9 56.3%	0 0.0%	16 100%
	合計	11 0.5%	159 7.1%	435 19.4%	1627 72.7%	6 0.3%	2238 100%
中学生	男	49 2.0%	490 20.1%	998 41.0%	878 36.0%	22 0.9%	2437 100%
	女	19 0.8%	472 20.5%	863 37.5%	935 40.6%	12 0.5%	2301 100%
	無回答	3 6.0%	13 26.0%	19 38.0%	14 28.0%	1 2.0%	50 100%
	合計	71 1.5%	975 20.4%	1880 39.3%	1827 38.2%	35 0.7%	4788 100%
高校生	男	37 1.6%	531 22.6%	1109 47.1%	610 25.9%	67 2.8%	2354 100%
	女	15 0.6%	419 17.4%	1108 46.0%	798 33.1%	71 2.9%	2411 100%
	無回答	2 2.5%	20 25.0%	33 41.3%	18 22.5%	7 8.8%	80 100%
	合計	54 1.1%	970 20.0%	2250 46.4%	1426 29.4%	145 3.0%	4845 100%

小問7, 中高の間10 保護者は子どもが万引などの犯罪行為をしないようにするために、日頃から子どもとどのように接すればいいと思いますか。

		子どもが間違ったことをしたらすぐに注意する	何でも子どもの言うとおりにする	子どもを一人の人間として対等に扱う	子どもとよく話そうにする	無回答	合計
小学生	男	550 49.7%	7 0.6%	177 16.0%	319 28.8%	53 4.8%	1106 100%
	女	516 46.2%	2 0.2%	159 14.2%	372 33.3%	67 6.0%	1116 100%
	無回答	12 75.0%	0 0.0%	2 12.5%	1 6.3%	1 6.3%	16 100%
	合計	1078 48.2%	9 0.4%	338 15.1%	692 30.9%	121 5.4%	2238 100%
中学生	男	1126 46.2%	32 1.3%	595 24.4%	653 26.8%	31 1.3%	2437 100%
	女	1053 45.8%	7 0.3%	504 21.9%	710 30.9%	27 1.2%	2301 100%
	無回答	19 38.0%	0 0.0%	14 28.0%	17 34.0%	0 0.0%	50 100%
	合計	2198 45.9%	39 0.8%	1113 23.2%	1380 28.8%	58 1.2%	4788 100%
高校生	男	1029 43.7%	20 0.8%	476 20.2%	756 32.1%	73 3.1%	2354 100%
	女	1061 44.0%	8 0.3%	451 18.7%	811 33.6%	80 3.3%	2411 100%
	無回答	42 52.5%	1 1.3%	11 13.8%	18 22.5%	8 10.0%	80 100%
	合計	2132 44.0%	29 0.6%	938 19.4%	1585 32.7%	161 3.3%	4845 100%

小問8, 中高の間12 あなたは子どもが万引をしなくなるためにはどうすればいいと思いますか。もっとも効果があると思えることをひとつだけ選んでください。

		万引について学校の授業で取り上げる	保護者は子どもが万引をしないようにしつける	警察が積極的に取りしまるようにする	万引の罰を重くする	テレビで万引に関する番組をやる	万引しにくい店づくりをする	万引した子どもやその保護者から罰金をとる	中古品を買い取る店は、万引した商品かどうかをきちんと確認する	無回答	合計
小学生	男	216 19.5%	168 15.2%	139 12.6%	163 14.7%	102 9.2%	199 18.0%	56 5.1%	22 2.0%	41 3.7%	1106 100%
	女	300 26.9%	166 14.9%	99 8.9%	112 10.0%	90 8.1%	220 19.7%	41 3.7%	40 3.6%	48 4.3%	1116 100%
	無回答	4 25.0%	0 0.0%	2 12.5%	4 25.0%	2 12.5%	2 12.5%	2 12.5%	0 0.0%	0 0.0%	16 100%
	合計	520 23.2%	334 14.9%	240 10.7%	279 12.5%	194 8.7%	421 18.8%	99 4.4%	62 2.8%	89 4.0%	2238 100%
中学生	男	567 23.3%	317 13.0%	229 9.4%	439 18.0%	166 6.8%	544 22.3%	111 4.6%	41 1.7%	23 0.9%	2437 100%
	女	523 22.7%	343 14.9%	208 9.0%	327 14.2%	170 7.4%	613 26.6%	72 3.1%	18 0.8%	27 1.2%	2301 100%
	無回答	11 22.0%	7 14.0%	6 12.0%	6 12.0%	2 4.0%	14 28.0%	4 8.0%	0 0.0%	0 0.0%	50 100%
	合計	1101 23.0%	667 13.9%	443 9.3%	772 16.1%	338 7.1%	1171 24.5%	187 3.9%	59 1.2%	50 1.0%	4788 100%
高校生	男	403 17.1%	469 19.9%	223 9.5%	441 18.7%	113 4.8%	546 23.2%	99 4.2%	23 1.0%	37 1.6%	2354 100%
	女	530 22.0%	548 22.7%	187 7.8%	330 13.7%	123 5.1%	568 23.6%	74 3.1%	10 0.4%	41 1.7%	2411 100%
	無回答	19 23.8%	9 11.3%	5 6.3%	16 20.0%	4 5.0%	15 18.8%	7 8.8%	0 0.0%	5 6.3%	80 100%
	合計	952 19.6%	1026 21.2%	415 8.6%	787 16.2%	240 5.0%	1129 23.3%	180 3.7%	33 0.7%	83 1.7%	4845 100%

小の間9-1 中高的間15-1 自分自身について

		とても不満	あまり満足していない	どちらでもない	まあまあ満足	とても満足	無回答	合計
小学生	男	57 5.2%	80 7.2%	328 29.7%	325 29.4%	306 27.7%	10 0.9%	1106 100%
	女	54 4.8%	106 9.5%	332 29.7%	367 32.9%	243 21.8%	14 1.3%	1116 100%
	無回答	4 25.0%	0 0.0%	6 37.5%	2 12.5%	4 25.0%	0 0.0%	16 100%
	合計	115 5.1%	186 8.3%	666 29.8%	694 31.0%	553 24.7%	24 1.1%	2238 100%
中学生	男	115 4.7%	208 8.5%	1093 44.9%	610 25.0%	379 15.6%	32 1.3%	2437 100%
	女	137 6.0%	306 13.3%	1049 45.6%	592 25.7%	187 8.1%	30 1.3%	2301 100%
	無回答	2 4.0%	5 10.0%	15 30.0%	15 30.0%	13 26.0%	0 0.0%	50 100%
	合計	254 5.3%	519 10.8%	2157 45.1%	1217 25.4%	579 12.1%	62 1.3%	4788 100%
高校生	男	172 7.3%	333 14.1%	1139 48.4%	455 19.3%	214 9.1%	41 1.7%	2354 100%
	女	161 6.7%	377 15.6%	1275 52.9%	436 18.1%	119 4.9%	43 1.8%	2411 100%
	無回答	10 12.5%	8 10.0%	42 52.5%	8 10.0%	7 8.8%	5 6.3%	80 100%
	合計	343 7.1%	718 14.8%	2456 50.7%	899 18.6%	340 7.0%	89 1.8%	4845 100%

小の間9-2, 中高の間15-2 自分の保護者について

		とても不満	あまり満足していない	どちらでもない	まあまあ満足	とても満足	無回答	合計
小学生	男	37 3.3%	38 3.4%	169 15.3%	232 21.0%	621 56.1%	9 0.8%	1106 100%
	女	41 3.7%	37 3.3%	143 12.8%	236 21.1%	647 58.0%	12 1.1%	1116 100%
	無回答	2 12.5%	0 0.0%	6 37.5%	2 12.5%	6 37.5%	0 0.0%	16 100%
	合計	80 3.6%	75 3.4%	318 14.2%	470 21.0%	1274 56.9%	21 0.9%	2238 100%
中学生	男	94 3.9%	116 4.8%	770 31.6%	693 28.4%	731 30.0%	33 1.4%	2437 100%
	女	69 3.0%	146 6.3%	588 25.6%	722 31.4%	751 32.6%	25 1.1%	2301 100%
	無回答	3 6.0%	4 8.0%	7 14.0%	20 40.0%	16 32.0%	0 0.0%	50 100%
	合計	166 3.5%	266 5.6%	1365 28.5%	1435 30.0%	1498 31.3%	58 1.2%	4788 100%
高校生	男	94 4.0%	124 5.3%	824 35.0%	699 29.7%	572 24.3%	41 1.7%	2354 100%
	女	61 2.5%	171 7.1%	683 28.3%	786 32.6%	668 27.7%	42 1.7%	2411 100%
	無回答	4 5.0%	6 7.5%	29 36.3%	19 23.8%	17 21.3%	5 6.3%	80 100%
	合計	159 3.3%	301 6.2%	1536 31.7%	1504 31.0%	1257 25.9%	88 1.8%	4845 100%

小の間9-3, 中高の間15-3 学校での生活について

		とても不満	あまり満足していない	どちらでもない	まあまあ満足	とても満足	無回答	合計
小学生	男	55 5.0%	79 7.1%	245 22.2%	326 29.5%	384 34.7%	17 1.5%	1106 100%
	女	55 4.9%	98 8.8%	226 20.3%	347 31.1%	376 33.7%	14 1.3%	1116 100%
	無回答	3 18.8%	0 0.0%	5 31.3%	2 12.5%	6 37.5%	0 0.0%	16 100%
	合計	113 5.0%	177 7.9%	476 21.3%	675 30.2%	766 34.2%	31 1.4%	2238 100%
中学生	男	95 3.9%	183 7.5%	788 32.3%	720 29.5%	612 25.1%	39 1.6%	2437 100%
	女	97 4.2%	232 10.1%	703 30.6%	729 31.7%	517 22.5%	23 1.0%	2301 100%
	無回答	3 6.0%	4 8.0%	11 22.0%	14 28.0%	18 36.0%	0 0.0%	50 100%
	合計	195 4.1%	419 8.8%	1502 31.4%	1463 30.6%	1147 24.0%	62 1.3%	4788 100%
高校生	男	114 4.8%	211 9.0%	863 36.7%	730 31.0%	395 16.8%	41 1.7%	2354 100%
	女	80 3.3%	228 9.5%	834 34.6%	846 35.1%	375 15.6%	48 2.0%	2411 100%
	無回答	9 11.3%	6 7.5%	33 41.3%	15 18.8%	12 15.0%	5 6.3%	80 100%
	合計	203 4.2%	445 9.2%	1730 35.7%	1591 32.8%	782 16.1%	94 1.9%	4845 100%

小の間9-4, 中高の間15-4 自分の成績について

		とても不満	あまり満足していない	どちらでもない	まあまあ満足	とても満足	無回答	合計
小学生	男	128 11.6%	133 12.0%	317 28.7%	314 28.4%	190 17.2%	24 2.2%	1106 100%
	女	106 9.5%	172 15.4%	320 28.7%	345 30.9%	151 13.5%	22 2.0%	1116 100%
	無回答	5 31.3%	0 0.0%	6 37.5%	3 18.8%	2 12.5%	0 0.0%	16 100%
	合計	239 10.7%	305 13.6%	643 28.7%	662 29.6%	343 15.3%	46 2.1%	2238 100%
中学生	男	333 13.7%	597 24.5%	916 37.6%	420 17.2%	136 5.6%	35 1.4%	2437 100%
	女	353 15.3%	683 29.7%	813 35.3%	368 16.0%	60 2.6%	24 1.0%	2301 100%
	無回答	8 16.0%	12 24.0%	18 36.0%	6 12.0%	6 12.0%	0 0.0%	50 100%
	合計	694 14.5%	1292 27.0%	1747 36.5%	794 16.6%	202 4.2%	59 1.2%	4788 100%
高校生	男	336 14.3%	627 26.6%	948 40.3%	313 13.3%	87 3.7%	43 1.8%	2354 100%
	女	271 11.2%	740 30.7%	950 39.4%	360 14.9%	46 1.9%	44 1.8%	2411 100%
	無回答	12 15.0%	17 21.3%	35 43.8%	6 7.5%	5 6.3%	5 6.3%	80 100%
	合計	619 12.8%	1384 28.6%	1933 39.9%	679 14.0%	138 2.8%	92 1.9%	4845 100%

小の間9-5, 中高の間15-5 スポーツや習い事など、学外での活動について

		とても不満	あまり満足していない	どちらでもない	まあまあ満足	とても満足	無回答	合計
小学生	男	35 3.2%	70 6.3%	257 23.2%	265 24.0%	471 42.6%	8 0.7%	1106 100%
	女	46 4.1%	87 7.8%	248 22.2%	297 26.6%	425 38.1%	13 1.2%	1116 100%
	無回答	2 12.5%	1 6.3%	3 18.8%	2 12.5%	8 50.0%	0 0.0%	16 100%
	合計	83 3.7%	158 7.1%	508 22.7%	564 25.2%	904 40.4%	21 0.9%	2238 100%
中学生	男	91 3.7%	186 7.6%	890 36.5%	637 26.1%	596 24.5%	37 1.5%	2437 100%
	女	87 3.8%	251 10.9%	888 38.6%	645 28.0%	407 17.7%	23 1.0%	2301 100%
	無回答	5 10.0%	3 6.0%	11 22.0%	17 34.0%	14 28.0%	0 0.0%	50 100%
	合計	183 3.8%	440 9.2%	1789 37.4%	1299 27.1%	1017 21.2%	60 1.3%	4788 100%
高校生	男	154 6.5%	277 11.8%	1090 46.3%	504 21.4%	285 12.1%	44 1.9%	2354 100%
	女	82 3.4%	280 11.6%	1237 51.3%	506 21.0%	259 10.7%	47 1.9%	2411 100%
	無回答	12 15.0%	11 13.8%	31 38.8%	15 18.8%	6 7.5%	5 6.3%	80 100%
	合計	248 5.1%	568 11.7%	2358 48.7%	1025 21.2%	550 11.4%	96 2.0%	4845 100%

小の間9-6, 中高の間15-6 自分の小遣いについて

		とても不満	あまり満足していない	どちらでもない	まあまあ満足	とても満足	無回答	合計
小学生	男	113 10.2%	101 9.1%	303 27.4%	188 17.0%	383 34.6%	18 1.6%	1106 100%
	女	87 7.8%	103 9.2%	338 30.3%	193 17.3%	367 32.9%	28 2.5%	1116 100%
	無回答	2 12.5%	2 12.5%	5 31.3%	2 12.5%	5 31.3%	0.0%	16 100%
	合計	202 9.0%	206 9.2%	646 28.9%	383 17.1%	755 33.7%	46 2.1%	2238 100%
中学生	男	245 10.1%	244 10.0%	963 39.5%	481 19.7%	470 19.3%	34 1.4%	2437 100%
	女	165 7.2%	301 13.1%	899 39.1%	523 22.7%	387 16.8%	26 1.1%	2301 100%
	無回答	8 16.0%	6 12.0%	10 20.0%	17 34.0%	9 18.0%	0.0%	50 100%
	合計	418 8.7%	551 11.5%	1872 39.1%	1021 21.3%	866 18.1%	60 1.3%	4788 100%
高校生	男	153 6.5%	209 8.9%	1063 45.2%	516 21.9%	373 15.8%	40 1.7%	2354 100%
	女	118 4.9%	245 10.2%	1060 44.0%	575 23.8%	366 15.2%	47 1.9%	2411 100%
	無回答	8 10.0%	5 6.3%	33 41.3%	17 21.3%	12 15.0%	5 6.3%	80 100%
	合計	279 5.8%	459 9.5%	2156 44.5%	1108 22.9%	751 15.5%	92 1.9%	4845 100%

小の間9-7, 中高の間15-7 友達づきあいについて

		とても不満	あまり満足していない	どちらでもない	まあまあ満足	とても満足	無回答	合計
小学生	男	40 3.6%	42 3.8%	194 17.5%	237 21.4%	586 53.0%	7 0.6%	1106 100%
	女	81 7.3%	93 8.3%	179 16.0%	255 22.8%	498 44.6%	10 0.9%	1116 100%
	無回答	5 31.3%	0 0.0%	3 18.8%	1 6.3%	7 43.8%	0 0.0%	16 100%
	合計	126 5.6%	135 6.0%	376 16.8%	493 22.0%	1091 48.7%	17 0.8%	2238 100%
中学生	男	67 2.7%	115 4.7%	635 26.1%	653 26.8%	935 38.4%	32 1.3%	2437 100%
	女	88 3.8%	189 8.2%	621 27.0%	712 30.9%	671 29.2%	20 0.9%	2301 100%
	無回答	3 6.0%	4 8.0%	11 22.0%	14 28.0%	17 34.0%	1 2.0%	50 100%
	合計	158 3.3%	308 6.4%	1267 26.5%	1379 28.8%	1623 33.9%	53 1.1%	4788 100%
高校生	男	70 3.0%	98 4.2%	739 31.4%	718 30.5%	687 29.2%	42 1.8%	2354 100%
	女	71 2.9%	146 6.1%	676 28.0%	803 33.3%	673 27.9%	42 1.7%	2411 100%
	無回答	5 6.3%	2 2.5%	28 35.0%	22 27.5%	18 22.5%	5 6.3%	80 100%
	合計	146 3.0%	246 5.1%	1443 29.8%	1543 31.8%	1378 28.4%	89 1.8%	4845 100%

本調査の回答集計
中学生・高校生のみへの質問

中高の間7 あなたがコンビニでアルバイトをしているとして、子どもが棚の商品をカバンに入れているのを目撃したら、どのように対応しますか。

		すぐに店長に報告する	大声で、その子どもにも商品返すように言う	その子どもに近づいて、商品を返すように言う	だまって放っておく	その子どもが店を出てから、つかまえる	無回答	合計
中学生	男	379 15.6%	110 4.5%	1363 55.9%	120 4.9%	451 18.5%	14 0.6%	2437 100%
	女	512 22.3%	54 2.3%	1402 60.9%	63 2.7%	255 11.1%	15 0.7%	2301 100%
	無回答	14 28.0%	4 8.0%	22 44.0%	4 8.0%	6 12.0%	0.0%	50 100%
	合計	905 18.9%	168 3.5%	2787 58.2%	187 3.9%	712 14.9%	29 0.6%	4788 100%
高校生	男	388 16.5%	53 2.3%	1177 50.0%	168 7.1%	499 21.2%	69 2.9%	2354 100%
	女	849 35.2%	20 0.8%	1160 48.1%	92 3.8%	219 9.1%	71 2.9%	2411 100%
	無回答	16 20.0%	2 2.5%	33 41.3%	7 8.8%	15 18.8%	7 8.8%	80 100%
	合計	1253 25.9%	75 1.5%	2370 48.9%	267 5.5%	733 15.1%	147 3.0%	4845 100%

中高の間8 あなたの住んでいる近くで、万引をしやすい
とされている店を知っていますか。

		知っている	知らない	無回答	合計
中学生	男	422 17.3%	2002 82.2%	13 0.5%	2437 100%
	女	330 14.3%	1960 85.2%	11 0.5%	2301 100%
	無回 答	8 16.0%	42 84.0%		50 100%
	合計	760 15.9%	4004 83.6%	24 0.5%	4788 100%
高校生	男	408 17.3%	1878 79.8%	68 2.9%	2354 100%
	女	310 12.9%	2030 84.2%	71 2.9%	2411 100%
	無回 答	18 22.5%	54 67.5%	8 10.0%	80 100%
	合計	736 15.2%	3962 81.8%	147 3.0%	4845 100%

中高の間8-1 上の問8で「知っている」と答えた人だけに聞きます。それはどういう店ですか。

		スーパー	コンビニ	ドラッグストア・化粧品店	書店・文具店	CD・ゲームソフト店	ホームセンター	雑貨・玩具店	衣料品店	100円ショップ	スポーツ用品店	家電店	デパート	駄菓子屋	無回答	合計
中学生	男	92 3.8%	66 2.7%	7 0.3%	23 0.9%	19 0.8%	5 0.2%	17 0.7%		20 0.8%	3 0.1%	1 0.0%	12 0.5%	170 7.0%	2002 82.2%	2437 100%
	女	59 2.6%	61 2.7%	18 0.8%	38 1.7%	10 0.4%		18 0.8%		23 1.0%		1 0.0%	9 0.4%	92 4.0%	1972 85.7%	2301 100%
	無回答	3 6.0%	1 2.0%		2 4.0%									2 4.0%	42 84.0%	50 100%
	合計	154 3.2%	128 2.7%	25 0.5%	63 1.3%	29 0.6%	5 0.1%	35 0.7%		43 0.9%	3 0.1%	2 0.0%	21 0.4%	264 5.5%	4016 83.9%	4788 100%
高校生	男	125 5.3%	51 2.2%	21 0.9%	24 1.0%	9 0.4%	12 0.5%	25 1.1%	1 0.0%	15 0.6%	3 0.1%	3 0.1%	10 0.4%	117 5.0%	1938 82.3%	2354 100%
	女	76 3.2%	46 1.9%	34 1.4%	26 1.1%	6 0.2%	6 0.2%	30 1.2%	5 0.2%	14 0.6%	1 0.0%		6 0.2%	64 2.7%	2097 87.0%	2411 100%
	無回答	5 6.3%	3 3.8%	1 1.3%	2 2.5%		1 1.3%			1 1.3%				6 7.5%	61 76.3%	80 100%
	合計	206 4.3%	100 2.1%	56 1.2%	52 1.1%	15 0.3%	19 0.4%	55 1.1%	6 0.1%	30 0.6%	4 0.1%	3 0.1%	16 0.3%	187 3.9%	4096 84.5%	4845 100%

中高の間9 万引をした子どもを捕まえた店は、警察に通報すべきだと思いますか。

		そう思う	そう思わない	無回答	合計
中学生	男	1797 73.7%	616 25.3%	24 1.0%	2437 100%
	女	1789 77.7%	487 21.2%	25 1.1%	2301 100%
	無回答	38 76.0%	12 24.0%	0.0%	50 100%
	合計	3624 75.7%	1115 23.3%	49 1.0%	4788 100%
高校生	男	1597 67.8%	727 30.9%	30 1.3%	2354 100%
	女	1776 73.7%	604 25.1%	31 1.3%	2411 100%
	無回答	62 77.5%	15 18.8%	3 3.8%	80 100%
	合計	3435 70.9%	1346 27.8%	64 1.3%	4845 100%

中高の間9-1 上の問9で「そう思わない」と答えた人だけに聞きます。その理由をひとつだけ選んでください。

		万引は大した犯罪ではないから	子どもなら誰でもやることであり、放っておけばそのうちやめるから	品物は戻るので損害は発生していないから	店にも責任があるから	犯罪者として扱うのは子どもの将来を奪うことになるから	かわいそうだから	無回答	合計
中学生	男	12 0.5%	22 0.9%	66 2.7%	98 4.0%	352 14.4%	69 2.8%	1818 74.6%	2437 100%
	女	10 0.4%	7 0.3%	86 3.7%	69 3.0%	276 12.0%	36 1.6%	1817 79.0%	2301 100%
	無回答	2 4.0%	1 2.0%	1 2.0%	1 2.0%	7 14.0%	0 0.0%	38 76.0%	50 100%
	合計	24 0.5%	30 0.6%	153 3.2%	168 3.5%	635 13.3%	105 2.2%	3673 76.7%	4788 100%
高校生	男	21 0.9%	30 1.3%	84 3.6%	95 4.0%	424 18.0%	82 3.5%	1618 68.7%	2354 100%
	女	13 0.5%	5 0.2%	72 3.0%	74 3.1%	355 14.7%	72 3.0%	1820 75.5%	2411 100%
	無回答	3 3.8%	0 0.0%	4 5.0%	1 1.3%	9 11.3%	2 2.5%	61 76.3%	80 100%
	合計	37 0.8%	35 0.7%	160 3.3%	170 3.5%	788 16.3%	156 3.2%	3499 72.2%	4845 100%

中高の間11 万引をした子どもやその保護者はどのような償いをすべきだと思いますか。

		万引は大した犯罪ではないので、その場で謝罪すればよい	万引をしようとした商品を買えばよい	商品を買取だけだけでなく、迷惑料などを払うべきである	商品を返して、店の掃除や手伝いなど、店への奉仕をするべきである	商品を返して、ボランティア活動に従事するなど、社会貢献活動をするべきである	特に何かをする必要はない	無回答	合計
中学生	男	213 8.7%	400 16.4%	945 38.8%	363 14.9%	420 17.2%	51 2.1%	45 1.8%	2437 100%
	女	142 6.2%	421 18.3%	892 38.8%	363 15.8%	406 17.6%	36 1.6%	41 1.8%	2301 100%
	無回答	3 6.0%	6 12.0%	28 56.0%	5 10.0%	7 14.0%	0 0.0%	1 2.0%	50 100%
	合計	358 7.5%	827 17.3%	1865 39.0%	731 15.3%	833 17.4%	87 1.8%	87 1.8%	4788 100%
高校生	男	182 7.7%	463 19.7%	791 33.6%	342 14.5%	387 16.4%	112 4.8%	77 3.3%	2354 100%
	女	126 5.2%	525 21.8%	737 30.6%	409 17.0%	421 17.5%	77 3.2%	116 4.8%	2411 100%
	無回答	11 13.8%	7 8.8%	28 35.0%	13 16.3%	11 13.8%	2 2.5%	8 10.0%	80 100%
	合計	319 6.6%	995 20.5%	1556 32.1%	764 15.8%	819 16.9%	191 3.9%	201 4.1%	4845 100%

中高の間13 店は万引をさせないための取り組みをしていますが、この中でもっとも効果的だと思う取り組みをひとつだけ選んでください。

		万引防止ポスターを貼るなど、万引対策をしている店であることをアピールしている	「いらっしやいませ」などの積極的な挨拶や、「何かお探ですか」などの声かけをしている	店内に監視カメラやミラーをつけている	商品を店外に持ち出さないための万引防止機を設置している	私服警備員が巡回するなどの監視をしている	マイバッグ(持参した買い物袋)を店内で広げないルールを作っている	万引をすべて警察に通報している	無回答	合計
中学生	男	229 9.4%	444 18.2%	651 26.7%	721 29.6%	288 11.8%	15 0.6%	62 2.5%	27 1.1%	2437 100%
	女	159 6.9%	474 20.6%	496 21.6%	865 37.6%	234 10.2%	13 0.6%	42 1.8%	18 0.8%	2301 100%
	無回答	5 10.0%	9 18.0%	12 24.0%	17 34.0%	4 8.0%	0 0.0%	3 6.0%	0 0.0%	50 100%
	合計	393 8.2%	927 19.4%	1159 24.2%	1603 33.5%	526 11.0%	28 0.6%	107 2.2%	45 0.9%	4788 100%
高校生	男	242 10.3%	479 20.3%	645 27.4%	629 26.7%	227 9.6%	9 0.4%	86 3.7%	37 1.6%	2354 100%
	女	201 8.3%	527 21.9%	566 23.5%	856 35.5%	167 6.9%	11 0.5%	46 1.9%	37 1.5%	2411 100%
	無回答	12 15.0%	13 16.3%	19 23.8%	22 27.5%	6 7.5%	0 0.0%	4 5.0%	4 5.0%	80 100%
	合計	455 9.4%	1019 21.0%	1230 25.4%	1507 31.1%	400 8.3%	20 0.4%	136 2.8%	78 1.6%	4845 100%

中高の問14 学校や警察などは、万引防止のための取り組みや制度を整備していますが、この中でもっとも効果的だと思うものをひとつだけ選んでください。

		学校は、生徒に「万引は犯罪であること」を指導し、万引した子どもに対しては万引を繰り返さないための指導をしている	警察は、万引した生徒について、学校に連絡している	本やCDなどの中古品を買い取る店は、中古品を売りに来た18歳未満の者に対して、保護者と一緒に来るように求め、または保護者に電話して確認することを徹底している	無回答	合計
中学生	男	1354 55.6%	649 26.6%	375 15.4%	59 2.4%	2437 100%
	女	1343 58.4%	498 21.6%	424 18.4%	36 1.6%	2301 100%
	無回答	28 56.0%	12 24.0%	10 20.0%	0 0.0%	50 100%
	合計	2725 56.9%	1159 24.2%	809 16.9%	95 2.0%	4788 100%
高校生	男	1244 52.8%	801 34.0%	252 10.7%	57 2.4%	2354 100%
	女	1391 57.7%	707 29.3%	256 10.6%	57 2.4%	2411 100%
	無回答	50 62.5%	20 25.0%	6 7.5%	4 5.0%	80 100%
	合計	2685 55.4%	1528 31.5%	514 10.6%	118 2.4%	4845 100%

順位相関表

回答選択肢が順位尺度と考えられる設問（小中高の間2と小学生の間9・中高生の間15）の下位項目間の順位相関（スピアマンのロー）をすべて記載した。本表の計算には、SPSS ver. 20 を用いた。

逸脱行為に関する問2-1～6の相関係数（小学生）

	問2-1 万引と、 放置自転車の 乗り逃げをく らべると	問2-2 万引と、 子どもが お酒を飲むこ とをくらべると	問2-3 万引と、 子どもが タバコを吸う ことをくらべると	問2-4 万引と、 いじめをく らべると	問2-5 万引と、 建物に落書 きをするこ とをくらべると	問2-6 万引と、 人に暴力を ふるうこ とをくらべると
問2-1 万引と、 放置自転車の 乗り逃げをく らべると	1.000	.094	.117	.088	.182	.070
問2-2 万引と、 子どもが お酒を飲むこ とをくらべると	.094	1.000	.528	.059	.164	.109
問2-3 万引と、 子どもが タバコを吸う ことをくらべると	.117	.528	1.000	.163	.123	.175
問2-4 万引と、 いじめをく らべると	.088	.059	.163	1.000	.041	.400
問2-5 万引と、 建物に落書 きをするこ とをくらべると	.182	.164	.123	.041	1.000	.067
問2-6 万引と、 人に暴力を ふるうこ とをくらべると	.070	.109	.175	.400	.067	1.000

逸脱行為に関する問2-1～6の相関係数（中学生）

	問2-1 万引と、 放置自転車の 乗り逃げをく らべると	問2-2 万引と、 子どもが お酒を飲むこ とをくらべると	問2-3 万引と、 子どもが タバコを吸う ことをくらべると	問2-4 万引と、 いじめをく らべると	問2-5 万引と、 建物に落書 きをするこ とをくらべると	問2-6 万引と、 人に暴力を ふるうこ とをくらべると
問2-1 万引と、 放置自転車の 乗り逃げをく らべると	1.000	0.134	0.081	0.056	0.231	0.088
問2-2 万引と、 子どもが お酒を飲むこ とをくらべると	0.134	1.000	0.610	0.025	0.141	0.118
問2-3 万引と、 子どもが タバコを吸う ことをくらべると	0.081	0.610	1.000	0.089	0.076	0.137
問2-4 万引と、 いじめをく らべると	0.056	0.025	0.089	1.000	0.095	0.477
問2-5 万引と、 建物に落書 きをするこ とをくらべると	0.231	0.141	0.076	0.095	1.000	0.132
問2-6 万引と、 人に暴力を ふるうこ とをくらべると	0.088	0.118	0.137	0.477	0.132	1.000

逸脱行為に関する問2-1～6の相関係数（高校生）

	問2-1 万引と、 放置自転車の 乗り逃げをく らべると	問2-2 万引と、 子どもがお 酒を飲むこと をくらべると	問2-3 万引と、 子どもがタ バコを吸うこ とをくらべると	問2-4 万引と、 いじめをく らべると	問2-5 万引と、 建物に落書 きをするこ とをくらべると	問2-6 万引と、 人に暴力を ふるうこと をくらべると
問2-1 万引と、 放置自転車の 乗り逃げをく らべると	1.000	.168	.131	.065	.236	.046
問2-2 万引と、 子どもがお 酒を飲むこと をくらべると	.168	1.000	.661	.018	.160	.044
問2-3 万引と、 子どもがタ バコを吸うこ とをくらべると	.131	.661	1.000	.088	.128	.119
問2-4 万引と、 いじめをく らべると	.065	.018	.088	1.000	.088	.501
問2-5 万引と、 建物に落書 きをするこ とをくらべると	.236	.160	.128	.088	1.000	.098
問2-6 万引と、 人に暴力を ふるうこと をくらべると	.046	.044	.119	.501	.098	1.000

満足度に関する問9-1～7および平均間の相関係数（小学生）

	問9-1 自分自身について	問9-2 自分の保護者について	問9-3 学校での生活について	問9-4 自分の成績について	問9-5 スポーツや習い事など、学外での活動について	問9-6 自分の小遣いについて	問9-7 友達づきあいについて	問9 平均
問9-1 自分自身について	1.000	.481	.510	.461	.423	.370	.428	.750
問9-2 自分の保護者について	.481	1.000	.408	.316	.373	.402	.365	.646
問9-3 学校での生活について	.510	.408	1.000	.401	.398	.317	.561	.728
問9-4 自分の成績について	.461	.316	.401	1.000	.353	.310	.291	.660
問9-5 スポーツや習い事など、学外での活動について	.423	.373	.398	.353	1.000	.364	.384	.665
問9-6 自分の小遣いについて	.370	.402	.317	.310	.364	1.000	.314	.651
問9-7 友達づきあいについて	.428	.365	.561	.291	.384	.314	1.000	.673
問9 平均	.750	.646	.728	.660	.665	.651	.673	1.000

満足度に関する問15-1～7および平均間の相関係数（中学生）

	問15-1 自分自身について	問15-2 自分の保護者について	問15-3 学校での生活について	問15-4 自分の成績について	問15-5 スポーツや習い事など、学外での活動について	問15-6 自分の小遣いについて	問15-7 友達づきあいについて	問15 平均
問15-1 自分自身について	1.000	.474	.485	.360	.420	.322	.433	.715
問15-2 自分の保護者について	.474	1.000	.455	.169	.347	.438	.411	.686
問15-3 学校での生活について	.485	.455	1.000	.277	.437	.312	.638	.758
問15-4 自分の成績について	.360	.169	.277	1.000	.273	.220	.195	.511
問15-5 スポーツや習い事など、学外での活動について	.420	.347	.437	.273	1.000	.322	.429	.664
問15-6 自分の小遣いについて	.322	.438	.312	.220	.322	1.000	.335	.622
問15-7 友達づきあいについて	.433	.411	.638	.195	.429	.335	1.000	.721
問15 平均	.715	.686	.758	.511	.664	.622	.721	1.000

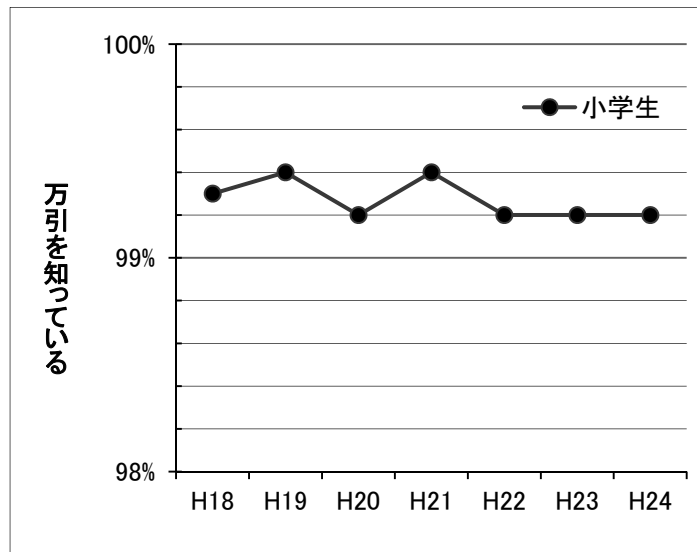
満足度に関する問15-1～7および平均間の相関係数（高校生）

	問15-1 自分自身について	問15-2 自分の保護者について	問15-3 学校での生活について	問15-4 自分の成績について	問15-5 スポーツや習い事など、学外での活動について	問15-6 自分の小遣いについて	問15-7 友達づきあいについて	問15 平均
問15-1 自分自身について	1.000	.390	.453	.380	.407	.314	.353	.676
問15-2 自分の保護者について	.390	1.000	.442	.150	.320	.448	.448	.680
問15-3 学校での生活について	.453	.442	1.000	.235	.423	.356	.633	.751
問15-4 自分の成績について	.380	.150	.235	1.000	.296	.207	.117	.477
問15-5 スポーツや習い事など、学外での活動について	.407	.320	.423	.296	1.000	.353	.376	.650
問15-6 自分の小遣いについて	.314	.448	.356	.207	.353	1.000	.394	.645
問15-7 友達づきあいについて	.353	.448	.633	.117	.376	.394	1.000	.706
問15 平均	.676	.680	.751	.477	.650	.645	.706	1.000

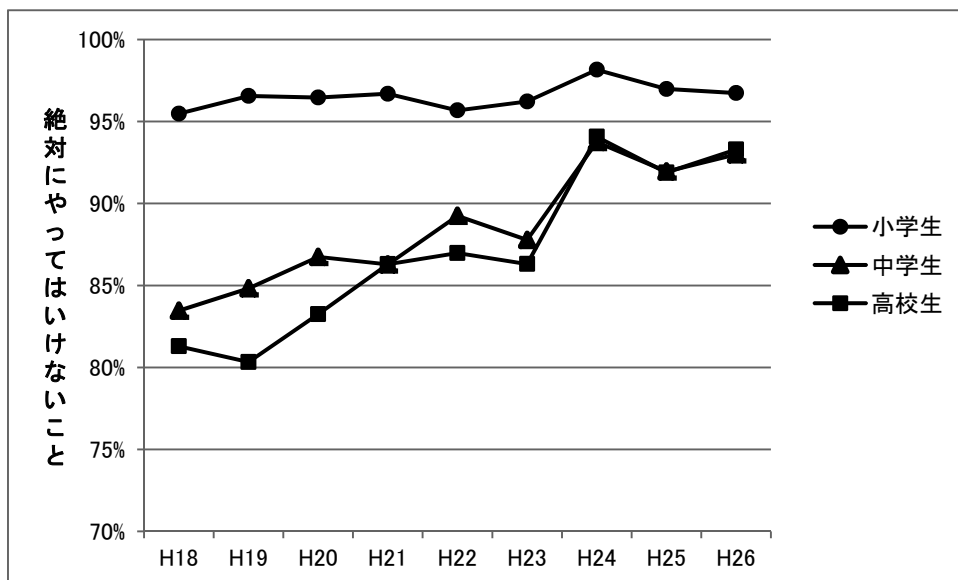
経年変化のグラフ

以下では、これまでの調査で同一の問に対する回答の経年変化のグラフをいくつか示す。本文中に掲載された図、途中年度で廃止した問も一部示したが、短期間の場合ははずした。なお、平成 22 年発行の第 6 回調査報告書巻末に、それまでの経年変化グラフが掲載されている。

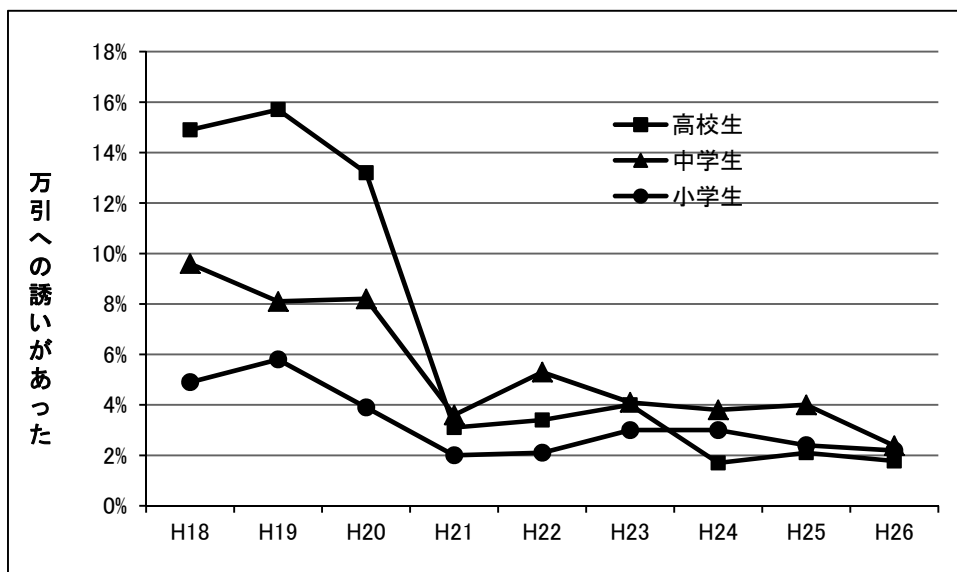
問：万引についての知識「知っている」の回答率（小学生のみ：H18－H24）



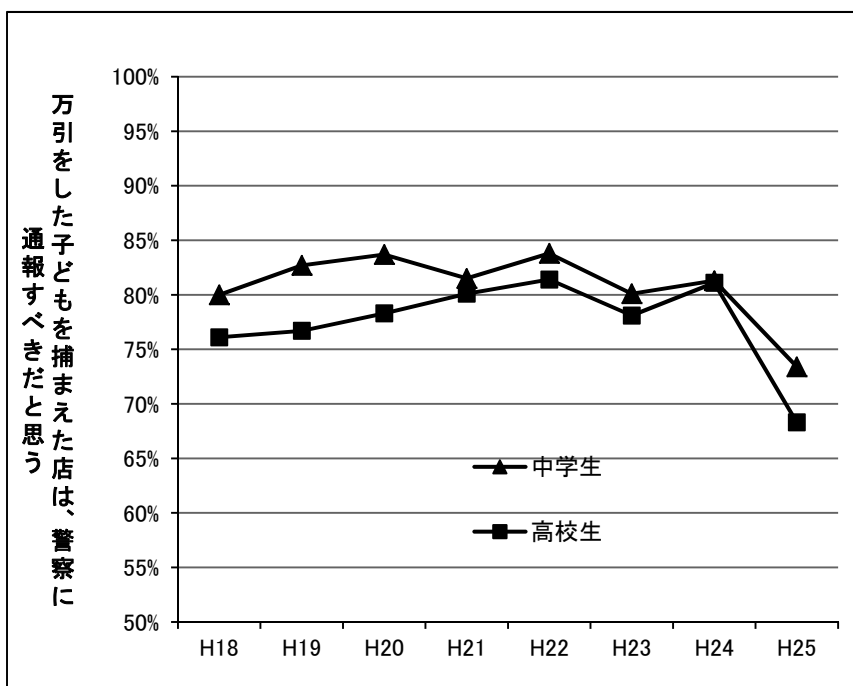
問：万引に対する態度「絶対にやってはいけないこと」への回答率（小中高：H18－H26）



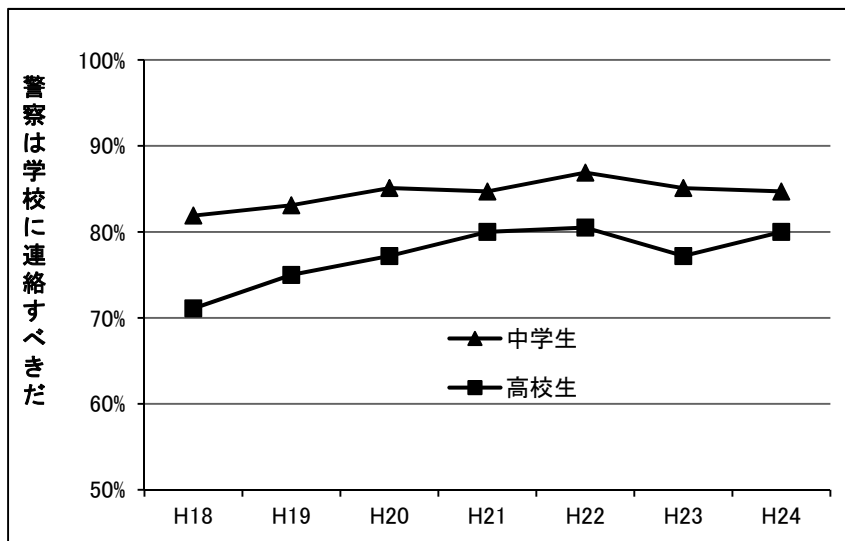
問：万引への誘いについて「あった」の回答率（小中高：H18－H26）
 （H21から「この一年間で」と限定している）



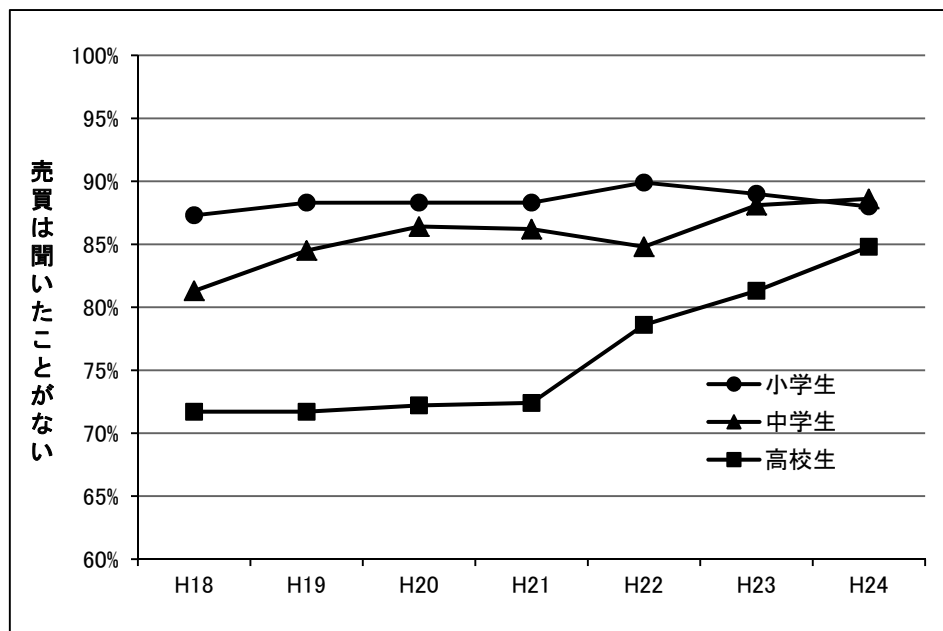
問：万引をした子どもを捕まえた店は、警察に通報すべきだと思うか「思う」への回答率
 （中高 H18－H25）



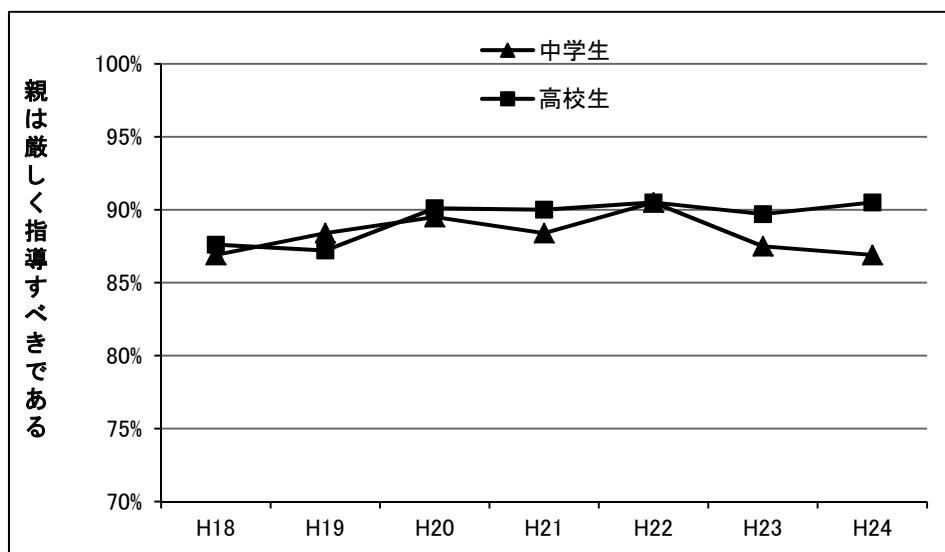
問：警察は学校に連絡すべきか「そう思う」回答率（中高 H18-H24）



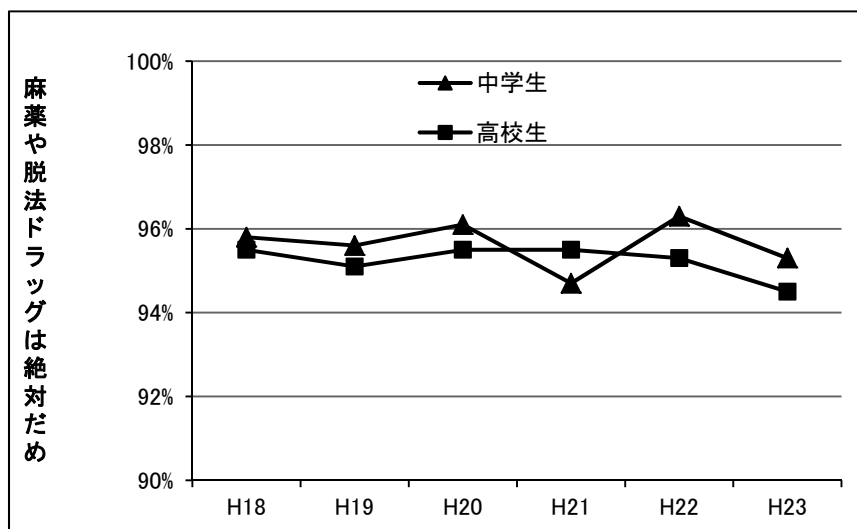
問：万引品の友人への売買について「聞いたことがない」の回答率
(小中高 H18-H24)



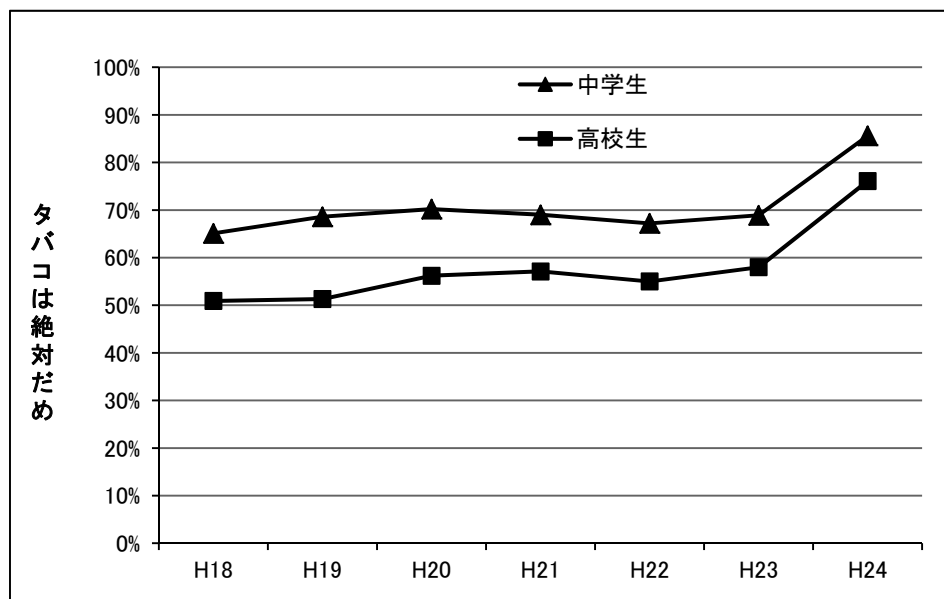
問：万引をした子どもを親は厳しく指導すべきか「はい」の回答率
 (中高 H18-H24)



問：麻薬や脱法ドラッグについて「絶対だめ」の回答率
 (中高 H18-H24)



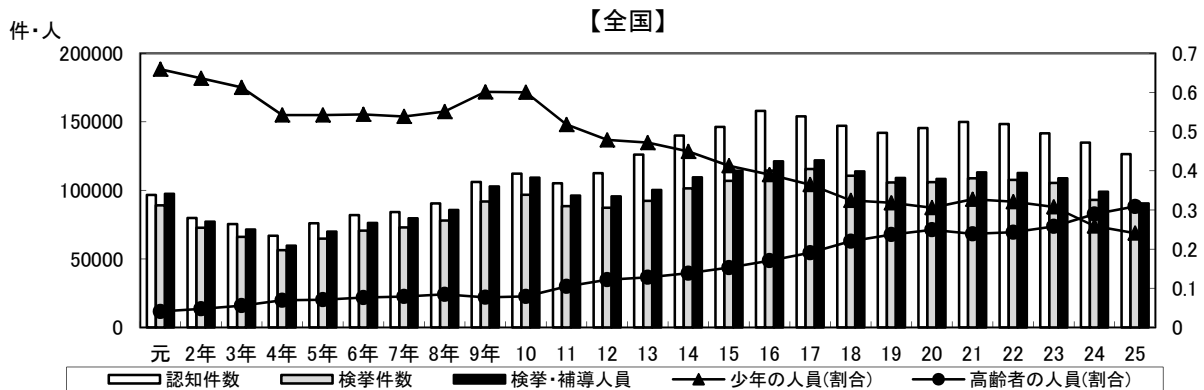
問：タバコについて「絶対だめ」の回答率（H24では「未成年の喫煙」としている）
（中高 H18－H24）



全国・東京都万引統計 平成 25 年

全国	元年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年
認知件数	96,662	79,910	75,385	66,852	76,027	82,000	84,131	90,496	106,181	112,237	105,227	112,559
検挙件数	89,090	72,706	66,082	56,370	64,786	70,600	72,927	77,940	91,870	96,828	88,532	87,366
検挙・補導人員	97,521	77,198	71,507	59,681	69,946	76,254	79,658	85,670	102,895	109,330	96,256	95,626
女	49,240	41,373	36,449	30,774	33,607	36,718	38,399	40,852	50,485	51,460	42,835	42,391
男	48,281	35,825	35,058	28,907	36,339	39,536	41,259	44,818	52,410	57,870	53,421	53,235
成人	29,238	24,421	23,713	23,165	27,066	28,950	30,454	31,205	33,084	35,044	36,310	38,185
成人女	17,088	14,412	13,589	12,635	14,109	14,967	15,654	16,015	16,919	17,354	16,814	17,004
成人男	12,150	10,009	10,124	10,530	12,957	13,983	14,800	15,190	16,165	17,690	19,496	21,181
成人の割合	30.0%	31.6%	33.2%	38.8%	38.7%	38.0%	38.2%	36.4%	32.2%	32.1%	37.7%	39.9%
少年	64,296	49,102	43,815	32,369	37,932	41,488	42,915	47,224	61,890	65,635	49,869	45,790
少年女	29,950	24,923	20,643	15,928	16,924	18,785	19,610	21,328	29,706	29,891	21,318	19,928
少年男	34,346	24,179	23,172	16,441	21,008	22,703	23,305	25,896	32,184	35,744	28,551	25,862
少年の割合	65.9%	63.6%	61.3%	54.2%	54.2%	54.4%	53.9%	55.1%	60.1%	60.0%	51.8%	47.9%
高齢者	3,987	3,675	3,979	4,147	4,948	5,816	6,289	7,241	7,921	8,651	10,077	11,651
高齢者女	2,202	2,038	2,217	2,211	2,574	2,966	3,135	3,509	3,860	4,215	4,703	5,459
高齢者男	1,785	1,637	1,762	1,936	2,374	2,850	3,154	3,732	4,061	4,436	5,374	6,192
高齢者の割合	4.1%	4.8%	5.6%	6.9%	7.1%	7.6%	7.9%	8.5%	7.7%	7.9%	10.5%	12.2%

東京都	元年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年
認知件数	11,271	8,747	8,328	7,672	8,287	7,893	7,235	7,004	6,813	6,899	7,718	9,283
検挙件数	10,150	7,407	6,829	5,924	6,488	6,423	5,907	5,582	5,358	4,611	5,352	5,912
検挙・補導人員	10,468	7,767	7,256	5,910	6,587	6,699	6,139	5,550	5,257	4,909	5,564	6,078
女	5,226	4,011	3,511	2,916	3,243	3,182	2,870	2,499	2,368	2,068	2,329	2,537
男	5,242	3,756	3,745	2,994	3,344	3,517	3,269	3,051	2,889	2,841	3,235	3,541
成人	4,474	3,563	3,445	3,143	3,538	3,472	3,273	3,065	2,784	2,645	3,136	3,625
成人女	2,371	1,869	1,743	1,547	1,735	1,629	1,508	1,444	1,319	1,182	1,311	1,549
成人男	2,103	1,694	1,702	1,596	1,803	1,843	1,765	1,621	1,465	1,463	1,825	2,076
成人の割合	42.7%	45.9%	47.5%	53.2%	53.7%	51.8%	53.3%	55.2%	53.0%	53.9%	56.4%	59.6%
少年	5,728	3,932	3,523	2,520	2,760	2,929	2,545	2,169	2,205	2,076	2,092	1,993
少年女	2,685	1,968	1,595	1,237	1,351	1,388	1,196	905	911	776	838	716
少年男	3,043	1,964	1,928	1,283	1,409	1,541	1,349	1,264	1,294	1,300	1,254	1,277
少年の割合	54.7%	50.6%	48.6%	42.6%	41.9%	43.7%	41.5%	39.1%	41.9%	42.3%	37.6%	32.8%
高齢者	266	272	288	247	289	298	321	316	268	188	336	460
高齢者女	170	174	173	132	157	165	166	150	138	110	180	272
高齢者男	96	98	115	115	132	133	155	166	130	78	156	188
高齢者の割合	2.5%	3.5%	4.0%	4.2%	4.4%	4.4%	5.2%	5.7%	5.1%	3.8%	6.0%	7.6%



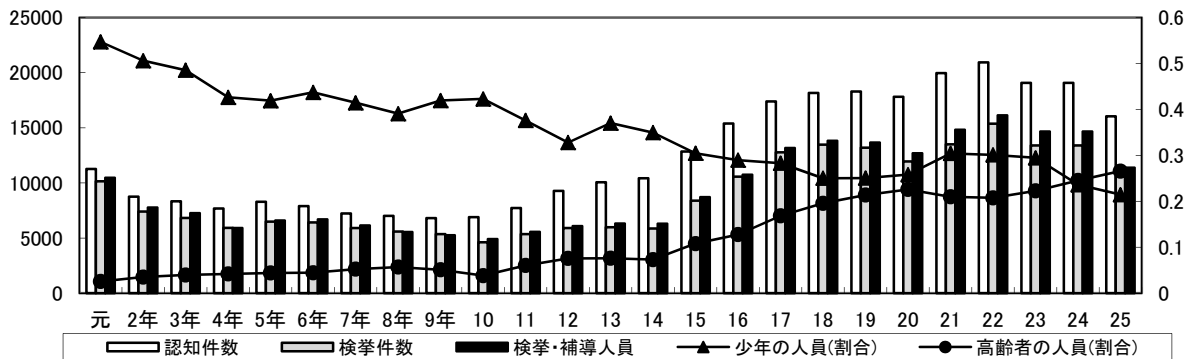
全国・東京都万引統計 平成 25 年

13 年	14 年	15 年	16 年	17 年	18 年	19 年	20 年	21 年	22 年	23 年	24 年	25 年	全国
126,110	140,002	146,308	158,020	153,972	147,113	141,915	145,429	149,892	148,371	141,562	134,876	126,500	認知件数
92,319	101,445	106,925	114,465	115,636	110,723	105,774	105,986	108,802	107,684	104,516	93,079	89,910	検挙件数
100,340	109,522	114,260	121,136	121,914	113,866	108,993	108,307	113,083	112,614	108,838	99,055	90,522	検挙・補導人員
45,311	48,977	49,782	52,642	52,689	48,688	47,629	45,506	44,578	44,949	43,037	39,270	36,554	女
55,029	60,545	64,478	68,494	69,225	65,178	61,364	62,801	68,505	67,665	65,801	59,785	53,968	男
40,143	45,134	49,627	53,204	54,220	51,874	48,464	48,186	49,056	49,078	47,270	44,733	40,770	成人
17,533	19,624	20,645	22,703	23,431	22,059	20,894	20,326	19,880	20,263	19,395	18,308	16,905	成人女
22,610	25,510	28,982	30,501	30,789	29,815	27,570	27,860	29,176	28,815	27,875	26,425	23,865	成人男
40.0%	41.2%	43.4%	43.9%	44.5%	45.6%	44.5%	44.5%	43.4%	43.6%	43.4%	45.2%	45.0%	成人の割合
47,357	49,214	47,177	47,265	44,442	36,932	34,675	33,106	37,008	36,174	33,502	25,649	21,799	少年
21,645	22,174	20,991	20,166	18,124	14,659	14,226	12,448	11,946	11,482	10,352	7,480	6,270	少年女
25,712	27,040	26,186	27,099	26,318	22,273	20,449	20,658	25,062	24,692	23,150	18,169	15,529	少年男
47.2%	44.9%	41.3%	39.0%	36.5%	32.4%	31.8%	30.6%	32.7%	32.1%	30.8%	25.9%	24.1%	少年の割合
12,840	15,174	17,456	20,667	23,252	25,060	25,854	27,015	27,019	27,362	28,066	28,673	27,953	高齢者
6,133	7,179	8,146	9,773	11,134	11,970	12,509	12,732	12,752	13,204	13,290	13,482	13,379	高齢者女
6,707	7,995	9,310	10,894	12,118	13,090	13,345	14,283	14,267	14,158	14,776	15,191	14,574	高齢者男
12.8%	13.9%	15.3%	17.1%	19.1%	22.0%	23.7%	24.9%	23.9%	24.3%	25.8%	28.9%	30.9%	高齢者の割合

13 年	14 年	15 年	16 年	17 年	18 年	19 年	20 年	21 年	22 年	23 年	24 年	25 年	東京都
10,063	10,423	12,842	15,386	17,395	18,166	18,297	17,816	19,955	20,929	19,079	17,915	16,043	認知件数
5,974	5,867	8,397	10,572	12,773	13,475	13,197	11,953	13,495	15,374	13,406	12,589	10,582	検挙件数
6,310	6,296	8,706	10,738	13,173	13,826	13,656	12,695	14,819	16,129	14,668	13,535	11,382	検挙・補導人員
2,686	2,726	3,846	4,650	5,838	6,081	5,997	5,530	5,821	6,206	5,694	5,278	4,633	女
3,624	3,570	4,860	6,088	7,335	7,745	7,659	7,165	8,998	9,922	8,974	8,257	6,749	男
3,493	3,635	5,115	6,258	7,227	7,662	7,317	6,551	7,200	7,923	7,080	7,017	5,915	成人
1,471	1,539	2,149	2,617	3,179	3,402	3,227	2,888	2,921	3,187	2,880	2,830	2,406	成人女
2,022	2,096	2,966	3,641	4,048	4,260	4,090	3,663	4,279	4,736	4,200	4,187	3,509	成人男
55.4%	57.7%	58.8%	58.3%	54.9%	55.4%	53.6%	51.6%	48.6%	49.1%	48.3%	51.8%	52.0%	成人の割合
2,337	2,201	2,652	3,110	3,729	3,459	3,421	3,276	4,509	4,857	4,322	3,197	2,442	少年
952	940	1,211	1,317	1,495	1,300	1,287	1,204	1,324	1,404	1,292	946	755	少年女
1,385	1,261	1,441	1,793	2,234	2,159	2,134	2,072	3,185	3,453	3,030	2,251	1,687	少年男
37.0%	35.0%	30.5%	29.0%	28.3%	25.0%	25.1%	25.8%	30.4%	30.1%	29.5%	23.6%	21.5%	少年の割合
480	460	939	1,370	2,217	2,705	2,918	2,868	3,110	3,348	3,266	3,321	3,025	高齢者
263	247	486	716	1,164	1,379	1,483	1,438	1,576	1,615	1,522	1,502	1,472	高齢者女
217	213	453	654	1,053	1,326	1,435	1,430	1,534	1,733	1,744	1,819	1,553	高齢者男
7.6%	7.3%	10.8%	12.8%	16.8%	19.6%	21.4%	22.6%	21.0%	20.8%	22.3%	24.5%	26.6%	高齢者の割合

件・人

【東京都】



編集後記

先ずは、本報告書の編集という機会を与えていただいた皆様に、とりわけ全国万引犯罪防止機構理事長河上和雄氏、調査研究委員長加藤和裕氏、事務局長福井昂氏に心からお礼の言葉を申し上げたい。この調査は今回で9回目となるが、経年変化を眺めるためには、地道な努力の継続が不可欠である。その努力を続けてこられた機構に敬意を表するものである。

筆者が本調査の編集に加わって、第7回、第8回の報告書は、桜美林大学の坂井昭宏氏、京都大学の児玉聡氏、南山大学の奥田太郎氏を含めた四人の執筆体制であったが、今回は諸般の事情から坂井氏が抜け、三人体制で臨んだ。第1章、第4章を奥田氏、第2章、第3章を児玉氏が担当した。執筆には加わらなかったが、福山平成大学の上村崇氏からは有益なコメントがあり、充実した報告書になったと思う。

これまでのデータの経年変化を眺めてみると、平成24年の第7回調査から質問を単一回答方式に変更して以降、3年間でほとんど回答パターンの変化が見られないのがわかる。また、昨年の第8回調査から取り入れた生活満足度の指標は重要な説明変数となることがわかったが、今年データにおいても解釈内容はほぼ同じとなった。

あまり変わらないという内容は、青少年の回答がかなり模範的なレベルで高止まりしているということである。模範的というのは、万引がよくないとする回答傾向である。これが最近の青少年の規範意識の高まりを示しているかどうかは、本調査のような質問紙法の範囲ではわからない。ただ、背景事実として、青少年人口の減少とともに、人口比でも青少年の非行は減少を続けていることから、それなりにうなずける現象なのであろう。

今回の調査で特記すべきは、満足度による分類（高群、中群、低群）を導入したことにより、多くの設問で回答パターンの特徴を見ることができたことである。その傾向は、満足度が高い群ほど、万引に対する寛容度が低く、家庭や学校に対する信頼を置いていると言えるものである。

万引に対する態度を問うている小中高共通の問1で、小中高すべてにおいて「絶対にやってはいけないこと」と回答（非寛容群）した率は満足度の高中低の順番で低くなっている。特に中高では明確である。また、小中高共通の問6で、「友達の誘いをはっきり断り、万引は犯罪であると注意する」と回答した率も同じパターンである。

保護者の接し方を問うている、小の問7・中高の問10で「子どもが間違っただけをしたらすぐに注意する」を選んだ率は、満足度が高くなるほど高い。これは「子どもとよく話すようにする」を選んだ率と逆転している。この背景には、日頃から保護者とよく話している場合は、「よく話すようにする」を選ぶよりも、「すぐに注意する」という実効的な接し方を選んでいると推測される。

さらに、小の問8・中高の問12では、子どもが万引をしなくなるための効果的な方

法を問うているが、「万引について学校の授業で取り上げる」を満足度高群は多く選んでおり、小中では最も多い選択となっている。

これらの結果は、自分自身に関することがらや生活環境などの満足度が規範意識と高い関係にあることを示している。すなわち、規範意識が高いということが、必ずしもそれだけで成り立つわけではなく、青少年の社会生活全体が満足できる状況にあることも、それぞれが互いに条件になっている可能性がある。

一方で、満足度の解釈の問題も残されている。たとえば、自分の成績については全体に満足度が低いが、それは勉強に対する努力をしていないことからか、努力しても結果につながらないことからか、満足する目標はどのあたりにあるのか、等々、さまざまな疑問が出てくる。7つの項目それぞれに回答者が念頭に置いている満足度の内容を統一的に解釈するのは困難である。満足度による群分けが回答パターンの違いをもたらしているが、解釈を統一的にまとめるためには、より詳細な設問が数多く必要となる。本調査の範囲では各章の解説内容以上に踏み込むことは容易ではない。奥田氏と児玉氏は単なる憶測にならない、ぎりぎりのところで考察を試みている。

心理学的な観点からは、小中高の間 4（子どもが万引をする理由は何だと思いませんか）で、「どきどきして楽しいから」と回答した比率が低くない（小 6.9%、中 13.7%、高 15.9%）ことが気になる。その回答率は問 1 の非寛容群で少し低い、気になるのは生活満足度の高低とは無関係になっている点である。この回答は、万引という犯罪行為をゲーム感覚やストレス発散という側面で眺めていることになる。万引に限らず、逸脱行為の実行に伴う緊張感は誰にでも起こるのであろうが、普通はそれが逸脱行為を抑制する方向に働くと考えられる。しかし逆に、逸脱行為実行時の緊張感が嗜癖となってしまう恐れがあることも注意すべきであろう。

また、性差の問題も興味深い。本調査のさまざまな設問で、男子よりも女子のほうが逸脱行為に対する非寛容度が高いようである。それは実際のデータにもあらわれているように思える。本報告書巻末掲載の全国・東京都万引統計を眺めると、少年の補導人数は男子が女子の 3 倍近い数字になっている。しかし、成年になると男女の数字はずっと近づき、さらに高齢者になると男女間でほとんど違いはない。このような数字を眺めると、青少年から成人そして高齢者と、規範意識や生活満足度の性差はどのように変遷していくのかという興味深い話題になりそうである。

最後になるが、今回の調査を含めて、これまでの 9 回の調査で、延べ 10 万人以上という膨大なデータを得たことを記しておきたい。すべてのデータは万防機構で保管され、必要に応じて再分析が可能な状態になっている。これは貴重な財産である。

瀧川 哲夫
平成 26 年 6 月 3 日

発行にあたって

第9回「万引に関する全国青少年意識調査・分析」を無事に発行できました。

担当いただいた三人の先生方には前回同様、昨年6月の第8回の報告書発行後、同10月以降調査票の内容の見直しから始まり、12月～今年4月の調査票配布・回収・集計・分析と約9ヶ月に亘りご苦勞をいただきました。

青少年の将来を考えながら、家庭教育、教育現場、地域社会の中で、大人たちに考えてほしいと願っておられます。

瀧川哲夫先生、児玉聡先生、奥田太郎先生に心より敬意を表します。有り難うございました。

平成26年6月

特定非営利活動法人全国万引犯罪防止機構

調査研究委員長 加藤 和裕

事務局長 福井 昂

第九回
万引に関する全国青少年意識調査・分析報告書
平成 26 年 6 月発行

特定非営利活動法人 全国万引犯罪防止機構
編集 瀧川哲夫（北海道大学名誉教授）
児玉 聡（京都大学准教授）
奥田太郎（南山大学准教授）

〒160-0004 東京都新宿区四谷 1-2-8 中村ビル
TEL: 03-3355-2322 FAX: 03-3355-2344
URL: <http://www.manboukikou.jp/>